

農学部 農学研究科 年報

令和 6 年度

高崎健康福祉大学農学部
高崎健康福祉大学大学院農学研究科

ご 挨拶

農学部の新設に伴い、教育研究活動を多方面で利用して頂くための記録として発行を始めた年報も今年度で6号になります。令和4年度に設置した大学院農学研究科の活動記録を加えて、農学部・農学研究科年報として発行しています。年報委員会を中心に取りまとめを行い、予定通り6月に発行することができました。

令和6年度は、学部生に88名、博士前期課程に7名の学生が入学しました。特に、令和4年に設置した大学院は、学部卒業生や社会人の受け皿として順調に入学者が増えています。また、学部入試については、少子化の影響が懸念されますが、第1期生、2期生の就職率が全国の国公立私立大学を含めて、2年連続農学系で全国第1位（大学通信調べ、UNIV PRESS NEWS 2024年9月10日号）であったこともあり、受験生の認知度は高まっているように思います。就職率については、今年度の卒業生も、昨年度に引き続き、地方公務員やJA、有名企業など、100%の就職実績をあげることができました。特に、群馬県職員には、学部生3名、大学院生1名、OB1名を含む合計5名が採用され、農業職での採用の凡そ半数が本学農学部出身者という実績を上げることができました。これも、学生の皆さんの日頃の努力と、保護者の皆さまのご協力、また、ご指導いただいた農学部の教職員やキャリアサポートセンターの尽力のたまものと思います。

受験生への広報については、先生方にもご協力いただき、入試広報センターと連携して、高等学校向けのガイダンスや模擬授業などを積極的に行っています。また、広報の一環として農学部のホームページの常時更新と、その紹介のためのQRコード付きのリーフレットを作成し、ガイダンスや模擬授業、オープンキャンパスなど、機会あるごとに配布しました。さらに、昨年度に引き続き、「SDGsで協調する社会—私たちの提案・実践—」をテーマに「高校生論文コンテスト」を行い、全国から345件の応募がありました。また、理系の高校生向けに、「食と農に関わるテーマ」に関わる探求的な学びの発表の場を提供することを目的として、「高校生自由研究コンテスト」を実施し、全国から51件の応募研究があり、大学祭の時に、受賞者の発表会を行いました。

授業に関しては、学部の完成年度にあわせて令和5年度の新入生から、農学部の先生方が、直接、低学年の学生に接する機会を増やし、社会の要請にこたえるために、1、2年生の時期に、専門の基礎的な授業・実験科目やキャリアアップ科目、全学共通の情報リテラシー科目の必修化などのカリキュラム変更を行いました。今年度も引き続き、教育の改善を目的とした、教員の相互授業参観や外部有識者や学生を交えた意見交換会を実施しました。また、本学農学部との国際交流を目的として、イタリアパルマ大学との間で、Memorandum of Understanding (MoU)を締結しました。

地域や大学間の連携に関しては、地域連携室を設け、地域との連携を強化しています。令和6年度は、群馬県や富岡市、JAグループ群馬、群馬県食品工業協会、カネコ種苗、千葉大学園芸学部、宇都宮大学農学部などに加えて、12月に、高崎市と農林業振興に関する連携協定を新たに締結しました。

以上のように、群馬県内唯一の農学部・農学研究科として、地域や関連分野の大学との連携の輪は着実に広がっています。健大の「自利利他」の精神に基づき、地域と連携して、健大の特徴である健康と食、そして福祉に関係した総合科学としての新しい農学の確立と、スマート農業や6次産業化などの情報化社会に適応でき、地域活性化やSDGsなどへの対応を含めて、国際的に活躍できる人材の育成に貢献できればと考えていますので、農学部・農学研究科の教育研究活動へのご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

農学部長・農学研究科長 大政謙次

目次

1. 学部および研究科の概要	1
2. 学生状況	3
3. 各種委員会報告	4
3.1. FD・SD 委員会	4
3.2. 内部質保証会議	5
3.3. 教務委員会	6
3.4. 学生委員会	8
3.5. 入試委員会	9
3.6. 広報委員会	10
3.7. 図書館運営委員会	12
3.8. 動物実験委員会	13
3.9. 遺伝子組換え実験安全委員会	14
3.10. 危機管理委員会	15
3.11. キャリアサポート委員会	16
3.12. 農学インターンシップ実習運営委員会	23
3.13. 保健・衛生委員会	26
3.14. ボランティア・市民活動支援センター（VSC）運営委員会	27
3.15. 地域貢献委員会	28
3.16. 国際交流委員会	29
3.17. 障がい学生支援委員会	30
3.18. スマート農場運営委員会	31
3.19. 地域連携室	33
3.20. 生物生産学科同窓会	36
4. 農学部セミナー	37

5. 個人活動報告.....	40
5.1. 生命科学コース.....	40
外山 吉治（とやま よしはる Yoshiharu Toyama）	40
岡本 健吾（おかもと けんご Kengo Okamoto）	41
藤本 正太（ふじもと しょうた Shota Fujimoto）	42
吉積 毅（よしづみ たけし Takeshi Yoshizumi）	43
加藤 寛（かとう ひろし Hiroshi Katoh）	44
永井 俊匡（ながい としただ Toshitada Nagai）	45
豊田 集（とよだ つどい Tsudoi Toyoda）	46
5.2. 作物園芸システムコース	47
廣瀬 竜郎（ひろせ たつろう Tatsuro Hirose）	47
岡部 繭子（おかべ まゆこ Mayuko Okabe）	48
橋田 庸一（はしだ よういち Yoichi Hashida）	49
石神 靖弘（いしがみ やすひろ Yasuhiro Ishigami）	51
大政 謙次（おおまさ けんじ Kenji Omasa）	52
清水 庸（しみず よう Yo Shimizu）	54
大野 英一（おおの えいいち Eiichi Ono）	55
5.3. フードサイエンスコース	56
松岡 寛樹（まつおか ひろき Hiroki Matsuoka）	56
熊倉 慧（くまくら けい Kei Kumakura）	58
小林 泰斗（こばやし たいと Taito Kobayashi）	60
岡田 早苗（おかだ さなえ Sanae Okada）	61
辻 聡（つじ あきら Akira Tsuji）	63
石岡 大成（いしおか たいせい Taisei Ishioka）	64
松永 安由（まつなが あゆ Ayu Matsunaga）	66

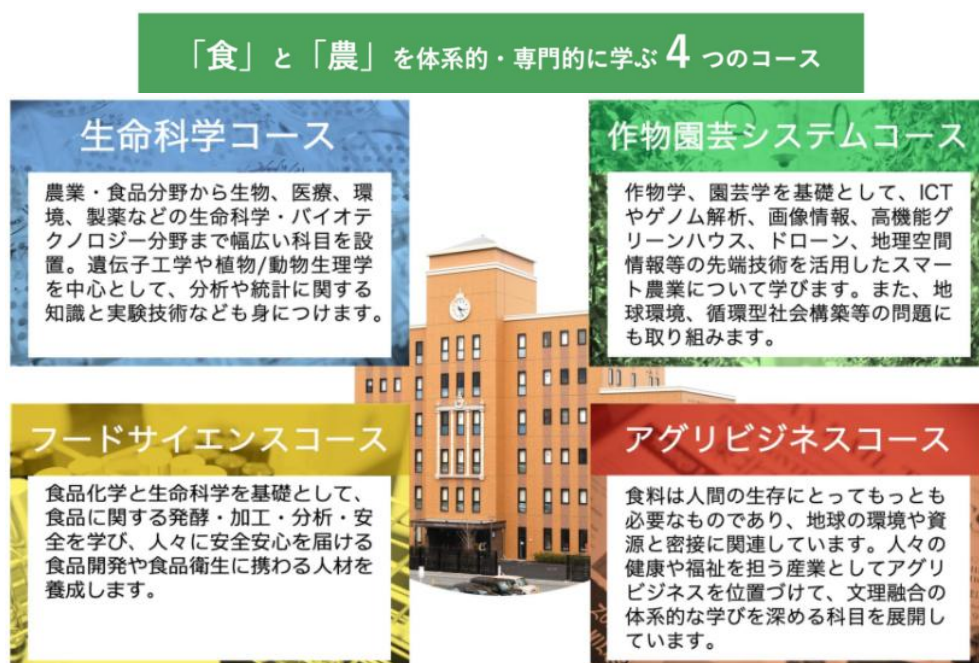
5.4. アグリビジネスコース	67
草苅 仁 (くさかり ひとし Hitoshi Kusakari)	67
齋藤 文信 (Fuminobu Saito)	68
谷 顕子 (たに あきこ Akiko Tani)	69
5.5. 地域連携室	70
倉澤 政則 (くらさわ まさのり Masanori Kurasawa)	70
6. 受賞などのリスト	71
7. 健大通信	72
8. 大学評議員会報告	75
9. 生物生産学科ホームページ News & Topics	85
10. 来訪者リスト	92
11. メディア出演まとめ	93

1. 学部および研究科の概要

農学部の概要

農学部生物生産学科は、「生命科学コース」、「作物園芸システムコース」、「フードサイエンスコース」、「アグリビジネスコース」の4つのコースから構成されている。生命の基礎を学び、食料・食品の生産、開発、流通・販売、ブランディング、マーケティングに至る一連のサイクルを学ぶためのカリキュラムが用意されている。

4年間の教育や研究活動を通じて、「情報化社会をリードし、地域振興に貢献し、国際的に活躍できる人材」を育成します。具体的には、「食」と「農」を体系的に学び、遺伝子工学・細胞工学、ゲノムサイエンス、ICT・ドローン・グリーンハウス等の先端技術を習得し、攻めのスマート農業、食品の安心・安全そして農産物のブランド化・6次産業化、そして製薬や医療、環境問題の解決などに貢献する人材の育成を目指している。



農学研究科の概要

大学院農学研究科は生物生産学専攻の1専攻からなり、令和4年4月に博士前期課程（入学定員4名）と博士後期課程（入学定員2名）が同時に設置された。設置3年目の令和6年度は、博士前期課程に7名の大学院生を受け入れた。

令和5年4月に入学した博士前期課程5名は2年生になり、今年度末に全員が修了し、企業等に就職することとなった。博士後期課程には2名（社会人）が在籍している。また博士前期課程の1年生1名が公務員試験に合格したため中途退学した。

大学院農学研究科では、「人類の健康と福祉に貢献する」という本学建学の理念のもと、食と農の基礎から生産・加工に関わる先端技術、さらには社会実装にいたるまで幅広く学ぶ農学部理念を一層深化・拡充することを目指している。そして、総合科学としての農学の特徴を踏まえつつ、生命科学、作物園芸システム、フードサイエンス、アグリビジネスなどの教育研究を発展的に融合し、SDGsなどの食と農に関わる諸課題に対応するため、学部レベルを超えた最先端の知識・技能を有する高度専門職業人や研究者を養成する。

大学院農学研究科生物生産学専攻の担当教員と教育研究分野は、以下の通りである。

生命科学	基礎生命科学	外山吉治 教授・岡本健吾 准教授
	血液の流動性および食品のテクスチャーを対象としたレオロジー的研究	
	エピジェネティクスによる転写調節機構に関する研究	
	植物生命科学	吉積毅 教授・加藤寛 准教授
	植物細胞の「工場」化による高機能品生産を達成する遺伝子組換え技術の研究開発	
	糸状菌を中心とした植物病原菌の挙動解析及び迅速的検出法の開発	
	動物生命科学	永井俊匡 准教授
	咀嚼の健康効果のメカニズム	
作物園芸システム	食品やその成分が与える生理学的効果	
	作物学	廣瀬竜郎 教授・岡部蘭子 准教授
	イネおよびコンニャクにおける光合成産物の輸送と貯蔵に関する生理・遺伝学的学研究	
	作物の栽培方法および生産物品質に関する基礎的研究	
	園芸学	石神靖弘 准教授
	園芸作物の栽培技術の開発に関する研究	
	園芸作物の環境応答をにもとづく施設内の環境改善および生育予測に関する研究	
	農業情報システム学	大政謙次 教授・清水庸 教授・大野英一 講師
フードサイエンス	衛星観測やGIS、情報ツール等を活用した地球環境・地域資源・SDGs研究	
	ICTや画像情報、ドローンなどを活用した植物環境応答とスマート農業研究	
	食品学	松岡寛樹 教授・熊倉慧 准教授
	漬物加工におけるメタボローム解析および抗高血圧機能に関する研究	
	野菜やきのこの加工における機能性研究及び機能性発現に関与する酵素の分子生物学的研究	
	食品微生物学	岡田早苗 教授
	伝統発酵食品に棲みつく乳酸菌の働きに関する生理学的・生態学的動態に関する研究	
アグリビジネス	食品安全学	石岡大成 准教授
	食中毒起因菌など病原微生物の制御に関する研究および分子疫学的解析に関する研究	
	アグリビジネス	草苺仁 教授・齋藤文信 准教授・谷頭子 講師
	環境・資源・通商政策と持続可能な食料供給・食料消費のあり方に関する研究	
アグリビジネス	フードシステムを構成する各主体の経営戦略、組織間関係及びマーケティングに関する研究	
	家計と食品産業の連携による食品ロス削減に関する研究	

2. 学生状況

今年度4月には88名の1年生が入学し、2年生86名、3年生86名（うち2名が編入生）、そして4年生65名と合わせて、学生数は329名となった。

授業実施について、複数の学科にて共通して開講される教養科目を除き、ほぼ全ての授業が対面方式で実施された。また新入生が参加するフレッシュマンキャンプは、昨年に続き宿泊や飲食込みで草津温泉にて実施された。

令和3年4月入学の農学部3期生は4年生となった。就職を希望する学生全員が官公庁、企業等から内定を得た。また2月に開催した卒業論文発表会において、3年生後期から取り組んできた卒業研究の成果を発表した。3月には学位記授与式がおこなわれ、63名が卒業した。



新入生フレッシュマンキャンプの様子



4年生の農学部学位記授与式の様子



卒業祝賀会の様子

3. 各種委員会報告

3.1. FD・SD 委員会

委員：石神 靖弘

活動内容

1. FD・SD 活動に関する事項

9月13日（FDの日）に「健大のブランド力向上について」のテーマで学科横断型のグループディスカッションを実施し、取りまとめを行った。

大学院FD（2月20日）の実施に協力した。

2. 相互授業参観に関する事項

12月3, 10日の2回にわたって、岡田教授の講義「応用微生物学」を教員が聴講し、事後アンケートを取りまとめた。アンケートの結果、内容・方法が非常に参考になり今後の各人の講義に取り入れていきたいという意見が多かった。

3 その他

令和6年度から組織変更により、FD・自己点検委員会が内部質保証会議とFD・SD委員会に改組となった。FD・SD委員会は、旧委員会が担当していたもののうち、主にFD・SD、相互授業参観、教員マニュアルについて担当する。

3.2. 内部質保証会議

委員：草苺 仁

基準別 WG 委員：永井俊匡、石岡大成、西村英世（教学部）、草苺 仁

学科別 WG 委員：永井俊匡、廣瀬竜郎、石岡大成、門奈みゆき、草苺 仁

活動内容

1. 基準別 WG に関する事項

- 1) 生物生産学科の基準別 WG を組織し、第 1 回会議（2024/04/11）で承認された。自己点検評価において基準 1（理念・目的）を担当する。
- 2) 第 1 回基準別 WG 委員会を開催し、基準 1（理念・目的）に関わる大学基準協会の指摘事項、ならびに各部局から提出された自己点検評価について検討し、全学基準別自己点検 WG 議事録兼報告書（案）を取りまとめた（2024/07/04）。
- 3) 上記 2) の全学基準別自己点検 WG 議事録兼報告書（案）を第 5 回会議（2024/12/12）で報告し、一部修正の上、大学運営協議会（2025/01/16）に提出した。
- 4) 上記 3) について、第 6 回会議で大学運営協議会からの意見が報告され、概ね 1 年を目途に提案事項の実施状況を取りまとめることとした（2025/02/27）。

2. 学科別 WG に関する事項

生物生産学科の学科別 WG を組織し、第 1 回会議（2024/04/11）で承認された。学科別 WG では、「自己点検・評価シート」（基準 1, 4～6）の作成、「3 つのポリシー点検会議」の開催、アセスメント・チェックの取りまとめ、授業評価アンケートの内容と実施方法の検討、農学研究科に関わる事項を担当する。

3. 3 つのポリシー点検会議に関する事項

学部長、学外評価参画者（2 名）、教育改善委員（学生代表 4 名）、内部質保証会議委員・同 WG 委員、教務委員、FD 委員、入試委員、キャリアサポート委員が参加して、「3 つのポリシー点検会議」を開催した。会議において、各委員から 3 つのポリシーに関わる取り組みについて説明があった。その後、主に学外評価参画者と教育改善委員の質疑に答える形で意見を交換した。会議の開催に当たり、コーディネートと司会を学科別 WG 委員が務めた（2024/07/18）。

4. アセスメント・チェックに関する事項

3 つのポリシーの検証を行うアセスメント・チェックについて、令和 6 年度からの新たな方針（アセスメントプラン）（案）が第 4 回会議（2024/10/10）で承認され、内容を大学ホームページに公表した（2024/12/01）。このプランに基づき、3 つのポリシーを、①種々の指標による定量評価、ならびに②3 つのポリシー点検会議による定性評価の両面から検証し、結果を内部質保証会議に提出した（2025/03/07）。

5. 会議・委員会の開催状況

1) 内部質保証会議

- 第 1 回 2024 年 4 月 11 日（木）
- 第 2 回 2024 年 5 月 16 日（木）
- 第 3 回 2024 年 7 月 11 日（木）
- 第 4 回 2024 年 10 月 10 日（木）
- 第 5 回 2024 年 12 月 12 日（木）
- 第 6 回 2025 年 2 月 27 日（木）

2) 基準別 WG 委員会

- 第 1 回 2024 年 7 月 4 日（木）

3.3. 教務委員会

委員：岡本 健吾、藤本 正太、清水 庸、橋田 庸一、松岡 寛樹、辻 聡、草苅 仁

活動内容

1. 履修関連

授業担当教員およびアドバイザー担当教員、農学部事務職員の協力の下、学生の履修状況を把握し、学科会議にて情報共有をおこなうなど、履修が順調に進むよう努めた。4年生を対象に卒業判定および資格認定に関わる資料の確認作業をおこなった。また、来年度の時間割を作成した。

特待生や成績が振るわない学生を対象とした、アドバイザー教員や学部長による個人面談の支援を行った。

退学勧告実施に関わり、具体的な手続きについて話し合った。関連して、学則の変更を全学教務委員会へ依頼した。

2. 各種ガイダンスの開催

各種ガイダンスを企画し、実施した。具体的には在学生ガイダンス（4年生：4月3日午前、3年生：4月3日午後、2年生：4月3日午前）を実施し、履修上の注意点や履修ガイドの訂正などを伝えた。また、新入生ガイダンス、ノートパソコン設定ガイダンスおよびオンライン形式授業の受講前ガイダンスを実施した（4月5日、10日）。2024年度から始まった副専攻プログラムや学修ポートフォリオに関して説明会を開催した。

3. コース選択の手続き

2年生を対象にして後期半ばにコース選択を実施した。2回のコース選択説明会（4月11日；9月10日）、コース希望順位の第1回予備調査（Web回答、4月25日〆切り）、第2回予備調査（Web回答、9月9日〆切り）を実施し、最終調査は紙媒体にてコース希望順位を回答させた（11月11日実施）。その後、内定結果を学生に公表した。

1年生を対象にしてコース配属に関する説明会（10月31日）を開催し、コース選択のルールやスケジュールを伝えた。

4. 履修ガイドおよびシラバスの編集

農学部事務職員の協力の下、履修ガイドの編集作業をおこなった。

次年度版シラバスの作成を教員に依頼し、提出されたシラバスの内容を農学部事務職員と共に確認した。今回の編集作業から、シラバス Web 入稿管理システムが導入された。

5. 全学教務委員会からの情報伝達

全学教務委員会での協議事項および報告事項について、学科会議および教授会などにて農学部教職員へ伝え、必要に応じて協議した。

6. 3つのポリシーについて

7月18日に、学部長、学外評価参画者（2名）、教育改善委員（学生代表4名）、内部質保証会議委員・同WG、教務委員、FD委員、入試委員、キャリアサポート委員が参加して、「3つのポリシー点検会議」を開催した。会議において、教務委員は新旧カリキュラムに関する取り組みについて、旧カリキュラムで顕在化した課題と、その課題をふまえた新カリキュラムの改訂方針を説明した。その後、主に学外評価参画者と教育改善委員の質疑に答える形で意見を交換した。

7. 学部内教務委員会の開催

学部内での教務委員会を開催し、上記の各事項について話し合った。開催日等は以下のとおりである。

第1回 2024年4月25日 第2回 2024年6月20日

第3回	2024年7月18日	第4回	2024年9月19日
第5回	2024年11月28日	第6回	2025年1月16日
第7回	2025年3月13日		

3.4. 学生委員会

委員：岡部 繭子、谷 顕子、辻 聡、豊田 集

活動内容

1. フレッシュマンキャンプに関する事項

2024年4月8日（月）・9日（火）に草津温泉にて新入生86名が参加しフレッシュマンキャンプを行った。引率教員6名、引率補助として3年生9名も参加した。前年度から予算要求し、当日のスケジュール立案等の準備を行った。フレッシュマンキャンプでは各種オリエンテーション、交流のためのレクリエーション、履修登録補助などを実施した。

2. 農学部保護者会に関する事項

2024年6月15日（土）13時から農学部の保護者会を開催した。87名の学生の保証人・保護者（計106名）が参加された。教育課程の内容、インターンシップや就職活動のサポート内容、前年度の就職実績、学生生活の様子や大学院への進学等について説明があった。個別相談には15名の参加があった。

3. 優秀学生表彰に関する事項

学内規定による選考方法にもとづいて、3年生から表彰学生1名を選考した。2024年4月3日（水）の在学生ガイダンス開始前に、学部長から当該学生への表彰式を執り行った。

4. 白衣・作業着の販売に関する事項

希望する1年生を対象として、白衣は2024年4月10日（水）に、実習着は2024年10月28日（月）に、それぞれ試着・販売会を実施した。

5. アドバイザー制度に関する事項

学年進行にあわせて再振分けされるアドバイザー教員の取りまとめを行った。そのうえで、4月には新入生（1年生）と3年生の新アドバイザー教員を、10月には3年生の新アドバイザー教員を、それぞれ学生・教職員へ周知した。

6. 卒業アルバム制作に関する事項

4月に卒業アルバム印刷業者の担当者と打合せを行い、卒業アルバムの制作業務を行った。学年卒業アルバム委員2名と各研究室から2名ずつ選出された卒業アルバム係と協力して、集合写真・個人写真の撮影準備、各研究室のスクラップ作成補助、アルバム校正等を行った。

7. 全学イベントの運営に関する事項

2024年10月12日（土）・13日（日）の私学スポーツ大会、2024年10月19日（土）・20日（日）の大学祭（藤龍祭）、2024年11月2日（土）の体育祭の開催に関して、全学学生委員会の方針にそって運営補助を行った。また、全学学生委員会で検討した学生満足度調査について、2024年12月2日（月）～2025年1月10日（金）の期間に、Google forms を利用した Web 回答形式で実施した。

8. 学友会選挙管理委員会に関する事項

2024年は生物生産学科が学友会選挙管理委員会運営担当として、全学科の学生による学友会選挙管理委員会（選挙管理委員長、副委員長は生物生産学科の学生）を設置し、立候補期間を11月7日～11月13日、投票期間を11月19日～23日とし選挙を実施した。本年は、緊急臨時学生総会による「学友会選挙規則第6条-第3項の変更」後に選挙実施となったため、例年より選挙期間が遅くなったが、学生による Web 投票により、各役職を決定した。

3.5. 入試委員会

委員：廣瀬 竜郎、吉積 毅、齋藤 文信、松永 安由、小林 泰斗

活動内容

1. 令和7年度入学者選抜に関する事項（全学入試委員会と連携）
 - 入学者選抜問題の作成に関する事務
 - 総合型選抜の実施
 - 校推薦型選抜の実施
 - 健大スカラシップ選抜の実施
 - 12月総合型選抜の実施
 - 大学入学共通テストの実施
 - 一般選抜（A日程・B日程）の実施
 - 大学入学共通テスト利用（前期・中期・後期）選抜の実施
 - 大学院農学研究科入学試験問題の作成および試験の実施
2. 令和8年度入学者選抜に関する事項（全学入試委員会と連携）
 - 総合型選抜の定期的な制度見直し
 - 学校推薦型選抜の定期的な制度見直し
 - 大学入学共通テストの定期的な制度見直し
 - 一般選抜の定期的な制度見直し
3. その他
 - オープンキャンパスでの入学者選抜説明・個別相談の対応
 - 広報活動として高校訪問

3.6. 広報委員会

委員：外山 吉治、岡部 繭子、熊倉 慧、谷 顕子

活動内容

1. ホームページに関する事項

本学農学部ホームページの「News&Topics」への記事の投稿の確認及び承認を行い、随時、更新を行った。記事内容はサムネイルにカテゴリーを表示し、お知らせ、学生活動、イベント・入試、地域・研究活動に分けて掲載した。2024年度は23件（2025/03/18時点）の記事を掲載した。

2. 農学部の情報発信に関する事項

2.1 2025 年度版大学案内

2025 年度版大学案内である「大学案内 2026」の農学部紹介ページ作成および農学部教員関連ページに関わる校正作業を行った。今回は掲載ページ数に変更があり（1 ページ削減）、コース紹介に関する掲載について、文字サイズや配置変更を実施した。

2.2 大学入試雑誌のインタビュー対応

リクルート「スタディサプリ」、進研アド「マナビジョン School Program」の在校生紹介ページのインタビューに対応した。

2.3 広報誌「農学事典」への記事掲載

全国の高校生へ向けた広報誌の 1 つである「農学事典」へ記事を掲載するにあたり、文章作成や写真選定など、校正作業を実施した。

2.4 実就職率 2 年連続全国 1 位に関する取材対応

一期生および二期生の実就職率が農学系で全国 1 位（大学通信調べ）となったことに関する、県庁へのプレスリリースを行うとともに、新聞社からの取材対応を行った。

3. 広報イベントに関する事項

3.1 大学進学イベントへの参加

夢ナビライブ 2024 in Autumn での模擬授業（いずれもオンライン）に対応した。農学部からは 1 名の教員が講師として参加した（2024/10/19, 20 齋藤）。

3.2 オープンキャンパスの実施

2024 夏のオープンキャンパスは、7 月 27 日（土）、7 月 28 日（日）、8 月 17 日（土）、8 月 18 日（日）の 4 日間で開催した。4 日間の来場者数（同伴者除く）は、44 名（7/27）、39 名（7/28）、70 名（8/17）、49 名（8/18）で、合計 202 名の高校生が農学部の夏のオープンキャンパスに参加された。当日は、学科説明・入試説明、健大トーク、模擬授業に加えて、自由参加プログラムとして、個別・入試相談、農場ツアー・キャンパスツアー、オープンラボを実施した。

2025 春のオープンキャンパスは 3 月 8 日（土）10:00～15:00 の日程で開催した。今回は 10:00 開始と 13:00 開始の 2 部制にすることで、複数の学科が入退室自由の形式で実施した。農学部への来場者数（同伴者除く）は 28 名であった。

3.3 模擬授業・ガイダンスへの対応

依頼のあった学校（延べ 50 校）に対して模擬授業・ガイダンスを行った。学校所在地別の内訳は、群馬県が延べ 22 校、栃木県が延べ 10 校、埼玉県が延べ 4 校、その他が延べ 14 校（茨城県、長野県、新潟県、千葉県、宮城県、東京都）であった。具体的な依頼先学校は以下のとおりである。

健大高崎高校 (2024/4/17 熊倉)、坂戸高等学校 (2024/5/16 藤本)、伊勢崎興陽高等学校 (2024/5/24 岡部)、小山高等学校 (2024/6/11 熊倉)、佐野東高等学校 (2024/6/18 吉積)、水戸農業高等学校 (2024/6/18 岡部)、安中総合学園 (2024/6/20 外山、岡部、谷)、宇都宮南高等学校 (2024/7/9 外山、岡部、熊倉)、マイナビ進学ライブ (2024/7/17 岡部)、勢多農林高等学校 (2024/7/18 熊倉)、上田西高等学校 (2024/7/26 岡部、熊倉)、野沢南高等学校 (2024/8/2 岡部)、前橋西高等学校 (2024/9/18 岡本)、矢板高等学校 (2024/9/19 岡部、熊倉、谷)、中野西高等学校 (2024/10/22 熊倉)、大宮南高等学校 (2024/10/24 清水)、佐野高等学校 (2024/10/31 石神)、前橋育英高等学校 (2024/11/7 外山)、六日町高等学校 (2024/11/8 豊田)、吾妻中央高等学校 (2024/11/8 岡部、熊倉、谷)、吾妻中央高等学校 (2024/11/13 岡部)、富岡実業高等学校 (2024/11/14 熊倉、小林)、新井高等学校 (2024/11/15 熊倉)、大泉高等学校 (2024/11/15 辻)、健大高崎高等学校 (2024/11/18 岡部)、足利高等学校 (2024/11/20 松岡)、鹿沼南高等学校 (2024/11/20 熊倉)、所沢高等学校 (2024/11/28 吉積)、須坂高等学校 (2024/11/28 岡田)、吾妻中央高等学校 (2024/12/4 熊倉)、前橋南高等学校 (2024/12/5 外山、岡部、熊倉、谷)、佐久平総合技術高等学校 (2024/12/5 谷)、飛鳥未来きずな高等学校 (2024/12/12 谷)、伊勢崎清明高等学校 (2024/12/12 熊倉)、伊勢崎興陽高等学校 (2024/12/13 斎藤、岡部)、新発田農業高等学校 (2024/12/18 橋田)、熊谷農業高等学校 (2024/12/19 外山)、佐野東高等学校 (2025/1/24 熊倉)、伊勢崎興陽高等学校 (2025/1/30 谷)、佐久平総合技術高等学校 (2025/2/6 岡部)、伊勢崎興陽高等学校 (2025/2/12 岡部)、作新学園高等学校 (2025/2/21 外山)、富岡実業高等学校 (2025/2/27 外山、岡部、谷)、中央中等教育学校 (2025/2/27 草薨)、大泉高等学校 (2025/3/6 外山、岡部、谷)、大泉高等学校 (2025/3/12 岡部、熊倉、谷)、新島学園高等学校 (2025/3/14 吉積)、仙台東高等学校 (2025/3/14 熊倉)、那須拓陽高等学校 (2025/3/17 谷)、小平南高等学校 (2025/3/18 吉積)

3.7. 図書館運営委員会

委員：大野英一

活動内容

1. 令和6年度図書館資料費等の決算について

令和6年度予算は、予定通り執行された。

2. 図書館の運用の変更に関する周知など

購読停止候補の洋雑誌、電子ジャーナルタイトルに関する学部内での周知をおこなった。また、推薦図書受付が年2回ではなく、通年となった変更に関して学科会議にて周知をおこなった。

3. 高崎健康福祉大学紀要第24号の発行について

高崎健康福祉大学紀要第24号の発行に向けて、運用の変更に関する討議に参加した。また、査読依頼、原稿受稿可否の判定、および投稿原稿1報の事前審査を行った。

4. 図書館報「藤波」の執筆依頼について

図書館運営より図書館報「藤波」第2巻24号の執筆依頼があり、農学部長の大政謙次先生が巻頭随筆を、「私の薦める1冊の本」をフードサイエンスコースの石岡大成先生が執筆をご担当された。「藤波」は、3月1日付にて発行された。

3.8. 動物実験委員会

委員：岡田 早苗、永井 俊匡

活動内容

1. 動物実験計画書の審査、実施状況の確認に関する事項

本学では、科学的観点、動物福祉の観点、安全確保の観点から、関連法令・指針を踏まえた「高崎健康福祉大学動物実験等の実施に関する規程」（以下、規程とする）を定めている。この規程に則り、本学所属研究者から提出される動物実験計画の審査を、本委員会で行っている。令和6年度は、年度更新を含めて延べ67件の実験計画を審査した。

2. 教育訓練に関する事項

動物実験を本学で実施するために教育訓練を義務付けている。農学部では、生命科学コース3年次の「生命科学特別実験」の授業内にて、教育訓練を実施している。令和6年度は、当該コース3年生19名に対して、授業内での教育訓練を、2024/06/24に実施した。

3. 施設等及び飼養保管状況に関する事項

令和元年度に、農学部棟1階の「農学部実験動物施設」が本学に承認された（承認番号：第3号）。令和2年度には「実験動物施設利用要綱」の承認を、全学動物実験委員会から受けた。そして令和3年度から、施設の利用が本格化している。

令和6年度は、日平均でマウス487匹・ラット4.5匹を飼養し、マウス785匹・ラット22匹を使用した（2025/03/14現在）。動物実験委員はこれらの飼養保管状況を、動物の飼養環境や健康状態を含めて定期的に点検し、施設の管理運営を行った。

4. 自己点検に関する事項

規程では、動物実験の実施状況に関する自己点検・評価を行い、学長へ報告することを定めている。農学部実験動物施設について、動物実験委員長の指示のもとに自己点検作業を進めた。その結果は、全学の動物実験委員会にて取りまとめられ、本学ホームページ（下記URL）にて公開されている。

令和6年度には、全学の動物実験委員会が、過去3年間（令和3年度～5年度）の動物実験実施状況を自己点検し、公益社団法人日本実験動物学会の外部検証を受審した。検証は、2024/05/28に申請し、2024/11/26に訪問調査を受けて2025/03/17に実施証明書を受領した。

5. 情報公開に関する事項

動物実験委員会では、動物実験に関する情報を本学ホームページにて公開している。

<https://www.takasaki-u.ac.jp/guide/research/animal-experiment>

3.9. 遺伝子組換え実験安全委員会

委員：廣瀬 竜郎（副委員長）、岡本 健吾（安全主任）

活動内容

1. 遺伝子組換え実験計画書の審査

本学における遺伝子組換え実験の遵守すべき事項を定め、申請された実験計画の指針に対する適合性の審査、および指導・助言を行っている。本年度は6件の遺伝子組換え実験申請の審査を行い、承認した。また、31件の変更依頼についての手続きを行った。

2. 遺伝子組換え実験従事者講習会の開催

遺伝子組換え実験に従事する者に教育訓練を行い、実験の安全かつ適正な実施をサポートしている。本学において遺伝子組換え実験を行う学生及び教職員に対して、遺伝子組換え実験安全教育を行った（2024/4/3, 2024/11/26）。

3. 遺伝子組換え実験に関する情報の共有化

第15回遺伝子組換え実験安全研修会（全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会）に参加した（2023/7/13）。

3.10. 危機管理委員会

委員：廣瀬竜郎、藤本正太

活動内容

1. 危機管理に関する事項

全学委員会にて、本学の災害・ハラスメント対策を包括した危機管理マニュアルを整備、確認した。

2. 避難訓練に関する事項

2024 年 11 月 14 日（木）11:00 から、地震や火災を想定した避難訓練を実施した。事前準備や避難先での学生の人数確認など、取りまとめ業務を行った。

3. ハラスメント対策に関する事項

新入生ガイダンスにおいて、本学のハラスメント対策について説明を行った。また、年度末に教職員に対し、ハラスメント事例には至らなかったトラブル事例アンケートを実施した。これにより、農学部における教職員や学生間で起こったトラブル事例の把握を行った。

3.11. キャリアサポート委員会

委員：倉澤政則、松岡 寛樹、吉積 毅、大野英一、谷 顕子

活動内容

1. 就職講座

キャリアサポートセンター（CSC）が主催した3年生向け就職講座（オンライン・対面のハイブリット形式）への開催協力を行い、大学院生向け就職講座を企画・開催した。

《3年生向け》木曜4限

前期

月	日	映像№	対面	就職講座テーマ	内容
4	11	1	—	スタートアップガイダンス	CSC 就職講座の概要説明 ・ スタートアップ講座
	18	—	10号館 201	【まずはここから始めてみよう】 スタートアップガイダンス	・ ナビサイトの紹介 ・ 就活スケジュール ・ 面接体験
	18	2	—	自己分析・自己PR 講座	・ 自己分析はなぜ必要か ・ 自己分析をやってみよう（性格検査） ・ 自己PRを書いてみよう
	25	3	—	企業（応募先）研究講座	・ 企業研究の目的 ・ 企業（応募先）研究の方法
	25	—	10号館 201	自己PR講座～実践編～	・ 自己PRを書く理由 ・ 自己PRを書くポイント ・ 自己PRを作成する
5	2	4	—	イベントの歩き方	・ 「おさらい」合同企業説明会とは ・ 会場イベントのポイント ・ WEBイベントのポイント
	9	—	10号館 201	インターンシップ・1Day仕事体験講座	・ インターンシップ、1day仕事体験とは ・ プログラムの探し方
	16	5	—	”ガクチカ”を書いてみよう ※ガクチカ＝学生時代に力をいれたこと	・ ガクチカとは？ ・ 企業がガクチカを聞く理由 ・ ガクチカを書いてみよう
	23	—	10号館 201	自己分析&仕事研究攻略講座	
	23	6	—	エントリーシート講座	・ エントリーシートとは ・ エントリーシートの書き方のコツ ・ リクナビ「OpenES」の使い方
6	6	7	—	公開！！ES添削講座～Aさんのケース～	
	13	8	—	言語・非言語Webテスト 受検講座	・ SPI3ってなに？ ・ 言語・非言語Webテスト特別版を受検しよう
	20	9	—	グループディスカッション講座	・ グループディスカッションとは ・ 企業が見ているポイントと今後の準備
7	4	—	10号館 201	夏休みの過ごし方	・ 現在地を把握しよう ・ これまでの講座を振り返ろう ・ 夏休みに取り組むこと
	4	10	—	夏休み、これだけはやってこう！ ★前期最終回！	・ 自己分析 ・ 応募先研究 ・ 適性検査 ・ エントリーシート ・ インターンシップ／仕事体験 探し方のヒント ・ インターンシップ／仕事体験を最大限活かすために

後期

月	日	映像№	対面	就職講座テーマ	内容
9	26	11	—	後期スタートアップ講座	
10	4	12	—	履歴書の書き方講座	・ 履歴書の記入例を見てみよう ・ 応募書類の送付の仕方を確認してみよう ・ 添削予約をしてみよう
	10	13	10号館 201	自分軸の発見×職場の選択 ～納得いく職場を見つけよう～	・ 「この秋やっておきたい就活準備講座」事前動画視聴 ・ イベント予約を行ってみよう
	17	14	10号館 201	ES添削実践講座	
	24	15	—	志望動機講座	・ 志望動機の基本を学ぼう ・ 自己分析のポイント ・ 志望動機作成における企業研究のポイント ・ 気になる企業は、3つの観点で「情報収集する」 ・ 志望動機作成ワーク
	31	16	—	面接選考準備講座	・ 面接とは ・ 面接の種類 ・ 面接のポイント ・ 評価が上がるor下がる逆質問 ・ 面接で緊張を和らげる方法
11	7	—	10号館 201	就活準備総まとめ講座	
	7	17	—	小論文・作文作成講座	・ 小論文とは ・ 小論文のテーマと出題形式 ・ 小論文・作文の基本的な書き方 ・ 小論文作文の選考に向けた準備のポイント
	14	18	—	就活準備総まとめ講座	
2	6 (3限)	—	10号館 201	直前対策講座	・ 就活本番期の動き ・ 2月末までにやっておきたいこと ・ 行動計画を立てよう



農学部3年生向け就職講座の様子（4月18日）

《大学院生向け》

【農学研究科就職講座①】参加者：11名（10号館207講義室）

日時：2024年4月11日（木）16:00～17:00

内容：「スタートアップ講座」

講師：提携している外部講師

【農学研究科就職講座②】参加者：10名（10号館207講義室）

日時：2024年5月16日（木）16:00～17:00

内容：IS（流れ、選考について）

講師：提携している外部講師

【農学研究科就職講座③】参加者：10名（10号館207講義室）

日時：2024年6月1日（木）16:00～17:00

内容：IS選考（選考、研究内容の書き方について）

講師：提携している外部講師

【農学研究科就職講座④】参加者：10名（10号館207講義室）

日時：2024年9月19日（木）16:00～17:00

内容：業界研究セミナー＋企業研究会

講師：提携している外部講師

2. 「キャリアアップ演習」

(1) キャリアアップ演習I（1年生必科目、後期）

昨年度からの新カリキュラムで「キャリアアップ演習I」がスタートし、今年度が2年目の開講となる。授業の目的として、「社会生活において、適切なマナー、身だしなみ、振る舞いについて自分で考え、行動する力を身に付けること」、「仕事」「働く」ことへ前向きな興味を持つこと」を掲げ、以下のゲストスピーカーを招聘し実施した。

(敬称略)

No.	日程	講義内容	ゲストスピーカー等
1	9月23日	ガイダンスとDVD視聴	—
2	9月30日	マナー講座基礎編	ハローワーク新卒応援
3	10月7日	就職ナビサイトの紹介1	株式会社マイナビ
4	10月21日	就職ナビサイトの紹介2	株式会社キャリアタス
5	10月28日	就職ナビサイトの紹介3	株式会社リクルート
6	11月4日	DVD視聴（仕事ハッケン）	—
7	11月11日	社会人講話（公務員）	群馬県農政部
8	11月18日	就職に役立つ資格紹介（ITパスポート）	（独）情報処理推進機構IT人材育成センター
9	11月25日	マナー講座実践編	ハローワーク新卒応援
10	12月2日	就職に役立つ資格ガイド（文章検基礎編）	公益財団法人 日本漢字能力検定協会

11	12月9日	就職に役立つ資格ガイド（土壤医検定）	株式会社新進
12	12月16日	社会人講話（JICA 海外協力隊）	公益社団法人 青年海外協力協会
13	1月6日	社会人講話（JA）	JA 群馬中央会
14	1月20日	社会人講話（群馬県食品工業協会）	群馬県食品工業協会
15	1月27日	社会人講話（農業法人協会）	一般社団法人 群馬県農業会議

(2) キャリアアップ演習Ⅱ（2年必修科目、前期）

新カリキュラムの中で、昨年度「キャリアアップ演習Ⅰ」の単位を修得した学生を対象に、本年度初めて「キャリアアップ演習Ⅱ」を開講した。

この授業は、低学年から自らの就職や進学について考えるきっかけを作るとともに、3年次からの本格的な就活へ向け「自分らしく働くためのヒント（自己分析、業界・企業研究）を自ら探すこと」、「自分らしさを「文章」「口頭」で根拠をもって説明すること」を目標とし、夏季休暇中に、自分の力で研修先を探し、オープンカンパニー（就活イベント、会社説明会）に参加することを課題として、以下のカリキュラムで開催した。

(敬称略)

No.	日程	講義内容	ゲストスピーカー等
1	4月16日	ガイダンス	本学 CSC
2	4月23日	就職ナビサイトの登録	株式会社マイナビ
3	4月30日	土壤医検定の紹介	株式会社新進
4	5月7日	大学院生による進学説明会について	農学研究科専攻長、大学院生
5	5月14日	就職ナビサイトの登録／マナー講座	株式会社リクルート
6	5月21日	自己分析	株式会社リクルート
7	5月28日	自己 PR 文の作成	株式会社リクルート
8	6月4日	就職に役立つ SPI 講座	TAC 株式会社
9	6月13日	卒業生による就職活動体験談	本学農学部卒業生
10	6月20日	卒業生による就職活動体験談	本学農学部卒業生
夏季休業中		■インターンシップ、仕事体験、オープンカンパニー等への参加 ・自分の力でインターンシップ先を探し、2年生の夏休みに1回以上オープンカンパニー（就活イベント、会社説明会等）に参加すること。 ・複数ヶ所もしくは一ヶ所複数日以上、参加することが望ましい。	



キャリアアップ演習Ⅰ・Ⅱの講義状況

3. 卒業生による農学部就職対策講座

農学部2年生（86名）・3年生（87名）を対象とした「就職対策講座 ～1期生（OB）による就活体験談～」を開催した。今年度は、本学農学部卒業生（1期生）4名（研究職・農業法人・食品産業・公務員）をお招きし、就職活動体験や現在の仕事内容などについての講演、個別相談を実施した。

日時：2024年6月13日（木）20日（木）14：45～16：15

講師（すべて1期生）：

◇研究職：WDB株式会社エウレカ社 真下 理杏 氏／「WDB エウレカ(技術サービス)で働く」

◇農業法人：イオンアグリ創造株式会社 小保形 航大 氏／「自分に合った就活」

◇食品産業：キューピー株式会社 西本 諒多 氏／「内定獲得に向けて取り組んだこと」

◇公務員：群馬県庁 中嶋 俊介 氏／「私の就職活動と現在の仕事」

参加者：6月13日…2年生66名、3年生65名／6月20日…2年生56名、3年生50名

【開催風景 ～講義・個別相談～】



【振り返りアンケート結果（2年生、抜粋）】

- ・就活において、自分軸や自分の強みを知ることが大事だということを知り、バイトや日常生活の中で自分自身についての理解を深めていきたいと思った。
- ・インターンシップや企業説明会は、とりあえず参加するのではなく、目的を持って参加するべきというのが新しい学びだった。また、大学の授業は就職先でもとても役に立つのだとわかった。
- ・場数を多く踏んだ方が良いとアドバイスがあり、やはり、自分から積極的に行動を起こしていく必要があると改めて感じた。
- ・就活では、自分と向き合うことがとても大切だと感じた。将来どうしたいのか？そのために何をすべきか？など、自分が何をやりたいのかを見つけないと、何も始まらないと思った。
- ・今後、資格取得やサークル活動など、戦う武器を少しずつでも増やしていこうと思った。
- ・自分の就きたい職業を早く見つけたいと感じつつ何をすれば良いのかわからずにいたのですが、今回、その段階を知ることができたので、とても助かりました。
- ・公務員試験を受けた方のアドバイスは、今回初めて聞くことができたので、参考になった。公務員は、デスクワークだけでなく、農家さんをアシストしたり、講師としていろいろな場所で研修会を行うなど公務員がどういう職業なのか知ることができた。
- ・今まで、工場勤務では人との関わりが少ないイメージであったが、より効率的で正確な作業のためには、コミュニケーション能力も必要になるとわかった。責任感やコミュニケーション能力はどの業界でも大切であるため、能力向上を目指して大学生活を送りたい。
- ・SPI対策は、早めに始めた方が良かったことがわかった。ESを書いたら、キャリアサポートセンターで添削してもらうことがとても重要だと思った。

4. 合同企業説明会（農学部主催、3年生向け）

本学が連携協定を締結している「群馬県食品工業協会」、および農学部が賛助会員となっている「群馬県農業法人協会」にご協力いただき、群馬県内の食品業関連企業・農業法人・農業関係団体 20 社の合同企業説明会を開催した。各企業の採用担当者による、全体説明会での企業の PR と、各ブースにおける学生との個別面談を実施した。

また、今回、初めて、本学農学部の卒業生 2 名（今春卒業 2 期生、ハナマルキ株式会社、株式会社大利根漬）が、企業側の説明担当者として参加したほか、説明会終了後、参加した企業の採用担当者と意見交換も行った。

日 時：2024 年 11 月 21 日（木）3 限（13:00～16:00）

場 所：全体説明会－10 号館 201 講義室

個別面談会－10 号館 2 階 各講義室（20 ブース）

内 容：食品業関連企業・農業法人・農業関係団体等が参加する合同企業説明会

参加者：3 年生 54 名

＜参加企業・団体＞

（敬称略、五十音順）

No.	会社・団体名	No.	会社・団体名
1	アース環境サービス株式会社	11	正田醤油株式会社
2	あがつま農業協同組合	12	株式会社新進
3	株式会社大利根漬	13	全国農業協同組合連合会 群馬県本部
4	株式会社久保田農場	14	株式会社トマル
5	有限会社グルメフレッシュ・フーズ	15	株式会社ドンレミー
6	ぐんま県央青果株式会社	16	ハナマルキ株式会社
7	農事組合法人 元気ファーム 20	17	榛名酪農業協同組合連合会
8	サンヨー食品株式会社	18	株式会社フリーデン
9	J A 全農ミートフーズ株式会社	19	有限会社妙義ナバファーム
10	下仁田ミート株式会社	20	ロイヤルデリカ株式会社



全体説明会の様子



各ブース



各ブース



5. 学内企業説明会

キャリアサポートセンター等にご協力いただき、学部生・大学院生向け企業説明会を学内で開催した。

【農学部企業説明会①】参加者：71名

内容：農林水産省関東農政局の就職説明会

日時：2024年6月6日（木）14:45～15:45

講師：関東農政局総務部総務課 課長補佐（人事）
関東農政局総務部総務課 人事第1係長

柴 義紀 氏

大寺 信之 氏

【当日の様子】



【農学部企業説明会②】参加者：3年生 8名、修士1年生 2名

内容：WDB 株式会社エウレカ社の説明会

日時：2024年1月11日（木）13:00～13:40／13:50～14:30 場所：10号館 202 講義室

6. CSC キャリアアップ講座

農学部キャリアアップ講座を、キャリアサポートセンターと連携して開催した。今年度は、ユーグレナの研究開発から発展して、酒造会社や宇宙をテーマとした研究開発を目指す会社の取締役など様々な分野でマルチに活躍する鈴木健吾氏を講師として迎え実施した。

日 時：令和6年10月24日（木）3限（13:00～14:30）

演 題：「ユーグレナの研究開発と社会実装について」

講 師：鈴木健吾氏 （株）ユーグレナ 共同創業者 兼 エグゼクティブフェロー

参加者：学生 61名



鈴木 健吾 氏

ユーグレナの研究開発と社会実装について

現 職 株式会社ユーグレナ 共同創業者 兼 エグゼクティブフェロー
職 歴 平成17年 株式会社ユーグレナ創業
令和 5年 理化学研究所薬類資源アップサイクル研究チーム チームリーダー
令和 5年 津南醸造株式会社 代表取締役
令和 6年 スペースシードホールディングス株式会社 代表取締役



キャリアアップ講座の様子

7. 卒業生の進路

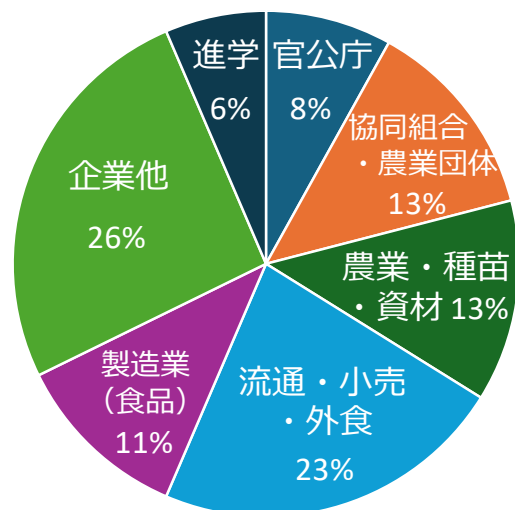
(1) 学部生

2025年3月卒業生（63名）の進路は以下のとおりである。就職希望者（58名）の内定率は100%であった。

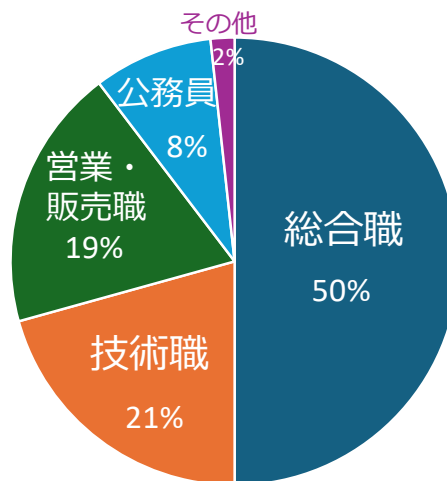
業種	内定先
官公庁	群馬県3名／群馬県教育委員会／南魚沼市
協同組合・農業団体	全国農業協同組合連合会新潟県本部／邑楽館林農業協同組合／あさか野農業協同組合／足利市農業協同組合／常陸農業協同組合／松本ハイランド農業協同組合／上伊那農業協同組合／新潟県土地改良事業団体連合会
農業・種苗・資材	株式会社林牧場／株式会社トマル／嶋屋種苗株式会社／株式会社グリーンテック／株式会社林農園／実家で就農3名
流通・小売・外食	株式会社ベイシア／株式会社ヤマダデンキ／株式会社とりせん／株式会社ベルク／株式会社ジョイフル本田2名／株式会社アイスコ／アークランズ株式会社／株式会社クスリのアオキ／アートバンライン株式会社／株式会社アジュバンホールディングス2名／株式会社外林／株式会社ツルハホールディングス
製造業（食品）	株式会社田村屋／株式会社原田／株式会社きのした／キューピータマゴ株式会社／サンヨー食品株式会社／J A全農ミートフーズ株式会社／株式会社日本デリカサービス
企業他	高崎信用金庫／ALSOK 群馬株式会社／株式会社ミツバ／株式会社日立システムズパワーサービス／CLINKS 株式会社／株式会社 IDOM／アース環境サービス株式会社／株式会社シー・アイ・シーグループ本社／株式会社太平洋クラブ／株式会社東日本地所／株式会社 AQ Group／株式会社ジョイパック／セントラルエンジニアリング株式会社／株式会社テムコ／株式会社キャン／株式会社ワールドインテック
進学	宇都宮大学大学院地域創生科学研究科／山梨大学大学院生命環境学専攻／横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科／Auckland English Academy（留学）

就職内定率100%

（就職希望者58名、進学希望者4名）



就職先の職種別割合（計58名）



(2) 大学院生

2025年3月修了生（5名）の内定先は以下のとおりである。就職希望者（5名）の内定率は100%であった。

内定先
正田醤油株式会社／WDB 株式会社エウレカ社／株式会社ベイシア／獣医医療開発株式会社／コーセーインダストリーズ株式会社

3.12. 農学インターンシップ実習運営委員会

委員：松岡 寛樹、倉澤 政則、齋藤 文信、岡部 繭子、加藤 寛、熊倉 慧、岡本 健吾

活動内容

(目標)

3 年次に開講する「農学インターンシップ」は、学生が就業体験を通して自らの適性や将来設計について考えさせる機会となる。実習および事前事後学修を通じて、学習意欲および職業意識を高め、実際の就職活動や就職後に必須となる実務能力を向上させることを目標としている。

(履修登録前事前準備)

今年度より、農学インターンシップ実習履修予定者は前年度の実習報告会への参加を義務づけた。また、就職講座と日程が重なることから、授業開始前に実習概要の説明を行った。

2024/3/3 実習報告会

2024/4/11 概要説明

(履修登録後、実習先の選定)

本年度の履修登録者数は履修登録者数 62 名（内 1 名は前年度参加者）であった。表に示したように、受け入れ先の団体数は公設試も含め 48 団体であり、うち学生による自己開拓が 4 団体であった。本実習初のシンガポールでの長期実習も加わった。

(実習期間)

8 月上旬から 12 月中旬までが実習期間となった。学生は学校指定の実習ノートを持参し、日々の活動記録を記入、実習先の担当者のチェックを終えてから、業務を終了させる。実習終了後は、学生は礼状をメール等で送付、実習先は評価シートを大学に送付し、実習が完了する。

(実習報告会)

12/19 に報告会に向けての事前説明会を行った。本年度は口頭発表形式で行った。

(一年間のタイムスケジュール)

2024/4/11 ガイダンス（実習先選定方法と時期の説明）

5/2 14:45～16:15 第 1 回民間企業 PR 会（群馬県食品工業協会、JA 群馬中央会）

場所：10 号館 201 講義室

参加者：学生 59 名



(5 月 2 日の様子)

5/16 14:45～16:15 第 2 回民間企業 PR 会（タマムラデリカ、アイメック RD、グリーンリーフ）

場所：10 号館 201 講義室

参加者：学生 56 名



(5 月 16 日の様子)

5/30 14:45～16:15 第3回民間企業PR会（一般財団法人日本醤油技術センター、全農ミートフーズ、GN ホールディング、環境技研）

場所：10号館201講義室

参加者：学生62名



（5月30日の様子）

8/3 実習開始（8/3～1/31）

12/19 インターンシップ実習報告会事前説明会

2025/3/3 実習報告会

専門共通科目「農学インターンシップ」を受講した3年生が実習先での活動内容などを紹介するため、令和6年度農学インターンシップ実習報告会を実施した。今年度は農業法人や食品メーカー、公的機関、JA、海外法人など49の企業・団体が受講生を受け入れた。来年度インターンシップを受ける2年生のほか、専門教養科目「キャリアアップ演習Ⅰ」の延長として1年生が聴講した。また受け入れ先の企業関係者、そして農学部教員も聴講しました。受講生全員が壇上に上がり、代表者が口頭発表しました。教員や下級生からの質問には、受講生全員で答えました。

3年生にとって、実際の企業・団体での就業体験を通じ、仕事や業界、社会への理解と関心を高める機会となりました。2年生にとっては来年度のインターンシップに向けて情報を入手する良い機会となり、1年生は上級生の取り組みを知ることができました。

日時：令和7年3月3日（月）13:00～15:30

場所：農学部10号館202・203講義室

参加者数：学生126名（3年生61名、2年生45名、1年生20名）、教員8名、10の企業関係者13名



口頭発表の様子

（まとめ）

本年度は、初の海外実習もあったが、大きなトラブルはなく実習を行う事ができた。しかしながら、実習中の私語、実習中の熱中症対策、通勤時の自動車事故もあり、例年には見られない事案も発生し、次年度に向けて対応を検討する必要がある。

令和6年度の実習受け入れ先および受け入れ人数

	実習先	実習期間	実習学生数
公務員	佐久市役所	10/7-10/11	1
	群馬県農政部	9/2-9/6	1
農協	JA全農ミートフーズ株式会社	10/7-10/11	1
	あがつま農業協同組合	8/12-14, 16, 19, 20	4
	高崎市農業協同組合	9/19-9/20, 9/30-10/2	4
	佐波伊勢崎農業協同組合	8/26-9/6	2
	新田みどり農業協同組合（JAにったみどり）	10/21-10/25	3
	榛名酪農業協同組合連合会	9/2-9/6	2
	前橋市農業協同組合	10/21-10/25	2
	邑楽館林農業協同組合	9/2-9/3, 9/5-9/7	5
民間企業	株式会社いちご畑・いちご畑花園	8/19-23	3
	株式会社いちごの里ファーム	9/9-9/13	2
	中森農産	10/23-10/	1
	有限会社ファームクラブ	8/19-8/30	6
	株式会社エバーグリーン富士見	8/26-8/30	2
	榛名めん羊牧場	8/26-8/30	2
	(有)ビクトリー	12/9-12/13	1
	株式会社ファーマーズトラスト	11/18-11/22	2
	ぶどうの木	9/14-9/17	2
	株式会社井上寅雄農園	9/2-9/6	4
	(株)群馬県食肉卸売市場	9/30-10/4	4
	グリーンリーフ株式会社	9/9-13, 16-20	2
	カネコ種苗株式会社	9/9-9/13	2
	がってん野菜合同会社	11/5-11/9	2
	GNホールディングス株式会社	12/4-12/10	3
	群馬包装トーフ	9/16-21	2
	美峰酒類株式会社	9/2-9/6	2
	タムムラデリカ株式会社	8/19-8/23	5
	有限会社グルメフレッシュ・フーズ	8/26-8/30	1
	株式会社 新進	9/9-9/13	5
	高崎弁当株式会社	8/13-8/17	2
	株式会社みまつ食品	9/9-9/13	3
	上毛食品工業株式会社	9/9-9/13	1
	株式会社旅がらす本舗清月堂	10/21-10/25	3
	ハナマルキ株式会社	9/24-9/27, 9/30	4
	鞠たむらや	10/28-11/1	5
	株式会社大和根漬	10/7-10/11	3
	藤田ソリューションパートナーズ株式会社	11/18-11/22	1
	株式会社環境技研	8/19-8/23	2
	株式会社アイメックRD	11/29-12/3	3
財団法人	(一財)日本醤油技術センター	9/9-9/13	2
	公益財団法人群馬県健康づくり財団	8/19-8/23	3
	一般財団法人 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター	8/26-8/30	3
自己開拓	上州ラーメン	8/1-8/31	1
	ヤオコー	9/3-9/7	1
	株式会社川長	9/2-9/13	1
	ノースヒルfujjoka	9/27~10/20	1
海外	Flagship Global Pte Ltd	11/2-1/31	1

3.13. 保健・衛生委員会

委員：外山 吉治、石岡 大成

活動内容

農学部保健・衛生委員会として、全学共通部分（感染症部会と禁煙部会）と農学部固有部分とに分けて活動した。

1. 全学共通事項

1.1. 感染症部会

新型コロナウイルスに感染したことが判明した学生および教職員については、入構することで危惧されるクラスター発生を予防するために、昨年度から引き続き Google フォームを利用した専用サイトから症状、行動履歴等について報告してもらった

1.2. 禁煙部会

2018 年 7 月に改正施行された健康増進法に準じ、2019 年 7 月より、本学キャンパス内が禁煙地区となり、2020 年 4 月から屋内も禁煙となった。このことにより、キャンパス内および近隣地区は例外なく禁煙区域となった。この方針を受けて 2024 年度も引き続き喫煙者ゼロを目指した禁煙チラシおよびポスターを作製して広報活動を行った。これらの取り組みにより、キャンパスで内の禁煙に関して学生等に周知されたものと考えられる。

2. 農学部内固有事項

農学部はカリキュラムの特質上、屋外での田畑作業やグリーンハウス内での果菜類の摘果などの作業（農業実習）が実施される。その際に、土壌中に存在することがある破傷風菌などによる致死性の高い感染症やスズメバチなどの昆虫による被害（アナフィラキシーショック）など、命にかかわる危険性に晒されることが危惧される。そこで、実習や卒業研究に伴うこれらの危険から学生の安全性を確保するために、以下のことを実施した。

2.1. 破傷風感染対策として

破傷風はワクチン接種により防ぐことが可能な感染症である。本ワクチンは小児の予防接種として実施されている三種または四種混合ワクチンに含まれ、直近で破傷風ワクチンの接種を受けるのは、通常であれば 10 歳前後に接種を受ける DT ワクチンであると考えられる。破傷風ワクチンの有効年数はおよそ 10 年と報告されていることから、最後に破傷風ワクチンの接種を受けた時期を把握することは重要である。そこで、破傷風の予防接種実施に先立ち、保護者または母子手帳によるワクチン接種歴の確認をお願いした。これらの記録を基に接種の希望調査を実施し、希望した 1 年生に対し破傷風ワクチン接種を実施した（2024/12/02）。

2.2. ハチ刺されによるアナフィラキシーショック対策として

ハチ刺されによるアナフィラキシーショックは、過去にハチに刺されたことがある者が再度ハチに刺されることにより発症する危険性の高いショックである。したがって、過去にハチに刺されたか否かを知ることが重要なことであり、その判定には抗体検査が有効であることから、定期健康診断で実施している血液検査の一環として本抗体検査を実施した。

2.3. 破傷風ワクチン接種とハチ蜂抗体検査についての講義

アナフィラキシーショックやトキソイドワクチン接種についての重要性を学生に知ってもらうために、生物生産学概論 B の講義時を利用して石岡准教授がワクチン接種と抗体検査の必要性について説明をした（2024/10/15）。

3.14. ボランティア・市民活動支援センター（VSC）運営委員会

委員：橋田 庸一、豊田 集

活動内容

1. VSC 運営に関する事項

運営委員会（計 11 回）に出席した。

2. 学生支援・コーディネートに関する事項

学生の専門性に合わせたボランティア活動の支援を行った。活動内容は以下の通りである。

① 梨の袋掛け

- ・日 時：2024 年 6 月 1 日 9:00～15:00
- ・参加者：学生 12 名（うち生物生産学科 9 名）、引率教職員 1 名（VSC 吉澤）
- ・活動場所：悴田梨園（高崎市下里見町）

② 梨の樹の下の除草作業

- ・日 時：2024 年 8 月 3 日・6 日 7:30～9:00
- ・参加者：学生 13 名（すべて生物生産学科）、引率教職員 1 名（VSC 吉澤）
- ・活動場所：悴田梨園（高崎市下里見町）

③ 白小豆の収穫・脱穀

- ・日 時：2024 年 11 月 9 日 10:00～15:00
- ・参加者：学生 18 名（うち生物生産学科 16 名）、引率教職員 1 名（豊田）
- ・活動場所：(株)虎屋 群馬農場・契約農家の畑（昭和村）

④ 国分になじんの収穫作業

- ・日 時：2024 年 12 月 21 日 9:30～12:30
- ・参加者：学生 4 名（すべて生物生産学科）、引率教職員 2 名（橋田、VSC 吉澤）
- ・活動場所：国府野菜本舗（高崎市引間町）

⑤ 梨の枝拾い

- ・日 時：2025 年 3 月 1 日 10:00～15:00
- ・参加者：学生 2 名（すべて生物生産学科）、引率教職員 1 名（VSC 吉澤）
- ・活動場所：悴田梨園（高崎市下里見町）

⑥ 梨の木の皮削り

- ・日 時：2025 年 3 月 4 日 10:00～12:00
- ・参加者：学生 3 名（すべて生物生産学科）、引率教職員 1 名（橋田）
- ・活動場所：悴田梨園（高崎市下里見町）

3.15. 地域貢献委員会

委員：倉澤政則、小林 泰斗、藤本 正太

活動内容

地域貢献部会

1. 高崎健康福祉大学公開講座（ぐんま県民カレッジ連携講座、一般県民対象）

全学地域貢献部会が中心となって、毎年テーマを変えて一般県民向けの公開講座を開催している。本年度は、『人生100年時代における高齢者介護の「これから」』をテーマとして開催した。

- ・ 日時：令和7年2月9日（日）13：30～16：10
- ・ 場所：本学6号館 101 講義室
- ・ 参加者：41名

2. 健大こども大学（県内小学生対象）

本年度初めて、全学で学科毎にテーマを決めて、小学生のための職業体験プログラムとして「健大こども大学」を開催した。農学部では、生命科学コースが担当して「目指せ未来の研究者」というプログラムで実施した。

- ・ 日時：令和7年3月2日（日）9：40～12：00
- ・ 場所：本学10号館 学生実験室（基礎）
- ・ 参加者：小学生12名、保護者12名、幼児1名

高大連携部会

1. 令和6年度高崎健康福祉大学パートナーシップ・プログラム（附属高校対象）

基礎生命科学、生命工学、植物生命科学、動物生命科学、作物学、園芸学、農業情報システム学、食品学、食品微生物学、食品安全学、アグリビジネスの各領域が体験学習を企画した。本年度は、農業情報システム学の「ドローンの操縦を学ぼう」と基礎生命科学の「光る細胞を観察しよう」の2テーマが選択され、6名（2年生5名、1年生1名）の学生に対して実習を行った。

2. 令和6年度高崎健康福祉大学広げる未来プロジェクト（近隣高校対象）

基礎生命科学、生命工学、植物生命科学、動物生命科学、作物学、園芸学、農業情報システム学、食品学、食品微生物学、食品安全学、アグリビジネスの各領域が体験学習を企画した。本年度は、食品安全学の「食器がきれいに洗浄できているか確認してみよう」が選択され、3名の学生に対して実習を行った。

3. 令和6年度理科スクール（近隣中高生対象）

理科や科学技術に興味を持ち、学びに向かう力を育成するために、近隣の中学校の生徒さんを対象とした理科の実験イベントを実施した。本年度は、食品学の「いろいろなゲル化剤を使ってゼリーを作ってみよう」のテーマで11名（中学2年生1名、1年生1名、高校2年生7名、1年生1名）の学生に対して実習を行った。

公開授業

1. 令和6年度公開授業

令和6年11月4日（月）の祝日に高校生を対象とした公開授業を行った。農学部には2名の高校生が来学し、希望する授業を受けた。

3.16. 国際交流委員会

委員：齋藤 文信、大野 英一

活動内容

1. 運営委員会での活動

農学部との国際交流連携先としてイタリア、パルマ大学が候補となった。Department of Food and Drug, the University of Parma とのオンラインミーティング(4/3)をおこない、また、対面での会議 (6/12)もおこなった。なお、本学とパルマ大学の間で、Memorandum of Understanding (MoU)が結ばれた。これらを踏まえ、今後の活動について検討をおこなっている。

2. 学生のグローバル化に関する事項

2.1 海外研修

ホーチミン医科薬科大学派遣プログラム（ベトナム）に生物生産学科からの参加者があった。

2.2 留学生受入れ

さくらサイエンスプログラムに採択された「食と医薬の連鎖」の一環として、ホーチミン市医科薬科大学所属のベトナム人学生8名、引率者1名の訪問を受け入れた。石神准教授による特別講義「水耕栽培の紹介」、本学スマートファームの視察(10/22)、カネコ種苗の視察(10/22)、大野講師による特別講義「スマート農業とドローン」(10/22)、岡田教授による特別講義「栄養と健康における乳酸菌、マイクロバイオームの役割について」(10/24)がおこなわれた。

3.17. 障がい学生支援委員会

委員：石神 靖弘、松永 安由

活動内容

1. 全学障がい学生支援委員会への参加

全学障がい学生支援委員会（11 回開催）での協議事項および報告事項について、必要に応じて教授会などで農学部教員へ伝達し、協議した。2024 年度から私立大学でも合理的配慮が義務化され、生物生産学科は FD 担当のワーキンググループに所属し、2024 年 12 月 10 日に「合理的配慮に関する SD 研修会」の開催について WG が中心となって準備を進めた。

2. 今後について

農学部において、支援を要する学生がいる場合は、全学障がい学生支援委員会で決められたプロセスに則り、支援の申請から実施に至るまでを行う。これらの一連の手順などは、教授会にて農学部教員へ周知した。また、当委員会を通じて学生支援を行う際は、当委員会の教員と関係する教職員が連携してサポートを行う。

3.18. スマート農場運営委員会

委員：大政 謙次、廣瀬 竜郎、清水 庸、吉積 毅、石神 靖弘、岡部 繭子、大野 英一、橋田 庸一

活動内容

1. 高崎健康福祉大学農学部スマート農場運営委員会規定

農学部に設置された農場（以下、「スマート農場」という）の効率的な管理・運営ならびに利用促進を図ることを目的とする。

2. 高崎健康福祉大学農学部スマート農場の利用促進に係る細則

（参考資料）

令和6年度前期 作物園芸実習Ⅰカレンダー

回数	期 日	作業内容（予定）	担当研究室
1	4月17日	ジャガイモ植え付け	作物・園芸
2	4月24日	ナス定植	園芸
-	5月1日	（予備日）	
3	5月8日	温室説明・見学	園芸
4	5月15日	サツマイモ植え付け	作物
5	5月22日	農業情報の統計解析 ①	情報
6	5月29日	農業情報の統計解析 ②	情報
7	6月5日	スマート農業実習①	情報
8	6月12日	ナス栽培管理	園芸
9	6月19日	ジャガイモ収穫	作物
10	6月26日	スマート農業実習②	情報
11	7月3日	イネ田植え	作物
12	7月10日	ナス収穫	園芸
-	7月17日	（予備日）	
-	7月24日	（予備日）	

令和6年度後期 作物園芸実習Ⅱカレンダー

回数	期 日	作業内容（予定）	担当研究室
1	9月25日	ダイコン・ホウレンソウ播種と準備	園芸
2	10月2日	農業情報の統計解析 ①	情報
3	10月9日	農業情報の統計解析 ②	情報
4	10月16日	イネ収穫	作物
5	10月23日	ダイコン・ホウレンソウ間引き	園芸
6	10月30日	サツマイモ収穫	作物
7	11月6日	イネ収量調査①	作物
8	11月13日	WebGIS/WebRS①	情報
9	11月20日	天候不良のため翌週に延期（予備日）	園芸
10	11月27日	ダイコン・ホウレンソウ収穫①	園芸
11	12月4日	イネ収量調査②	作物
12	12月11日	WebGIS/WebRS②	情報
-	12月18日	ダイコン・ホウレンソウ収穫②	園芸
-	1月8日	予備日	
-	1月15日	予備日	



イネ刈りの様子



ホウレンソウ・ダイコンの播種

3.19. 地域連携室

室長：倉澤政則

活動内容

1. 地域連携協定締結

高崎市と高崎健康福祉大学との農林業振興の連携に関する協定を締結した。

【目的・内容】

高崎市、本学それぞれの有する人的・物的資源を有効に活用することにより、高崎市における農林業振興と、本学における教育・研究の充実及び地域貢献に寄与することを目的とする。

目的達成のため、農林業を担う人材の育成・交流や、農林業における技術的な課題解決のための研究等について、相互に連携して取り組む。

【締結式】 日 時：令和6年12月12日（水）16時～

会 場：高崎市役所 市長応接室

出席者：高崎市一市長・農政部長・農林課長・農政担当

本 学一学長・農学部長・農学部地域連携室長

高崎市と高崎健康福祉大学との農林業振興の連携に関する協定書	
高崎市（以下「甲」という。）と高崎健康福祉大学（以下「乙」という。）は、次のとおり連携協定（以下「本協定」という。）を締結する。	（守秘義務） 第5条 甲及び乙は、本協定に基づく事業の実施において知り得た秘密事項について、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、第三者に開示又は漏洩してはならない。また、本協定の目的外に利用してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。
（目的） 第1条 本協定は、甲及び乙が、それぞれの有する人的・物的資源を有効に活用した協働により、甲における農林業振興と乙における教育・研究の充実及び地域貢献に寄与することを目的とする。	（細則） 第6条 本協定に定めのない事項又は本協定の定める事項に疑義が生じたときは、その都度甲乙協議の上、決定するものとする。
（連携事項） 第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携し、取り組むものとする。 （1）農業及び林業を担う人材の育成・交流に関すること （2）農地及び森林の有効活用に関すること （3）農業及び林業を通じた環境保全活動に関すること （4）農業及び林業における技術的な課題解決のための研究に関すること （5）農業及び林業技術についての情報連携、意見交換に関すること （6）その他、本協定の目的の達成に資すること 2 甲及び乙は、前項各号に定める連携事項の具体的な取組内容及び実施方法について、甲乙協議の上、決定するものとする。 3 甲及び乙は、第1項各号に定める連携事項を効果的に推進するため、適宜協議を行うものとする。	本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、それぞれ各1通を保有する。
（協定内容の変更） 第3条 甲又は乙のいずれかが、本協定の内容について変更を申し出たときは、その都度甲乙協議の上、必要な変更を行うものとする。	令和6年12月12日
（有効期間） 第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、本協定の有効期間満了日の1か月前までに、甲又は乙から相手方に対する書面による特段の意思表示がないときは、本協定の有効期間を期間満了日から1年間更新されるものとし、以降も同様とする。	甲 高崎市高松町35番地1 高崎市 高崎市長 富岡 賢 乙 高崎市中大瀬町37番地1 高崎健康福祉大学 学長 石田 朋

2. 主な連携調整

連携協定締結に加えて、地域との連携に関する調整を行った。主なものは、以下の通り。

- ・本学農学部との地域貢献・連携状況のとりまとめ
- ・群馬県との連携調整

（ナスの品質高位安定化、ベニバナインゲンの生産安定、やまさと応縁隊、キャリアアップ演習、農学インターンシップ実習、六次産業化実習、農学部セミナー、卒業研究テーマの共有、各種審議会・委員会 等）

- ・市町村・関係団体等との連携調整

（高崎市、中之条町、神流川森林組合、JA中央会、JA全農群馬県本部、JA赤城たちばな、JAたかさき、JA佐波伊勢崎、群馬県食品工業協会、群馬県農業法人協会、群馬県土地改良事業団体連合会、群馬用水土地改良区、NOSA I 群馬、群馬県農業会議、全国農業会議所、全国学校農場協会 等）



ナス機能性試験連携チーム
(群馬県、本学教員・学生：農場にて)

3. 地域連携のための団体訪問・来訪

地域連携の促進及び本学農学部の特典のため、群馬県、市町村、JAグループ等関係団体を訪問し、情報共有・意見交換を行った。

【県・市町村】

群馬県農政部・環境森林部、中部農業事務所、西部農業事務所、吾妻農業事務所、利根沼田農業事務所、東部農業事務所、農業技術センター、水産試験場、蚕糸技術センター、鳥獣被害対策支援センター、藤岡森林事務所、高崎市、沼田市、東吾妻町、中之条町、みなかみ町、昭和村、川場村、片品村、神流町

【高校・農業関係団体等】

勢多農林高校、吾妻中央高校、群馬県教育研究センターJA群馬中央会、JA全農群馬県本部、JA赤城たちばな、JA前橋市、JA佐波伊勢崎、JAたかさき、JAあがつま、JA利根沼田、群馬県農業公社、群馬県農業会議、NOSA I 群馬、群馬県土地改良事業団体連合会、神流川森林組合、GNホールディングス

4. 地域連携に関する講演等

- ・「気象から見た群馬県農業～天地人で地域農業を盛り上げる～」
令和6年度渋川地区新規就農者の集い 2024/07/11 渋川合同庁舎（渋川市）
- ・「議会における質問を考える～みなかみ町を盛り上げるために～」
みなかみ議会研修会 2024/09/20 みなかみ町役場
- ・「群馬県農業・農村の振興と土地改良事業」
令和6年度土地改良区等役員研修会 2024/11/08 ホテル木暮（渋川市）
- ・「群馬県農業のポテンシャルと課題～地域農業を支える皆さんへの期待～」
JA 佐波伊勢崎 中堅職員人材育成研修会 2025/01/08 JA 佐波伊勢崎（伊勢崎市）
- ・「近年の気象から見た農業～天地人で目指す農業を実現する～」
令和6年度就農支援セミナー 2025/02/05 群馬県立農林大学校(高崎市)
- ・「気象から見た群馬県農業～天地人で地域農業を盛り上げる～」
中之条町認定農業者協議会研修会 2025/03/04 四万やまぐち館（中之条町）

5. その他執筆等

- ・「健大通信」（2025 春号） 学科トピックス（高崎市との連携協定締結）

高崎健康福祉大学農学部関係 協定締結一覧

◆締結数：１１件 ◇内訳：県・市町村－３、関係団体－２、企業－２、高校・大学－４

令和７年３月現在

NO	締結先	協 定 名 / 目 的	締結時期
1	群馬県	群馬県における農業振興及び６次産業化の推進に関する連携協定 農業振興及び６次産業化推進に係る技術の発展、技術的課題の解決とそれに基づいた地域貢献を図る	令和１年９月２日
2	J A グループ群馬	高崎健康福祉大学と J A グループ群馬との相互連携協力の推進に係る協定書 農業振興及び地域社会の活性化と地域社会で活躍できる次世代型人材の育成	令和２年６月２５日
3	太陽誘電株式会社	高崎健康福祉大学農学部、カネコ種苗株式会社及び太陽誘電株式会社の連携に関する協定書	令和２年１１月２０日
4	カネコ種苗株式会社	研究開発、地域産業振興、学術研究の活性化、教育及び人材育成等で連携し、科学技術の振興及び社会発展に寄与	
5	群馬県食品工業協会	高崎健康福祉大学と群馬県食品工業会との相互連携協力の推進に係る協定書 食品工業等の振興及び地域社会の活性化と地域で活躍できる次世代型人材の育成	令和３年４月８日
6	国立大学法人千葉大学大学院・環境健康フィールド科学センター	教育・研究・社会貢献活動に関する包括連携協定書 両校の教育・研究活動全般に関わる交流及び連携を推進し、教育・研究の進展と地域社会の発展に資する	令和３年７月１日
8	伊勢崎興陽高校	高崎健康福祉大学農学部と群馬県立伊勢崎興陽高等学校との高大連携事業に関する協定書 高校生自らが視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学が求める学生像及び大学の教育内容への理解を深め、かつ高校教育・大学教育の活性化を図る	令和４年３月１６日
7	宇都宮大学	宇都宮大学農学部と高崎健康福祉大学農学部との教育・研究・社会貢献活動に関する包括連携協定書 両校の教育・研究活動全般に関わる交流及び連携を推進し、教育・研究の進展と地域社会の発展に資する	令和４年４月１８日
9	富岡実業高校	高崎健康福祉大学農学部と群馬県立伊勢崎興陽高等学校との高大連携事業に関する協定書 高校生自らが視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学が求める学生像及び大学の教育内容への理解を深め、かつ高校教育・大学教育の活性化を図る	令和４年１０月３１日
10	富岡市	富岡市と高崎健康福祉大学との連携に関する協定書 富岡市の農業をはじめとする地域振興と高崎健康福祉大学における教育・研究の充実に寄与すること	令和５年７月１９日
11	高崎市	高崎市と高崎健康福祉大学との農林業振興の連携に関する協定書 高崎市における農林業振興と高崎健康福祉大学における教育・研究の充実及び地域貢献に寄与すること	令和６年１２月１２日

3.20. 生物生産学科同窓会

会長：大政 謙次 副会長（事務局、会計兼務）：辻 聡

活動内容

1. 第2回 生物生産学科ホームカミングデーの開催

2024年10月19日に高崎健康福祉大学10号館201教室を使用した講演会および高崎健康福祉大学10号館学生実験室（基礎）を使用した同窓会生と教員、在学生との交流を目的とした懇談会を行った。同窓会員15名、教員19名、在学生35名、総計69名が参加した。

研修会は、生物生産学科の辻聡 講師が担当し、群馬県内で製造される伝統食品を題材とした講演および官能検査を行った。群馬県の特産品であるこんにゃくを使用した料理である「こんにゃく味噌おでん」を題材に、複数の味噌などを用いて作成した味噌だれの官能検査を行った。これにより地域による味噌の味や性質の違いを学ぶ機会を提供した。

懇談会では用意されたお茶屋お菓子等を食べながら参加した同窓生間だけでなく、教員および在学生を含め学年を超えた活発な交流活動が見られた。在校生も1～4年生まで全ての学年が参加しており、在校生たちにとっても貴重な機会になった。同窓生たちは久しぶりの母校での語らいの場を得たことに非常に喜んでいた。また、同窓会生は1期生、2期生共に参加しており、卒業後も大学とのつながりを維持していた。おり、今後の同窓会活動にも意欲的であり、同窓会の更なる充実と隆昌を図る大きな効果が期待できる会であった。

本会は令和6年度高崎健康福祉大学同窓会活動助成を受けて開催された。

4. 農学部セミナー

農学と社会の関わりを学生が知り学ぶ機会として、令和 6（2024）年度は下記の通り農学部セミナーを開催した。

第 1 回農学部セミナー

「組織培養から大規模温室の運営まで ～ブラジルでの経験から～」

日 時：令和 6（2024）年 4 月 11 日（木）14:45-16:15

場 所：10 号館 204 講義室

講 演 者：藤原利貞氏、藤原農場社長、ブラジル

講演内容：令和 5 年度愛媛県功労賞を受賞された藤原氏より、ブラジルへ渡られた経緯から、事業拡大に関する工夫、ブラジルでの様々な苦労、花卉生産に関する独自の工夫から温暖化の影響など幅広い内容についてご講演頂きました。

参加者数：学生参加者 19 名

第 2 回農学部セミナー

「食品会社における資材調達、品質管理、そして研究」

日 時：令和 6（2024）年 5 月 22 日（水）16：30-17：30

場 所：10 号館 201 講義室

講 演 者：株式会社 虎屋 生産支援部資材課 原 博子 様

講演内容：食品会社における資材調達の重要性についてお話ししていただいた。学生から多くの質問があり、非常に有意義なセミナーとなった。

参加者数：36 名（うち学部生 29 名）

第 3 回 農学部セミナー

「農産物・食品の輸出について」

日 時：令和 6（2024）年 7 月 25 日（木）4 限（14:45-16:15）

場 所：10 号館 206 講義室

講 演 者：農林水産省関東農政局神田地方参事官

講演内容：食品産業の動向を踏まえつつ、農産物や食品の海外への輸出の現状について講演いただいた。

第 4 回 農学部セミナー

「温暖化に伴い深刻化するカンキツグリーニング病とその対処法について」

日 時：令和 6（2024）年 11 月 20 日（水）16:30-18:00

場 所：10 号館 201 講義室

講 演 者：東京農業大学 岩波徹教授

講演内容：岩波教授を招へいし、世界各地の主要カンキツ産地で問題となっているカンキツグリーニング病について講義した。特に日本の南西諸島における本病害の被害状況と、現地での防除の取り組みを紹介した。

参加者数：学生参加者 8 名、教員 3 名

第5回 農学部セミナー

「生成AIを活用した農薬づくり」

日時：令和7（2025）年1月7日（火）16:30-18:00

場所：10号館201講義室

講演者：前橋工科大学 生命・工学領域 蒔田由布子教授

講演内容：生成AIを活用した農薬づくりというタイトルでお話ししていただいた。学生と教員から多くの質問があり、非常に有意義なセミナーとなった。

参加者数：63名（うち学部生56名）

第6回 農学部セミナー

「あなたの知らない野生鳥獣の世界」

日時：令和7（2025）年1月16日（木）13:00-14:30

場所：10号館202講義室

講演者：群馬県環境森林部自然環境課 野生動物係長 小野関 智洋 氏

群馬県鳥獣被害対策支援センター 対策支援係長 小林 拓哉 氏

講演内容：群馬県自然環境課 小野関係長からは「人と野生動物のあつれき／狩猟免許試験」について、鳥獣対策支援センター 小林係長からは「野生動物とどう向き合うか」について、それぞれ、群馬県内の野生動物や農林業被害などの現状と取り組みについて、具体的な事例を交えて講演いただいた。参加者からは、狩猟サークルの学生を中心に熱心な質問があり、野生鳥獣の生の情報を得る貴重な機会となった。

参加者数：18名



組織培養から大規模温室の運営まで
～ブラジルでの経験から～

講師：藤原利貞氏、藤原農場社長、ブラジル

令和5年度愛媛県功労賞を受賞された、ブラジルで大規模農場を運営されている経営者の方から体験談を伺います。奮ってご参加ください。



【お問合せ】農業情報システム学研究室 大野 ono@takasaki-u.ac.jp

2024年度 第2回 農学部セミナー

日時：5月22日 16:30-17:30 会場：10号館201

 **とらや** 株式会社虎屋 生産支援部資材課 原博子

株式会社虎屋は、羊羹など和菓子の製造・販売を行っています。本セミナーでは、業務に従事した経験のある資材調達、品質管理、研究について紹介させていただきます。

○資材調達

調達品目は、小豆、寒天、砂糖等の一次原材料、羊羹のサック箱やカップラベル等の二次原材料、手提袋、包装紙等の包材で、約1,000種類のアイテムを取扱います。

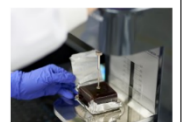
和菓子に欠かせない原材料の一つである白小豆は、1927年より群馬県で契約栽培を開始しています。群馬県昭和村に農場を保有し、虎屋の独自品種である「福とら白」を栽培しています。また、虎屋群馬農場はJGAP認証を取得しており、持続可能な農業に取り組んでおります。昨年は、貴校の学生の皆様へボランティアの協力をお願いし、刈取、脱穀を行って頂いております。



○品質管理

「食の安全・安心」を徹底するため、原材料から生産・出荷までの品質管理を行います。

主な業務としては、工場で製造する原材料・商品の検査、工場内の衛生面の確認検査、商品表示の作成、新商品の賞味期限設定検査があります。



○研究

よりおいしい和菓子・高品質な商品の追求や、理論の確立を推進し、社内外への情報発信を行っています。白小豆の育種については、研究員と資材課にて協同して実施しています。また、研究室在籍時に担当した寒天や黒糖の研究について紹介いたします。



問い合わせ先 農学部生物生産学科 吉積 毅 (yoshidum@takasaki-u.ac.jp)

2024年度 第4回 農学部セミナー

温暖化に伴い深刻化するカンキツグリーニング病とその対処法について



11月20日(水) 16:30-18:00

会場: 10号館201講義室

東京農業大学 岩波徹 教授

カンキツグリーニング病は、カンキツ類の師部細胞に寄生し、ミカンキジラミなどの微小昆虫によって伝染する細菌が引き起こす病気です。発病した樹はすぐに枯死するので被害が甚大です。世界の多くの主要カンキツ産地で大問題となっています。

ミカンキジラミは熱帯・亜熱帯に生息するので、日本では南西諸島で発生しますが、九州本土でミカンキジラミが生息した記録もあります。今後温暖化で九州、四国、本州の沿岸部では、ミカンキジラミが生息するようになることも予想されます。そのような状況になれば、日本の多くのカンキツ産地で本病が大発生し、壊滅的な打撃を受けることが予想されます。



植物検疫を担当する行政機関では、大規模な本病の対策事業を実施しています。本セミナーでは、本病の基礎的な知見、対処法及び関連する技術開発について紹介します。奮ってご参加下さい。

【お問合せ】植物生命科学研究室 加藤寛kato-h@takasaki-u.ac.jp

2024年度 第5回 農学部セミナー

第5回農学部セミナーでは、前橋工科大学 蔦田 先生をお招きして最新の研究結果をお話いただきます。

日時: 2025年01月07日 16:30-18:00

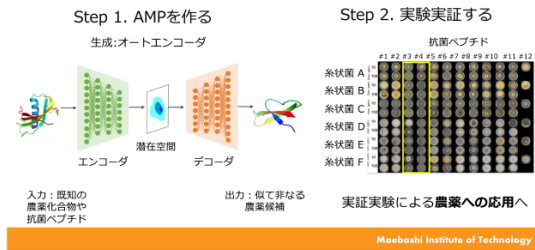
会場: 10号館201講義室

講師: 蔦田 由布子 先生
(前橋工科大学 生命・工学領域 教授)

タイトル: 生成AIを活用した農薬づくり

要旨: 機械学習や生成AIなどが身近な技術となり、ChatGPT, DeepLなど多くのソフトウェアに助けられる場面も増えつつあります。本セミナーでは、そもそも機械学習って? 何? というところからスタートして、最新の情報科学技術に応用することで、どんな世界が待っているのか、一緒に考えたいと思います。またその中で、生成AIを使った農薬の開発例を紹介します。

生成AIを用いた抗菌ペプチド予測



問い合わせ先 農学部生物生産学科 吉積 毅 (yoshidum@takasaki-u.ac.jp)

令和6年度 第6回 農学部セミナー

あなたの知らない 野生鳥獣の世界



【内容】

- ・なぜ、野生動物が出没するの?
- ・群馬県内での野生鳥獣による被害状況
- ・ハンターの現状
- ・群馬県内の18~19歳の皆さんは、狩猟免許(わな猟)試験の受験料(5,200円)が免除されます
- ・野生動物とどう向き合うか



日時: 令和7年1月16日(木) 13時~(3限)



場所: 10号館(農学部)202講義室
学生・教員とも参加自由



講師: 群馬県環境森林部自然環境課
野生動物係長 小野関 智洋 氏

群馬県鳥獣被害対策支援センター
対策支援係長 小林 拓哉 氏



開催協力: 健大狩猟サークル

【お問い合わせ】農学部 地域連携室 倉澤
kurasawa@takasaki-u.ac.jp



5. 個人活動報告

5.1. 生命科学コース

外山 吉治（とやま よしはる Yoshiharu Toyama）

【研究室】基礎生命科学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

物理学基礎，生物生産概論 B，有機化学，生物化学，生命科学基礎実験I，生命科学基礎実験II，生物生産学基礎実験I，生物生産学基礎実験II，生命科学特別実験，専門演習 I，専門演習 II，専門演習 III，卒業研究 I，卒業研究 II，卒業研究 III

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 A，基礎生命科学特論，生物工学特論，生物生産学演習I，生物生産学演習II，生物生産学特別研究I，生物生産学特別研究II，基礎生命科学研究，応用生命科学研究，生物生産学特殊研究

・学内行事の担当

夏のオープンキャンパス 司会，オープンラボ，個別相談（2024/07/27-28，2024/08/17-18），こども大学「目指せ未来の研究者」（2025/03/02）

【学内委員会活動】

広報委員会，保健・衛生委員会，健康管理センター運営委員会

【研究業績】

・学会発表

1. 山田徹郎，仁志直史，木本昭信，岡本健吾，外山吉治. 新しい食感を持つ不均一構造を有するコンニャクの試作. 日本食品科学工学会 第 71 回大会 2024/08/31.
2. 山田徹郎，仁志直史，木本昭信，岡本健吾，外山吉治. 新しい食感を持つ不均一構造を有するコンニャクの試作. 群馬県分析研究会 第 49 回研究発表会 2024/12/04.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C（代表）（2022-2025）

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

太田高等看護学院 非常勤講師 「物理学」（2024/05/10-2024/06/21）

分野別ガイダンス 安中総合学園（2024/06/20），宇都宮南高等学校（2024/07/09），前橋育英高等学校（2024/11/07），前橋南高等学校（2024/12/05），熊谷農業高等学校（2024/12/19），作新学園高校（2025/02/21），富岡実業高等学校（2025/02/27），大泉高等学校（2025/03/06）

・学会活動

日本バイオレオロジー学会 会員，日本バイオレオロジー学会 監事，JBR 編集委員，バイオレオロジー・リサーチ・フォーラム運営委員

【研究室】基礎生命科学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

化学基礎，生物学基礎，分子生物学，システム生物学，農学インターンシップ，生物生産学概論B，生物生産学基礎実験I，生物生産学基礎実験II，生命科学基礎実験，生命科学特別実験，卒業研究I，卒業研究II，卒業研究III，専門演習I，専門演習II，専門演習III

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論A，基礎生命科学特論，生物学特論，生物生産学演習I，生物生産学演習II，生物生産学特別研究I，生物生産学特別研究II，基礎生命科学研究，応用生命科学研究，生物生産学特殊研究

・学内行事の担当

遺伝子組換え実験安全講習会，農学インターンシップ発表会（2025/03/03），夏のオープンキャンパス学科説明，個別相談，オープンラボ（2024/07/27-28，08/17-18）春のオープンキャンパス学科説明，個別相談（2025/03/08）

【学内委員会活動】

教務委員会，遺伝子組換え実験安全委員会（安全主任），農学インターンシップ委員会，学部長補佐

【研究業績】

・学会発表・研究展示

1. 山田徹郎，仁志直史，木本昭信，岡本健吾，外山吉治. 新しい食感を持つ不均一構造を有するコンニャクの試作. 日本食品科学工学会 第71回大会 2024/08/31.
2. 片山豪，岡本健吾. 高等学校生物の実験教材を個別最適な学びにする工夫-複線型実習と混合型実習による対話的な学び-. 日本理科教育学会 第74回全国大会 2024/09/08.
3. 山田徹郎，仁志直史，木本昭信，岡本健吾，外山吉治. 新しい食感を持つ不均一構造を有するコンニャクの試作. 群馬県分析研究会 第49回研究発表会 2024/12/04.
4. 常岡 誠，岡本健吾，森 哲哉，平野和也. 天然変性領域をもつKDM2Aの特定の領域はPHF8と相互作用し，KDM2AによるrRNA転写抑制を抑える. 第42回染色体ワークショップ・第23回核ダイナミクス研究会 2025/01/30.
5. 熊倉 慧，岡本健吾. マンネンタケの酵素遺伝子に関する研究. 第28回群馬県きのこ品評会研究展示 2025/02/04.
6. 片山豪，野崎真史，田中進，岡本健吾. 蛍光顕微鏡を用いない細胞骨格の観察法の研究 VII-細胞骨格観察のための教材キットの可能性-. 日本生物教育学会第109回全国大会 2024/03/15.
7. 岡本健吾，片山豪. PCR法を用いたABO式血液型を判定する実験教材の開発. 日本生物教育学会第109回全国大会 2024/03/15.
8. 岡本健吾，片山豪. DNA簡易抽出実験とdsDNAの可視化試薬によるDNA確認実験. 日本生物教育学会第109回全国大会ワークショップ 2024/03/16.
9. 片山豪，岡本健吾，林秀則. 試験管内で転写・翻訳を簡易的に再現する実験-コムギ胚芽無細胞タンパク質合成系を用いてタンパク質を発現してみよう-. 日本生物教育学会第109回全国大会ワークショップ 2024/03/16.

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

1. 高大連携パートナーシッププロジェクト「光る細胞を観察しよう」（2024/06/13）
2. 前橋西高校模擬授業（2024/09/18）

・学会活動

日本分子生物学会 会員，日本生化学会 会員，日本生物教育学会 会員

藤本 正太（ふじもと しょうた Shota Fujimoto）

【研究室】生命工学

【職名】助教

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

生物生産学概論 B, 遺伝子工学, 細胞工学, 生物生産学基礎実験I, 生物生産学基礎実験II, 生命科学基礎実験, 生命科学特別実験, 調理学実習, 専門演習I, 専門演習II, 専門演習III, 卒業研究I, 卒業研究II, 卒業研究III

・学内行事の担当

フレッシュマンキャンプ 引率（2024/04/08-09）, 夏のオープンキャンパス 模擬授業（2024/07/27）, 避難訓練準備（2024/11/14）, こども大学「目指せ未来の研究者」（2025/03/02）, 春のオープンキャンパス学科紹介, 個別相談（2025/03/08）

【学内委員会活動】

地域貢献委員会, 危機管理委員会, 教務委員会, 農場運営委員会

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

日本蚕糸学会 会員, 日本分子生物学会 会員, 昆虫病理研究会 会員

・学外教育活動

出前授業 坂戸高校 「遺伝子組換え技術によるカイコ利用のこれから」（2024/05/16）

【研究室】植物生命科学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

健大で学ぶ Well-being, 生物生産学概論 B, 生物生産学基礎実験 I, キャリアアップ演習 I, キャリアアップ演習 II, 生命科学基礎実験 I, 生命科学基礎実験 II, 生命科学特別実験, 細胞工学, 植物生理学, 機器分析学, 卒業研究 I, 卒業研究 II, 卒業研究 III, 専門演習 I, 専門演習 II, 専門演習 III

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 A, 応用生命科学特論, 応用生命科学研究, 生物生産学特別研究 I, 生物生産学演習 I

・学内行事の担当

夏のオープンキャンパス 入試相談(2024/08/17-18), こども大学「目指せ未来の研究者」(2025/03/02)

・セミナー開催

第二回農学部セミナー 「食品会社における資材調達の重要性（株式会社 虎屋 生産支援部 資材課 原 博子様）」(2024/05/22)

第五回農学部セミナー「生成 AI を活用した農薬づくり（前橋工科大学 生命・工学領域 教授 蒔田 由布子 先生）」(2025/01/07)

【学内委員会活動】

入試委員会, キャリアサポート委員会, 農場運営委員会

【研究業績】

・原著論文

1. Furuhashi Y, Kimura M, Sakai A, Murakami T, Egi E, Sakuma T, Yamamoto T, Yoshizumi T, Kato Y. Direct protein delivery into intact *Arabidopsis* cells for genome engineering. Sci. Rep. 14(1): 22568. 2024.

・外部予算獲得

1. (株) アクプラント 共同研究費（NEDO 研究助成分）（分担代表）(2023-2026)
2. 国内食品製造会社 共同研究費(代表) (2024-2025)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

1. 模擬授業 (2024/06/18 栃木県立佐野東高等学校, 2024/11/28 埼玉県立所沢高等学校)
2. ガイダンス (2025/03/14 新島学園高等学校, 2025/03/18 東京都立小平南高等学校)
3. 前橋工科大学専門講座講師 (2024/12/04)

・学会活動

日本植物学会第 87 回大会（宇都宮）実行委員

【研究室】植物生命科学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目 (学部)

情報リテラシーⅢ, 生物生産概論 B, 植物保護学, 植物病理学, 農学インターンシップ, 生命科学基礎実験Ⅰ, 生物生産学基礎実験Ⅰ, 生物生産学基礎実験Ⅱ, 生命科学特別実験, 専門演習Ⅰ, 専門演習Ⅱ, 専門演習Ⅲ, 卒業研究Ⅰ, 卒業研究Ⅱ, 卒業研究Ⅲ

・担当授業科目 (大学院)

生物生産学特論 A, 応用生命科学研究, 生物学特論, 応用生命科学特論

・学内行事の担当

夏のオープンキャンパス 個別相談(2024/07/27-28), オープンラボ(2024/08/17-18), 春のオープンキャンパス 研究紹介(2025/03/08), インターンシップ実習報告会 (2025/03/03)

・セミナー開催

第4回農学部セミナー 「温暖化に伴い深刻化するカンキツグリーニング病とその対処法について(東京農業大学 岩波 徹先生)」(2024/11/20)

【学内委員会活動】

年報委員会, インターンシップ運営委員会, 学年担任 (2023 年度入学生), 研究倫理委員会, 農場運営委員会,

【研究業績】

・原著論文

1. Hirakawa M, Koizumi S, Katoh M, Katoh H. Development of a loop-mediated isothermal amplification assay for strawberry anthracnose caused by *C. fructicola* and *C. aenigma*, J Gen Plant Pathol <https://doi.org/10.1007/s10327-025-01223-6>. 2025.

・講演・学会発表

1. 加藤寛, 松谷峰之介, 岩波徹. イチゴ萎黄病菌のカリフォルニア及び岐阜県由来の菌株における特異的配列の特定と LAMP 法への応用. 2024 年度日本植物病理学会関東部会. 東京. 2024/09/13.
2. 加藤寛, 関蒼太郎, 植原恭平, 春日基樹. 観葉ベゴニア‘エスカルゴ’の罹病葉から単離された *Alternaria* 属菌の解析. 令和7年度日本植物病理学会大会. 香川. 2025/03/27.

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

模擬授業 群馬県立大泉高等学校 (2025/03/12)

・学会活動

日本植物病理学会 評議員

【研究室】動物生命科学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

生物生産学概論 B, 生命科学基礎実験, 生命科学特別実験, 動物生理学, 動物生体機能学, 味覚科学, 専門演習I, 専門演習II, 専門演習III, 卒業研究I, 卒業研究 II, 卒業研究III, 化学基礎（医療情報学科）

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 A, 応用生命科学特論, 生物工学特論, 応用生命科学研究, 博士学位論文副査（食品栄養学専攻）

・学内行事の担当

3つのポリシー点検会議 事務担当（2024/07/18）, 保護者会 個別相談（2024/06/15）, 夏のオープンキャンパス 個別相談（2024/07/27, 2024/08/17）, オープンラボ（2024/07/28, 2024/08/18）, 入学前教育スクーリング 企画（2024/12/21, 2025/01/26）

【学内委員会活動】

動物実験委員会, 内部質保証会議・基準別 WG, 内部質保証会議・学科別 WG

【研究業績】

・講演・学会発表

1. 吉田朱里, 清水愛恵, 豊田集, 安岡頭人, 朝倉富子, 永井俊匡. 咀嚼は幼若・成獣ラットの視床遺伝子発現に異なる影響を与える. 日本農芸化学会 2025 年度大会. 札幌. 2025/03/08.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C（代表）（2024-2026）
2. （公財）ソルト・サイエンス研究財団 一般公募助成（2024）

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

書籍執筆「栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第5版」第6章:たんぱく質の栄養, 羊土社(2025/01/10)
書籍執筆「栄養科学イラストレイテッド演習版 基礎栄養学ノート 第5版」第6章:たんぱく質の栄養, 羊土社 (2025/01/10)

・学外委員会

日本学術振興会 R021 食と未病マーカー委員会 委員

・学会活動

日本農芸化学学会 会員, 日本栄養・食糧学会 会員, 日本食品科学工学会 会員

豊田 集（とよだ つどい Tsudoi Toyoda）

【研究室】動物生命科学

【職名】助手

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

調理学実習，生物生産学基礎実験I，生物生産学基礎実験II，生命科学基礎実験，生命科学特別実験，専門演習I，専門演習II，専門演習III，卒業研究I，卒業研究II，卒業研究III

・学内行事の担当

夏のオープンキャンパス オープンラボ（2024/07/27-28, 08/17-18），高校生自由研究コンテスト 2024（2024/10/19）

【学内委員会活動】

ボランティア・市民活動支援センター運営委員会，学生委員会

【研究業績】

・講演・学会発表

1. 吉田朱里，清水愛恵，豊田集，安岡顕人，朝倉富子，永井俊匡．咀嚼は幼若・成獣ラットの視床遺伝子発現に異なる影響を与える．日本農芸化学会 2025 年度大会．札幌．2025/03/08．

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C（分担）（2024-2026）

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

模擬実験講義 六日町高等学校（2024/11/08）

・学会活動

日本農芸化学会 会員，日本栄養・食糧学会 会員

5.2. 作物園芸システムコース

廣瀬 竜郎（ひろせ たつろう Tatsuro Hirose）

【研究室】作物学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A, 作物学I, 作物学II, 作物園芸実習I, 作物園芸実習II, 作物園芸特別実験・実習, 専門演習I, 専門演習II, 専門演習III, 卒業研究I, 卒業研究II, 卒業研究III

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 B, 作物学特論

・学内行事の担当

保護者会 大学院説明（2024/06/15）, 夏のオープンキャンパス 入試相談（2024/07/27, 08/18）模擬授業（2024/08/18）, 春のオープンキャンパス 入試相談（2025/03/08）

【学内委員会活動】

入試委員会, 遺伝子組換え実験安全委員会, 危機管理委員会, 農場運営委員会

【研究業績】

・原著論文

1. Okabe M, Obokata K, Hirose T, Hashida Y. Effect of different cultivation methods and environments on the growth and yield of Shimonita-Negi. Acta Horticulturae 1404: 1339–1348. 2024.

・総説・解説など

1. 橋田庸一, 廣瀬竜郎. コンニャクのグルコマンナン合成. アグリバイオ. 9(1): 62–64. 2025.

・講演・学会発表

1. 河野悠花, 福島健太, 橋田庸一, 岡村昌樹, 森田隆太郎, 廣瀬竜郎, 青木直大. *agpl1* 機能欠損変異体を利用した茎部高糖性イネの多地点における評価. 第 258 回日本作物学会講演会. 2024/09/26.
2. 小泉百恵, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. 長野県準高冷地を中心とした ペニバナインゲン在来系統の遺伝的類縁関係. 日本作物学会関東談話会第 113 回講演会. 2024/12/06.
3. 佐々木英慈, 中沢慧哉, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. 種苗の販売元および栽培環境の相違が下仁田ネギの生育に及ぼす影響. 農産物流通技術研究会第 15 回研究発表会. 2024/12/16.
4. 山崎貴斗, 土肥千夏, 倉澤政則, 猿谷花恵, 川島正俊, 小林泰彦, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. 群馬県における夏秋ナスの整枝強度が群落内の日射量および果実品質に及ぼす影響. 日本園芸学会令和 6 年度春季大会. 2025/03/20.
5. 山崎円, 橋田庸一, 岡部繭子, 廣瀬竜郎. 世界のイネ・コアコレクションの茎部非構造的炭水化物蓄積. 日本作物学会第 259 回講演会. 2025/03/28.
6. 田中風伊, 鹿沼信行, 平石羽流, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. ペニバナインゲンにおける畝高の違いが生育・収量に及ぼす影響. 日本作物学会第 259 回講演会. 2025/03/28.

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

日本作物学会 評議員, 種生物学会 会員

【研究室】作物学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

生物生産学概論 A, 栽培管理学, 土壌肥科学, 農学インターンシップ, 六次産業化実習, 作物園芸実習I, 作物園芸実習II, 作物園芸特別実験・実習, 専門演習I, 専門演習II, 専門演習III, 卒業研究I, 卒業研究II, 卒業研究III

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 B, 作物学特論, 生物生産学演習I, 生物生産学特別研究I

・学内行事の担当

フレッシュマンキャンプ 引率（2024/04/8-9）, 農学部保護者会 運営（2024/06/15）, 夏のオープンキャンパス 運営（2024/07/27-28, 08/17-18）, 春のオープンキャンパス運営（2025/03/08）

【学内委員会活動】

広報委員会, 学生委員会, 農学インターンシップ実習運営委員会, 農場運営委員会, 学部長補佐

【研究業績】

・原著論文

1. Okabe M, Obokata K, Hirose T, Hashida Y. Effect of different cultivation methods and environments on the growth and yield of Shimonita-Negi. Acta Horticulturae 1404: 1339–1348. 2024.

・講演・学会発表

1. 小泉百恵, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. 長野県準高冷地を中心とした ペニバナインゲン在来系統の遺伝的類縁関係. 日本作物学会関東談話会第 113 回講演会. 2024/12/06.
2. 佐々木英慈, 中沢慧哉, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. 種苗の販売元および栽培環境の相違が下仁田ネギの生育に及ぼす影響. 農産物流通技術研究会第 15 回研究発表会. 2024/12/16.
3. 山崎貴斗, 土肥千夏, 倉澤政則, 猿谷花恵, 川島正俊, 小林泰彦, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. 群馬県における夏秋ナスの整枝強度が群落内の日射量および果実品質に及ぼす影響. 日本園芸学会令和 6 年度春季大会. 2025/03/20.
4. 山崎円, 橋田庸一, 岡部繭子, 廣瀬竜郎. 世界のイネ・コアコレクションの茎部非構造化炭水化物蓄積. 日本作物学会第 259 回講演会. 2025/03/28.
5. 田中風伊, 鹿沼信行, 平石羽流, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. ペニバナインゲンにおける畝高の違いが生育・収量に及ぼす影響. 日本作物学会第 259 回講演会. 2025/03/28.

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

【模擬実験】マイナビ進学ライブ 未来ビュー（2024/07/17, 長岡）

【模擬授業】群馬県立伊勢崎興陽高等学校（2024/05/24）, 栃木県立矢板高等学校（2024/9/19）, 群馬県立吾妻中央高等学校（2024/11/13）, 高崎健康福祉大学高崎高等学校（2024/11/18）, 群馬県立伊勢崎興陽高等学校（2024/12/13）

【ガイダンス】茨城県立水戸農業高等学校（2024/06/18）, 長野県佐久平総合技術高等学校（2025/02/06）

【施設見学対応】群馬県立安中総合高等学校（2024/06/20）, 栃木県立宇都宮南高等学校（2024/07/09）上田西高等学校（2024/07/26）, 長野県野沢南高等学校（2024/08/02）, 群馬県立吾妻中央高等学校（2024/11/08）, 群馬県立前橋南高等学校（2024/12/05）, 群馬県立大泉高等学校（2025/03/06）, 群馬県立大泉高等学校（2025/03/12）

・学会活動

日本作物学会 ダイバシティ推進委員 日本作物学会紀事編集委員, 日本作物学会関東支部 評議員, 園芸学会, 食品科学工学会, 北陸作物・育種学会, 農産物流通技術研究会 運営委員

・その他

研究室学生卒論発表 伊勢崎興陽高等学校（2025/02/12）

【研究室】作物学

【職名】講師

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

生物生産学概論 A, 作物園芸実習I, 作物園芸実習II, 作物園芸特別実験・実習, 作物栄養学, 専門演習I, 専門演習II, 専門演習III, 卒業研究I, 卒業研究II, 卒業研究III

・学内行事の担当

夏のオープンキャンパス 学部紹介（2024/07/28）農場案内（2024/07/27-28, 08/17-18）, 春のオープンキャンパス 農場案内（2025/03/08）

【学内委員会活動】

教務委員会, ボランティア・市民活動センター運営委員会, 農場運営委員会, 年報委員会, 感染性廃棄物・廃液処理委員会

【研究業績】

・原著論文

1. Okabe M, Obokata K, Hirose T, Hashida Y. Effect of different cultivation methods and environments on the growth and yield of Shimonita-Negi. Acta Horticulturae 1404: 1339–1348. 2024.
2. Morey-Yagi SR, Hashida Y, Okamoto M, Odahara M, Suzuki T, Thagun C, Foong CP, Numata K. Expression of spider silk protein in tobacco improves drought tolerance with minimal effects on its mechanotype. The Plant J 121: e17213. 2025.
3. Eiju D, Hashida Y, Maeda T, Iwayama K, Nagano AJ. Simulation study of factors affecting the accuracy of transcriptome models under complex environments. Plant Mol. Biol. 115: 52. 2025.

・著書

1. 橋田庸一. 第5章 RNA 調製プロトコル. 13 イネ, 17 コンニャク. 鹿島誠, 伊藤佑, 尾崎遼編『実験医学別冊 誰でも再現できる NGS「前」サンプル調製プロトコル』羊土社. 東京. 335-342. 372-378. 2024.

・総説・解説など

1. 橋田庸一, 永野惇. 野外での植物環境応答を再現する. アグリバイオ. 8(7): 25–28. 2024.
2. 橋田庸一, 廣瀬竜郎. コンニャクのグルコマンナン合成. アグリバイオ. 9(1): 62–64. 2025.

・講演・学会発表

1. 河野悠花, 福島健太, 橋田庸一, 岡村昌樹, 森田隆太郎, 廣瀬竜郎, 青木直大. *agpl1* 機能欠損変異体を利用した茎部高糖性イネの多地点における評価. 第 258 回日本作物学会講演会. 2024/09/26.
2. 小泉百恵, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. 長野県準高冷地を中心とした ペニバナインゲン在来系統の遺伝的類縁関係. 日本作物学会関東談話会第 113 回講演会. 2024/12/06.
3. 佐々木英慈, 中沢慧哉, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. 種苗の販売元および栽培環境の相違が下仁田ネギの生育に及ぼす影響. 農産物流通技術研究会第 15 回研究発表会. 2024/12/16.
4. 永壽暖, 橋田庸一, 前田太郎, 永野惇. 複雑な環境条件でのトランスクリプトーム予測に影響する要因のシミュレーションを用いた評価. 第 66 回日本植物生理学会年会. 2025/03/17.
5. 山崎貴斗, 土肥千夏, 倉澤政則, 猿谷花恵, 川島正俊, 小林泰彦, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. 群馬県における夏秋ナスの整枝強度が群落内の日射量および果実品質に及ぼす影響. 日本園芸学会令和 6 年度春季大会. 2025/03/20.
6. 山崎円, 橋田庸一, 岡部繭子, 廣瀬竜郎. 世界のイネ・コアコレクションの茎部非構造化炭水化物蓄積. 日本作物学会第 259 回講演会. 2025/03/28.
7. 田中風伊, 鹿沼信行, 平石羽流, 橋田庸一, 廣瀬竜郎, 岡部繭子. ペニバナインゲンにおける畝高の違いが生育・収量に及ぼす影響. 日本作物学会第 259 回講演会. 2025/03/28.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 若手研究（代表者）（2022-2024）
2. 科学研究費 基盤 B（分担）（2023-2025）
3. 科学研究費 基盤 C（分担）（2022-2024）
4. JST 未来社会創造事業 主たる共同研究者（2022-2024）

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

令和 6 年度研修講座「高校専門教育研究講座」（群馬県）（2024/08/28），新潟県立新発田農業高校 模擬講義
（2024/12/18）

・学会活動

日本作物学会 日本作物学会紀事 編集委員会 委員，日本植物生理学会 会員

石神 靖弘（いしがみ やすひろ Yasuhiro Ishigami）

【研究室】園芸学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

生物生産学概論 A, 園芸学, 園芸システム制御学, 蔬菜園芸学, 果樹・花卉園芸学, 専門演習I, 専門演習II, 専門演習III, 卒業研究I, 卒業研究II, 卒業研究III, 作物園芸実習I, 作物園芸実習II, 作物園芸学特別実験・実習

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 B, 園芸システム学特論

・学内行事の担当

保護者会（農場見学）（2024/06/15）, 夏のオープンキャンパス（農場見学）（2024/07/27-28, 08/17-18）, 春のオープンキャンパス（農場見学）（2025/03/08）

【学内委員会活動】

FD・SD 委員会, 障がい学生支援委員会, 情報セキュリティ委員会, 農場運営委員会

【研究業績】

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C （研究代表者）（2024-2026）
2. （株）アクプランタ 共同研究費（NEDO 研究助成分）（研究分担者）（2023-2026）

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

生物環境工学会 理事・編集委員, 農業情報学会 理事, 生態工学会 理事, 日本農業気象学会 会員

・学外教育活動

模擬授業 佐野高校（2024/10/31）

【研究室】 農業情報システム学

【職名】 学部長・学科長・研究科長・教授

【栄典】 瑞宝中綬章（教育研究功劳）（2024/04/29）

【学内教育活動】

・ 担当授業科目（学部）

健大で学ぶ Well-being, 生物生産学概論 A, 植物画像診断学, 農業情報計測学, 作物園芸実習I, 作物園芸実習 II, 作物園芸特別実験・実習, 卒業研究I, 卒業研究 II, 卒業研究 III, 専門演習I, 専門演習 II, 専門演習 III

・ 担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 B, 園芸システム学特論, 生物生産学演習 I, 生物生産学特別研究 I

・ 学内行事の担当

学部長・学科長・研究科長

【学内委員会活動】

農学部長, 生物生産学科長, 研究科長, 法人評議員会, 大学運営協議会

【研究業績】

・ 原著論文

1. Y. Sheng, Z. Sun, S. Lu and K. Omasa. Ratio of physical model parameters can retrieve aggregate size from different types of soil in cultivated regions. Soil & Tillage Research. 244: (106262) :1-16 (2024)
<https://doi.org/10.1016/j.still.2024.106262>
2. D. Ran, Z. Sun, S. Lu and K. Omasa. An advanced dorsiventral leaf radiative transfer model for simulating multi-angular and spectral reflection: considering asymmetry of leaf internal and surface structure. Remote Sensing of Environment. 318(114531):1-24 (2025)
<https://doi.org/10.1016/j.rse.2024.114531>
3. X. Li, Z. Sun, S. Lu and K. Omasa. A radiative transfer model for characterizing photometric and polarimetric properties of leaf reflection: combination of PROSPECT and a polarized reflection function. Remote Sensing of Environment. 318(114559): 1-23 (2025)
<https://doi.org/10.1016/j.rse.2024.114559>

・ 総説・解説など

1. 大政謙次. 総合科学としての農学と健大農学部への歩み. 健大通信. 42（秋号）:1 (2024)
2. 大政謙次. 学術情報について思うこと. 藤波（巻頭随筆）2(24):1 (2025)

・ 講演・学会発表など

1. 大政謙次. 高崎健康福祉大学農学部設置 5 年の実績と今後～地域農業の活性化/先端技術の活用～「高等教育計画経営シリーズ9 健康食・農の新・高等教育を拓く II」2024/10/08. 東京日本教育会館
2. 大政謙次. 調査協力「大学教育における学問分野の固有性と 横断性-参照基準とカリキュラム構造の分析」に関する調査」2024/10/08. 東京日本教育会館

・ 外部予算獲得

共同研究 2 社

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育研究活動

東京大学名誉教授・農学部非常勤講師, 国立環境研究所名誉研究員, 北京大学環境エネルギー学院客座教授, 東北師範大学客座教授, 愛媛大学客員教授・農学部非常勤講師, 福井県立大学客員教授, GIS expert emeritus

・ 学外委員会

群馬県農政審議会会長, (公財)日本海洋科学振興財団評議員, (一社) 学術著作権協会理事, (一社)日本国際交流発展促進協会理事, 公益信託エスペック地球環境研究・技術基金運営委員

・学会活動

日本生命科学アカデミー理事，日本農学アカデミー会員，日本工学会フェロー，日本農業工学会名誉顧問・理事・フェロー，農業情報学会名誉会長・理事・フェロー，日本生物環境工学会特別名誉会員・フェロー，生態工学会名誉会員・特別理事，日本農業気象学会名誉会員・フェロー，酸性雨研究会顧問，光合成学会幹事，日本リモートセンシング学会評議員，もったいない学会評議員，(財) 遺伝学普及会 雑誌「遺伝」 編集委員

・マスコミ広報

農機新聞 令和6年度春の叙勲（全国誌，上毛新聞，南海放送，商工たかさきなどでも紹介）

群馬テレビ 高崎市と高崎健康福祉大―農林業振興や人材育成で協定締結

（2024/12/12 news eye8）

上毛新聞 高崎市と高崎健康福祉大―農林業振興で連携協定締結（2024/12/13 19 面）

【研究室】農業情報システム学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

農業情報解析学，農業情報システム学，生物生産学概論 A，卒業研究Ⅲ，専門演習Ⅲ，卒業研究Ⅱ，専門演習Ⅱ，卒業研究Ⅰ，専門演習Ⅰ，作物園芸特別実験・実習，作物園芸実習Ⅱ，作物園芸実習Ⅰ，情報リテラシーⅥ，健大で学ぶ Well-being

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 B，生物生産学演習Ⅰ，生物生産学特別研究Ⅰ

・学内行事の担当

保護者会 教育課程についての説明（2024/06/15），夏のオープンキャンパス 個別相談担当（2024/07/28，2024/08/17），高校生自由研究コンテスト 2024（2024/09/02-09/13）

【学内委員会活動】

学長補佐，教務委員会，教養教育専門部会，農場運営委員会，学年担任（2024 年度入学生）

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

埼玉県立大宮南高校 模擬授業「地球温暖化と陸域生態系のはなし」（2024/10/24）

・学会活動

農村計画学会 評議員，農業情報学会 副会長，理事，リモートセンシング部会・部会長，広報・社会貢献委員会・副委員長，編集委員会，生態工学会 役員

大野 英一（おおの えいち Eiichi Ono）

【研究室】農業情報システム学

【職名】講師

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

生物生産学概論 A, 植物環境計測学, 農業情報計測学, 生物統計学, 作物園芸実習I, 作物園芸実習II, 作物園芸特別実験・実習, キャリアアップ演習I, キャリアアップ演習II, 情報リテラシーV, 卒業研究I, 専門演習I, 卒業研究II, 専門演習II, 卒業研究III, 専門演習III

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 B, 園芸システム学特論, 生物生産学特別研究I, 生物生産学演習I

・学内行事の担当

保護者会 個別相談（分担）（2024/06/15）, オープンキャンパス・オープンラボ（2024/07/28, 2024/08/17, 2025/03/08）「シミュレーターでドローンの操縦を学ぼう！」

・セミナー開催

第1回農学部セミナー「組織培養から大規模温室の運営まで～ブラジルでの経験から～」（2024/04/11）

生物生産学科キャリアアップ講座「ユーグレナの研究開発と社会実装について」（2024/10/24）

さくらサイエンスプログラム 特別講義 ”Smart agriculture and drones”（2024/10/22）

【学内委員会活動】

図書館運営委員会, 国際交流委員会, キャリアサポート委員会, 予算委員会, 農場運営委員会

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

高大連携パートナーシッププログラム 高崎健康福祉大学高崎高等学校「ドローンの操縦を学ぼう！」（農業情報システム学研究室の他教員とともに実施）（2024/06/03-04）

・学外委員会

NEDO 委託事業推進委員会「微細藻類由来バイオジェット燃料生産の産業化と CO₂利用効率の向上に資する研究拠点及び基盤技術の整備・開発」委員

・学会活動

生態工学会国際理事副委員長（10月まで）, 10月より生態工学会国際理事委員長, The American Society of Agricultural and Biological Engineers (ASABE) 会員, 日本生物環境工学会会員

5.3. フードサイエンスコース

松岡 寛樹(まつおか ひろき Hiroki Matsuoka)

【研究室】食品学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目 (学部)

生物生産学概論 B, 食品学I, 食品学II, 食品機能学, 生物生産学基礎実験I, 生物生産学基礎実験II, キャリアアップ演習I, キャリアアップ演習II, フードサイエンス基礎実験I, フードサイエンス基礎実験II, フードサイエンス特別実験, 農学インターンシップ, 専門演習I, 専門演習II, 専門演習III, 卒業研究I, 卒業研究II, 卒業研究III

健康福祉学研究科：応用食品学研究

担当授業科目 (大学院)

生物生産学特論 A, 食品学特論, 食品安全学特論, 生物生産学演習I, 生物生産学演習II, 生物生産学特別研究I, 生物生産学特別研究II, 応用食品学研究, 生物生産学特殊研究

【学内委員会活動】

教務委員会, キャリアサポート委員会, 農学インターンシップ委員会, 自由研究コンテスト係

【研究業績】

・著書

1. 阿部雅子, 富澤歩美, 長井祐子, 高梨美穂, 松岡寛樹, 小澤好夫, 綾部園子. カリンエキスゼリーの赤色着色におよぼす糖質系甘味料の影響および食味特性, 日本調理科学会誌 Vol.57(4),1-10 (2024)
2. Kumakura K, Anahara S, Kobayashi T, and Matsuoka H. Analysis of functional components in preserving *Ganoderma lucidum* fruiting bodies. Mushroom Science and Biotechnology 32(4): 169-175. 2024.

・学会発表

1. 熊倉 慧, 黒瀬愛莉, 穴原 壮, 小林泰斗, 松岡寛樹. シイタケ浅漬け処理における機能性成分の解析. 日本きのこ学会第 27 回大会. 2024/09/03.
2. 穴原 壮, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. イソチオシアネートを強化した高機能浅漬けの開発. 日本食品科学工学会第 71 回大会. 2024/08/31.
3. 杉山元彌, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. たくあん漬けの新規黄色色素の生成経路の導出. 日本食品科学工学会第 71 回大会. 2024/08/31.
4. 須田樹生, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 岡田早苗, 松岡寛樹. 低温発酵乳酸菌による機能性糠漬けの開発. 日本食品科学工学会第 71 回大会. 2024/08/31.
5. 杉山元彌, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. ダイコンの辛味成分に由来するエナミン系新規黄色色素の合成法の確立と立体構造の解析. 日本農芸化学会 2025 年度大会. 2025/03/06.
6. 穴原 壮, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. ガス置換包装によるイソチオシアネートを強化した高機能浅漬けの開発. 日本農芸化学会 2025 年度大会. 2025/03/07.
7. 杉山元彌, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. ダイコンの辛味成分に由来するエナミン系新規黄色色素の合成法と立体構造の解析. 第 49 回群馬県分析研究会研究発表会. 2024/12/04.
8. 穴原 壮, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. イソチオシアネートを強化した高機能浅漬けの開発. 第 49 回群馬県分析研究会研究発表会. 2024/12/04.

・研究展示

1. 熊倉 慧, 小林泰斗, 松岡寛樹. マンネンタケ子実体の二次代謝物に関する研究. 第 28 回群馬県きのこ品評会研究展示 2025/2/04, 05

・外部予算獲得

1. 株式会社新進奨学寄付金研究
2. 株式会社 3MEN 受託研究
3. 飯島藤十郎記念食品科学振興財団研究助成
4. 群馬県蚕糸技術センター研究業務委託
5. ラフイーネインターナショナル奨学寄付金研究
6. 群馬県立農林大学校共同研究

【学外活動・社会貢献】

・ **社会貢献活動**

1. 漬物グランプリ 2024 審査員 (2024/04/27)
2. 農産物漬物 JAS 工場の品質管理担当者等資格取得のための専門講習会 (2024/05/27)
3. 山崎香辛料財団スパイス&ハーブ検定認定委員会 (2024/07/01)
4. 長野県漬物品評会審査員 (2024/10/31)
5. 2024 年度食品衛生管理者登録講習会講師 (2025/02/15, 19, 21, 27-03/04)
6. 全国漬物検査協会研究発表会アドバイザー (2025/02/28)

・ **学外委員会**

全国漬物検査協会理事

・ **学会活動**

日本食品科学工学会代議員, 日本農芸化学会

【研究室】食品学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目 (学部)

農学部：生物生産学概論 B, 食品保蔵学, 食品加工学, 食品機能学, 生物生産学基礎実験I、生物生産学基礎実験II、フードサイエンス基礎実験, フードサイエンス特別実験, 農学インターンシップ, 専門演習I, II及びIII, 卒業研究I, II及びIII

・担当授業科目 (大学院)

健康福祉学研究科：応用食品学特論

農学研究科：生物生産学特論 A, 食品学特論, 食品微生物学特論, 生物生産学演習I, 生物生産学演習II, 生物生産学特別研究I, 生物生産学特別研究II, 応用食品学研究, 生物生産学特殊研究

・学内行事の担当

オープンキャンパス

【学内委員会活動】

広報委員会, 農学インターンシップ委員会、学部長補佐

【研究業績】

・原著論文

1. Kumakura K(責任著者), Anahara S, Kobayashi T, and Matsuoka H. Analysis of functional components in preserving *Ganoderma lucidum* fruiting bodies. *Mushroom Science and Biotechnology* 32(4): 169-175. 2024.

・学会発表

1. 熊倉 慧, 黒瀬愛莉, 穴原 壮, 小林泰斗, 松岡寛樹. シイタケ浅漬け処理における機能性成分の解析. 日本きのこ学会第 27 回大会. 2024/09/03.
2. 穴原 壮, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. イソチオシアネートを強化した高機能浅漬けの開発. 日本食品科学工学会第 71 回大会. 2024/08/31.
3. 杉山元彌, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. たくあん漬けの新規黄色色素の生成経路の導出. 日本食品科学工学会第 71 回大会. 2024/08/31.
4. 須田樹生, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 岡田早苗, 松岡寛樹. 低温発酵乳酸菌による機能性糠漬けの開発. 日本食品科学工学会第 71 回大会. 2024/08/31.
5. 杉山元彌, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. ダイコンの辛味成分に由来するエナミン系新規黄色色素の合成法の確立と立体構造の解析. 日本農芸化学会 2025 年度大会. 2025/03/06.
6. 穴原 壮, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. ガス置換包装によるイソチオシアネートを強化した高機能浅漬けの開発. 日本農芸化学会 2025 年度大会. 2025/03/07.
7. 杉山元彌, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. ダイコンの辛味成分に由来するエナミン系新規黄色色素の合成法と立体構造の解析. 第 49 回群馬県分析研究会研究発表会. 2024/12/04.
8. 穴原壮, 小林泰斗, 熊倉 慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. イソチオシアネートを強化した高機能浅漬けの開発. 第 49 回群馬県分析研究会研究発表会. 2024/12/04.

・研究展示

1. 熊倉 慧, 小林泰斗, 松岡寛樹. マンネンタケ子実体の二次代謝物に関する研究. 第 28 回群馬県きのこ品評会研究展示 2025/02/04-05
2. 熊倉 慧, 岡本健吾. マンネンタケの酵素遺伝子に関する研究. 第 28 回群馬県きのこ品評会研究展示 2025/02/04-05

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C (代表) (2021-2024)
2. 科学研究費 基盤研究 B (分担) (2024-2028)

・その他

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

1. 2024 年度食品衛生管理者登録講習会講師 (2025/02/21, 25, 26, 27)
2. 進路説明会講師 栃木県立小山高等学校 他 9 校 (2024/04/17-2025/03/14)

3. 南八幡学童クラブ・第二学童クラブ科学教室講師 (2024/08/20, 23)

・学会活動等

日本きのこ学会 (理事・編集委員・会則検討委員・第 28 回大会実行委員長), 日本食品科学工学会, 日本農芸化学会, 第 57 回全国保育団体合同研究集会 (開催地実行委員長)

・マスコミ広報

1. もっと知りたい セロリのカリウム 元気+らいふ 2,3 月号 vol.96 上毛新聞 (2025/02/12)

【研究室】食品学

【職名】助教

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学基礎実験I, 化学基礎, 生物生産学基礎実験II, 有機化学, 生物生産学概論 B, フードサイエンス基礎実験, フードサイエンス特別実験, 卒業研究I, 専門演習I, 食品分析学, 卒業研究II, 専門演習II, 卒業研究III, 専門演習III

・学内行事の担当

フレッシュマンキャンプ 担任 (2024/04/08-09), 健大パートナーシッププログラム 取りまとめ (2024/06/03-04, 06/13), 理科スクール 企画 (2024/08/03), 健大広げる未来プロジェクト 取りまとめ (2024/07/13)

【学内委員会活動】

入試委員会, 地域貢献委員会, 感染性廃棄物・廃液処理委員会

【研究業績】

・原著論文

1. Kumakura K, Anahara S, Kobayashi T, and Matsuoka H. Analysis of functional components in preserving *Ganoderma lucidum* fruiting bodies. *Mushroom Science and Biotechnology* 32(4): 169-175. 2024.

・研究展示・学会発表

1. 熊倉慧, 黒瀬愛莉, 穴原壮, 小林泰斗, 松岡寛樹. シイタケ浅漬け処理における機能性成分の解析. 日本きのこ学会第 27 回大会. 2024/09/03.
2. 穴原壮, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. イソチオシアネートを強化した高機能浅漬けの開発. 日本食品科学工学会 第 71 回記念大会. 2024/08/31.
3. 杉山元彌, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. たくあん漬けの新規黄色色素の生成経路の導出. 日本食品科学工学会 第 71 回記念大会 2024/08/31.
4. 須田樹生, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 岡田早苗, 松岡寛樹. 低温発酵乳酸菌による機能性糠漬けの開発. 日本食品科学工学会 第 71 回記念大会 2024/08/31.
5. 杉山元彌, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. ダイコンの辛味成分に由来するエナミン系新規黄色色素の合成法と立体構造の解析. 第 49 回群馬県分析研究会研究発表会. 2024/12/04.
6. 穴原壮, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. イソチオシアネートを強化した高機能浅漬けの開発. 第 49 回群馬県分析研究会研究発表会. 2024/12/04.
7. 杉山元彌, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. ダイコンの辛味成分に由来するエナミン系新規黄色色素の合成法の確立と立体構造の解析. 日本農芸化学会 2025 年度大会. 2025/03/06.
8. 穴原壮, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. ガス置換包装によるイソチオシアネートを強化した高機能浅漬けの開発. 日本農芸化学会 2025 年度大会. 2025/03/07.
9. 熊倉慧, 小林泰斗, 松岡寛樹. マンネンタケ子実体の二次代謝物に関する研究. 第 28 回群馬県きのこ品評会研究展示 2025/02/04-05.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 若手研究 (23K12688 2023-2026)

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

日本食品科学工学会 会員

日本農芸化学会 会員

【研究室】食品微生物学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

生物生産学概論 B, 微生物学, 応用微生物学, 食品免疫学, フードサイエンス基礎実験II, フードサイエンス特別実験, 卒論研究 I, 卒論研究 II, 卒論研究 III, 専門演習 I, 専門演習 II, 専門演習 III

・担当授業科目（大学院）

生物生産学特論 A, 食品微生物学特論, 食品安産学特論, 生物生産学演習I, 生物生産学演習II, 生物生産学特別研究I, 生物生産学特別研究II, 食品安産学研究, 生物生産学特殊研究

【学内委員会活動】

動物実験委員会, 健康管理センター運営委員会

【研究業績】

・学会発表

1. 鎌田将永, 岡田早苗, 辻聡. 味噌製造法の改良による Dipeptidyl peptidase 4 阻害活性の向上, 第 33 回日本健康医学会総会, 東京. 2024/06/11.
2. 鎌田将永, 岡田早苗, 辻聡. 味噌製造法の改良による Dipeptidyl peptidase 4 阻害活性の向上, 日本農芸化学会 2025 年度大会, 札幌. 2025/03/05.
3. 辻聡, 小林滉季, 千葉誠, 神山恭子, 加藤倫之, 岡田早苗. 関東くず餅の原料である発酵小麦の生成に
関与する乳酸菌の特定と保有するグルコアミラーゼについて, 日本農芸化学会 2025 年度大会, 札幌.
2025/03/05.
4. 竹田伶, 西沢紀昭, 辻聡, 岡田早苗. 酒まんじゅうの発酵に関する乳酸菌の解析, 日本農芸化学会 2025 年
度大会, 札幌. 2025/03/05.
5. 阿部雅子, 高橋雅子, 森下雄太, 岡田早苗, 辻聡, 村松芳多子, 綾部園子. 伝統食品「くろこ」調理品の
物性および抗酸化性の評価. 日本調理科学会 2024 年度大会. 神奈川県. 2024/06/07.
6. 高橋雅子. 阿部雅子. 森下雄太. 岡田早苗. 辻聡. 村松芳多子. 綾部園子. 伝統食 品「くろこ」製造過
程におけるデンプンと食物繊維量の変化. 日本調理科学会 2024 年度大会. 神奈川県. 2024/06/07.
7. 村松 芳多子, 高橋 雅子, 川上 さくら, 吉田 美月, 阿部 雅子, 岡田早苗, 辻 聡, 綾部 園子. くろこ製
造過程の細菌挙動とでんぷん量の変化に関する研究. 日本家政学会第 76 回大会. 愛知県. 2024/05/24-26.

・講演会

1. 岡田早苗: 漬物と乳酸菌の話 (第 9 回講座); 第 8 期発酵の学校 (特定非営利活動法人発酵文化推進機
構), 東京. 2024/09/14.
2. 岡田早苗: 我が国に残る稀少伝統発酵食品と微生物の役割; 名古屋生活クラブ講演会, 名古屋. 2024/10/16.
3. 岡田早苗: 健康と美容を守る発酵食品; 群馬の食文化研究会, 群馬玉村町. 2024/12/08.
4. 岡田早苗: 発酵食品にまつわる麴の世界; 木曽町はっこうのがっこう (めくるめく麴の世界への誘い),
長野木曽町. 2025/01/12.

・外部予算獲得

1. 岡田早苗: 共同研究費; 100 年経営研究機構 (2024)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

1. Sanae Okada: A new category, plant origin lactic acid bacteria (POLAB) living in Japanese traditional fermented
foods, ベトナム学生への講義 (健大). 2024/10/24.
2. 岡田早苗: 身近な微生物『乳酸菌』の世界; 長野県須坂高等学校模擬講義, 長野. 2024/11/28.

・学会活動

会員：日本乳酸菌学会，日本農芸化学会，日本生物工学会，日本食品科学工学会，日本微生物資源学会，日本健康医学会

・マスコミ広報

1. NHK；あしたが変わるトリセツショー「キムチ」のトリセツ(2024/07/04)
2. 日本人の腸はわがまま！？；主婦向け雑誌「だんらん」（マイケア）(2025/01/01)

辻 聡 (つじ あきら Akira Tsuji)

【研究室】食品微生物学

【職名】講師

【学内教育活動】

・担当授業科目 (学部)

生物生産概論 B, フードサイエンス基礎実験, フードサイエンス基礎実験II, フードサイエンス特別実験, 食品機能学, 醸造学, 専門演習I, 卒業研究I, 専門演習II, 卒業研究II, 専門演習III, 卒業研究III,

・学内行事の担当

高校生自由研究コンテスト 2024 (2024/06/01-10/20)

第2回 生物生産学科ホームカミングデー 開催及び研修会の講師 (2024/10/19)

【学内委員会活動】

教務委員会, 学生委員会, 年報委員会, 生物生産学科同窓会

【研究業績】

・講演・学会発表

1. 鎌田 将永, 岡田 早苗, 辻 聡. 味噌製造法の改良による Dipeptidyl peptidase 4 阻害活性の向上. 日本農芸化学会 2025 大会. 北海道. 2025/03/04-08.
2. 辻 聡, 小林 滉季, 千葉 誠, 神山 恭子, 加藤 倫之, 岡田 早苗. 関東くず餅の原材料である発酵小麦の生成に関与する乳酸菌の特定と保有するグルコアミラーゼについて. 日本農芸化学会 2025 大会. 北海道. 2025/03/04-08.
3. 竹田 伶, 西沢 紀昭, 辻 聡, 岡田 早苗. 酒まんじゅうの発酵に関する乳酸菌の解析. 日本農芸化学会 2025 大会. 北海道. 2025/03/04-08.
4. 辻 聡. 発酵食品の機能性成分および汚染菌の防除について. 令和6年度第2回信州発酵フードテック研究会. 長野県. 2024/11/21(招待講演)
5. 鎌田 将永, 岡田 早苗, 辻 聡. 味噌製造法の改良による Dipeptidyl peptidase 4 阻害活性の向上. 第33回 日本健康医学会総会. 東京都. 2024/11/09.
6. 松本 美樹, 辻 聡, 仲島 日出男. そば末粉に含まれるレジスタントプロテインの加熱加工時の変化. 日本食品科学工学会第71回大会. 愛知県. 2024/08/29-31.
7. 阿部 雅子, 高橋 雅子, 森下 雄太, 岡田 早苗, 辻 聡, 村松 芳多子, 綾部 園子. 伝統食品「くろこ」調理品の物性および抗酸化性の評価. 日本調理科学会 2024 年度大会. 神奈川県. 2024/09/06-07.
8. 高橋 雅子. 阿部 雅子. 森下 雄太. 岡田 早苗. 辻 聡. 村松 芳多子. 綾部 園子. 伝統食品「くろこ」製造過程におけるデンプンと食物繊維量の変化. 日本調理科学会 2024 年度大会. 神奈川県. 2024/09/06-07.
9. 村松 芳多子, 高橋 雅子, 川上 さくら, 吉田 美月, 阿部 雅子, 岡田 早苗, 辻 聡, 綾部 園子. くろこ製造過程の細菌挙動とでんぷん量の変化に関する研究. 日本家政学会第76回大会. 愛知県. 2024/05/24-26.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C (代表) (2022-2024)
2. 醤油 PR 協議会 (2023-2024)

・その他

1. 学内研究交流助成金 (2022-2024) (共同研究者)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

現地技術指導の講師 有限会社 穀平味噌醸造場 (2025/02/17)

埼玉県産業技術総合センター 客員研究員 (2024/04/01-2025/03/31)

系統・分野別出前授業 (農学) 群馬県立大泉高等学校 (2024/11/15)

東京農業大学オープンカレッジ 前期「良食を学ぼう ～調味料の選び方と良い食べ方～」 (2024/08/31)

東京農業大学オープンカレッジ 後期「良食を学ぼう ～調味料の選び方と良い食べ方～」 (2025/02/22)

・学会活動

日本乳酸菌学会 編集委員, 泊まり込みセミナー委員. 全国味噌協会 会員. 日本健康医学会 評議員. 日本食品保蔵科学会 会員

【研究室】 食品安全学

【職名】 准教授

【学内教育活動】

・ 担当授業科目 (学部)

食品衛生学, 食品安全学, 生物生産学基礎実験Ⅱ, フードサイエンス基礎実験Ⅱ, フードサイエンス特別実験, 卒業研究Ⅰ, 卒業研究Ⅱ, 卒業研究Ⅲ, 専門演習Ⅰ, 専門演習Ⅱ, 専門演習Ⅲ, 生物生産学概論 B, 情報リテラシーⅣ, 微生物学 (看護実践開発センター感染管理認定看護師教育課程)

・ 担当授業科目 (大学院)

生物生産学特論 A, 食品微生物学特論, 生物生産学演習Ⅱ, 生物生産学特別研究Ⅱ, 生物生産学特殊研究

・ 学内行事の担当

3年生担任, 保護者会 保健衛生委員会 (2024/06/18), 高大連携事業「高崎健康福祉大学 広げる未来プロジェクト」(2024/07/13), 夏のオープンキャンパス 個別相談 (2024/07/28), 夏のオープンキャンパス オープンラボ, 個別相談 (2024/08/17-18), 春のオープンキャンパス 模擬授業, オープンラボ (2025/03/08),

・ セミナー開催

HACCP 研修 (3 日間コース) 開講 SOMPO リスクマネジメント株式会社危機管理コンサルティング部 (2024/08/07-09)

【学内委員会活動】

保健衛生委員会, 研究倫理委員会, 内部質保証会議, 高崎市医療介護連携相談センター南大類

【研究業績】

・ 報告書など

1. 松永安由, 石岡大成. レジオネラ属菌の迅速診断培養法の検討. 健康づくり研究助成「あさお賞」. 4. 2024
2. 株式会社スカパーレ, 高崎健康福祉大学, 株式会社日本化薬フードテクノ, 群馬産業技術センター. 分子量制御キトサンによるペット用口腔ケア商品の開発. 令和 6 年度群馬産業技術センター公募型共同研究.
3. 2025

・ 講演・学会発表

1. 友松愛, 小見暁子, 石岡大成, 松永安由, 土井信幸. 紙おむつの不織布層とポリマー層における細菌増殖能の比較. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 54 回学術大会. 2024/08/10.
2. 山城芽以, 松永安由, 石岡大成. 群馬県内のイヌおよびネコの *Escherichia albertii* 保菌状況. 令和 6 年度獣医学術関東・東京合同地区学会 (日本獣医公衆衛生学会). 2024/09/01.
3. 川野和男, 近藤康人, 松永安由, 石岡大成. *Malassezia* 属菌に対するキトサンの分子量による効果. 令和 6 年度獣医学術関東・東京合同地区学会 (日本獣医公衆衛生学会). 2024/09/01.
4. 石岡大成. 食中毒事例の近状および食中毒予防のための知見. 令和 6 年度学校給食衛生管理研修会. 2024/07/19-2024/09/20(web) .

・ 外部予算獲得

1. 令和 6 年度厚生労働省科学研究費補助金 (食品の安全確保推進研究事業) 研究協力者
2. 令和 6 年度群馬産業技術センター公募型共同研究 分子量制御キトサンによるペット用口腔ケア商品の開発 共同研究者
3. 令和 6 年度健康づくり研究助成「あさお賞」 食品の調理・加工工程における効果的な除菌方法の検討 共同研究者

【学外活動・社会貢献】

・ 公開講座

石岡大成. 食品の衛生微生物検査と殺菌技術. 長野県産業人材カレッジ事業技術講座 (2024/06/20)

・ 学外教育活動

麻布大学 ゲストスピーカー「HACCP 研修会」(2024/04/20-21), 株式会社新進 講師「食品における有害微生物について」(2024/08/30), 国立感染症研究所 客員研究員 (ゲストスピーカー)「細菌研修」(2024/10/25)

・ 学外委員会

群馬県動物愛護普及啓発検討委員会 委員長, 群馬県食品安全審議会 委員, 群馬県生活衛生適正化審議会 委員, 群馬県探知犬医学研究提案選定委員会 審査委員, 高崎健康福祉大学看護実践開発センター認定看護師

教育課程教員会 委員

・学会活動

日本食品微生物学会 評議員, 日本細菌学会 会員, 日本感染症学会 会員, 日本獣医師会 会員

・マスコミ広報

1. 石岡大成. 補助犬についてのご理解をお願いします. 高崎市医療介護連携相談センター南大類コラム (2025/02/10)

(https://minamioorui.kendai-clinic.jp/topics_main.php?t_no=339&fm=renkei_top)

2. 石岡大成. 私の薦める1冊の本『「甘え」の構造[増補普及版]』 土居健郎 著 弘文堂 (2007). 図書館報「藤波」 24(2) 2025

・その他

高崎市内企業との共同商品開発 (抗菌・抗カビ・抗ウイルス機能を発揮する分子量制御キトサンの開発).

(<https://www.youtube.com/watch?v=t2gGDoCIFAg>)

松永 安由（まつなが あゆ Ayu Matsunaga）

【研究室】 食品安全学

【職名】 助教

【学内教育活動】

・ 担当授業科目（学部）

調理学実習，フードサイエンス基礎実験Ⅰ，フードサイエンス特別実験，食品免疫学，生物生産学概論 B，専門演習Ⅱ，卒業研究Ⅱ

・ 学内行事の担当

令和 6 年度 高崎健康福祉大学 広げる未来プロジェクト「食器がきれいに洗浄できているか確認してみよう」
（2024/7/13）

夏のオープンキャンパス フロア誘導担当（2024/08/17）

高校生自由研究コンテスト（2024/10/19-20）

【学内委員会活動】

入試委員会，子ども・家族支援センター委員会，障がい学生支援委員会

【研究業績】

・ 外部予算獲得

1. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究（2022-2027）（研究代表者）

【学外活動・社会貢献】

・ 学外活動

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所ワクチンマテリアルプロジェクト 協力研究員
（2020-2024）

・ 学会活動

日本栄養・食糧学会 会員，日本農芸化学会 会員，日本免疫学会 会員，食品微生物学会 会員

5.4. アグリビジネスコース

草薙 仁（くさかり ひとし Hitoshi Kusakari）

【研究室】アグリビジネス

【職名】教授

【学内教育活動】

- ・担当授業科目（学部）
生物生産学概論 A, アグリビジネス論, 食料経済学, 農業保護と貿易の経済学, アグリビジネス特別演習, 専門演習I, 専門演習II, 専門演習III, 卒業研究I, 卒業研究II, 卒業研究III
- ・担当授業科目（大学院）
生物生産学特論 B, アグリビジネス特論 A, アグリビジネス特論 B
- ・学内行事の担当
農学部保護者会 個別相談（2024/06/15）
夏のオープンキャンパス オープンラボ, 個別相談（2024/07/27-28）
春のオープンキャンパス 個別相談（2025/03/08）
高校生論文コンテスト 2024（2024/04/01-2025/01/29）

【学内委員会活動】

内部質保証会議, 教務委員会

【研究業績】

- ・講演・学会発表
1. 谷頭子, 草薙仁. コロナ禍による食料摂取形態の変化に関する分析. 2025 年度日本農業経済学会大会, 日本大学, 2025/03/30.
- ・外部予算獲得
1. 科学研究費 基盤研究 C（代表）（2022-2024）

【学外活動・社会貢献】

- ・学外教育活動
群馬県立中央中等教育学校「総合的な学習の時間」依頼講義（2025/02/27）
- ・学外委員会
群馬県農政審議会会長
群馬県農地中間管理事業評価委員
- ・学会活動
日本農業経済学会 名誉会員, 日本フードシステム学会 正会員, 日本農業経営学会 正会員, 日本家政学会 正会員
- ・マスコミ広報
上毛新聞「物価沸騰 変わる経済 ①食料品」（2024/08/20）
上毛新聞電子版「“令和の米騒動” はなぜ起きた？」（前編）（2025/03/17）
上毛新聞電子版「“令和の米騒動” はなぜ起きた？」（後編）（2025/03/18）
上毛新聞「コメ高騰、備蓄米放出が後手、下落効果は「限定的」」（2025/03/25）

【研究室】アグリビジネス

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目 (学部)

健大で学ぶ Well-being, 生物生産学概論 A, 農業経営戦略論, フードサービス産業論, 食と農のブランド化論, 六次産業化実習, 海外日本食事情演習, アグリビジネス特別演習, 卒業研究I, 専門演習I, 専門演習II, 卒業研究II, 専門演習III, 卒業研究III

・担当授業科目 (大学院)

生物生産学特論 B, アグリビジネス特論 A, アグリビジネス特論 B,

・学内行事の担当

保護者会「農学インターンシップ実習」「海外日本食事情演習」説明担当 (2024/06/15), 春のオープンキャンパスオープンラボ・入試説明・個別相談担当 (2024/07/21, 2024/8/17-18, 2025/03/08)

・セミナー開催

関東農政局 企業説明会 (2024/06/06)

第3回農学セミナー「農産物・食品の輸出について」(2024/07/25)

農学部合同企業説明会 (2024/11/21)

関東農政局によるセミナーと意見交換会「みどりの食料システム戦略」(2024/11/28)

食品表示セミナー「①食品表示法・食品表示基準／②食物アレルギー表示／③保健機能食品」(2024/12/19)

消費者庁セミナー「消費者行政について」(2025/01/28)

【学内委員会活動】

入試委員会, 国際交流委員会, 農学インターンシップ実習運営委員会, 農学部全国高校生論文コンテスト事務局および審査業務

【研究業績】

・講演・学会発表

1. 齋藤文信, 特別セッションコメンテーター, 食料政策の新たな展開方向: 食料・農業・農村基本法見直しの主要論点, 日本農業経済学会 2024 大会, 宮城県, 2024/03/31.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 B (代表) (2022-2024)
2. 科学研究費 基盤研究 C (分担) (2022-2024)
3. 学会研究助成 日本フードサービス学会研究助成 (代表) (2022-2024)
4. 自治体受託調査研究 群馬県やま・さと応援隊活動調査 (代表) (2024)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

東洋大学 非常勤講師「マーケティング入門」(2024/04/10-2024/09/16)

出前授業 群馬県立伊勢崎興陽高校 (2024/12/13)

・学会活動

日本農業経営学会理事, 日本フードシステム学会編集委員, 日本フードサービス学会研究委員会委員, 日本フードシステム学会会員, 日本農業経済学会会員, 東北農業経済学会会員

・マスコミ広報

日本農業新聞「企業参入に注力」(企業の農業参入についてのコメント) (2024/06/04)

【研究室】アグリビジネス

【職名】講師

【学内教育活動】

- ・担当授業科目 (学部)
生物生産学概論 A, 現代農業事情, キャリアアップ演習I, 食と農のデータサイエンス, 簿記会計学, アグリビジネス特別演習, 海外日本食事情演習, 専門演習I, 卒業研究I, 専門演習II, 卒業研究II, 専門演習III, 卒業研究III
- ・担当授業科目 (大学院)
生物生産学特論 B, アグリビジネス特論 A, アグリビジネス特論 B
- ・学内行事の担当
フレッシュマンキャンプ 企画・引率 (2024/04/08-09), 農学部保護者会 運営 (2024/06/15), 夏のオープンキャンパス 運営 (2024/07/27, 2024/07/28, 2024/08/17, 2024/08/18), 高校生論文コンテスト 2024 (2024/04/01-2025/01/29), 春のオープンキャンパス 運営 (2025/03/08)
- ・セミナー開催
関東農政局 企業説明会 (2024/06/06)
第3 回農学セミナー「農産物・食品の輸出について」(2024/07/25)
農学部合同企業説明会 (2024/11/21)
関東農政局によるセミナーと意見交換会「みどりの食料システム戦略」(2024/11/28)
食品表示セミナー「①食品表示法・食品表示基準／②食物アレルギー表示／③保健機能食品」(2024/12/19)
消費者庁セミナー「消費者行政について」(2025/01/28)

【学内委員会活動】

広報委員会, キャリアサポート委員会, 学生委員会, 農学部年報委員会, 農学部予算委員会

【研究業績】

- ・講演・学会発表
1. 谷顕子, 草苺仁. コロナ禍による食料摂取形態の変化に関する分析. 2025 年度日本農業経済学会大会, 日本大学, 2025/03/30.
- ・外部予算獲得
1. 科学研究費 基盤研究 B (分担) (2022-2024)
2. 自治体受託調査研究 群馬県やま・さと応援隊活動調査 (分担) (2024)

【学外活動・社会貢献】

- ・学外教育活動
出前授業 飛鳥未来さずな高等学校 (2024/12/12), 群馬県伊勢崎興陽高等学校 (2025/01/30)
- ・学会活動
日本農業経済学会 正会員, 日本農業経営学会 正会員, 地域農林経済学会 正会員, 日本フードシステム学会 正会員

5.5. 地域連携室

倉澤 政則（くらさわ まさのり Masanori Kurasawa）

【研究室】地域連携室

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目（学部）

生物生産学概論 A, 生物生産学概論 B, 地域農業概論, キャリアアップ演習I, キャリアアップ演習II, 農学インターンシップ実習

・学内行事の担当

夏のオープンキャンパス 地域連携室ブース（2024/07/27-28, 08/17-18）,

春のオープンキャンパス 地域連携室ブース（2025/03/08）, 日本農業技術検定（2025/12/07）

・セミナー開催

第6回農学部セミナー「あなたの知らない野生鳥獣の世界」（2025/01/16）

【学内委員会活動】

地域貢献委員会（地域貢献部会）, キャリアサポート委員会, インターンシップ運営委員会

【研究業績】

・講演・学会発表

1. 倉澤政則. 気象から見た群馬県農業～天地人で地域農業を盛り上げる～. 令和6年度渋川地区新規就農者の集い. 渋川. 2024/07/11.
2. 倉澤政則. 議会における質問を考える～みなかみ町を盛り上げるために～. みなかみ町議会研修会. 2024/09/20.
3. 倉澤政則. 群馬県農業・農村の振興と土地改良事業. 令和6年度土地改良区等役員研修会. 渋川. 2024/11/08.
4. 倉澤政則. 群馬県農業のポテンシャルと課題～地域農業を支える皆さんへの期待～. JA 佐波伊勢崎 中堅職員人材育成研修会. 伊勢崎. 2025/01/08.
5. 倉澤政則. 近年の気象から見た農業～天地人で目指す農業を実現する～. 群馬県立農林大学校 令和6年度就農支援セミナー. 高崎. 2025/02/05.
6. 倉澤政則. 気象から見た群馬県農業～天地人で地域農業を盛り上げる～. 中之条町認定農業者協議会研修会. 中之条. 2025/03/04.

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

高校専門教育研修講座（群馬県教育委員会, 2024/8/28）,

群馬県学校農業クラブ連盟各種発表大会 審査員（群馬県農業クラブ連盟, 2024/07/04-05）

高崎健康福祉大学公開講座（2025/02/09）, 健大こども大学（2025/03/02）

・学外委員会

群馬県内水面漁場管理委員会 委員, 沼田市入札監視委員会 委員

・学会活動

日本農業気象学会 会員

・マスコミ広報

高崎健康福祉大学農学部地域連携室の紹介（2024/06/21, 全国農業新聞）

6. 受賞などのリスト

受章者名	受章年月	受章内容
大政 謙次	2024 年 4 月 29 日	瑞宝中綬章（教育研究功労）

7. 健大通信

高校生自由研究コンテスト



▲令和4年度 学長賞：鈴木琉也
(大阪府立園芸高等学校)



▲令和5年度 学長賞：安倍舜音、白瀬高虎、芝悠斗、益田光、劉丞禰
(愛媛県立宇和島東高等学校)

学科
Topics

08

「高校生自由研究コンテスト2023」
実施報告

生物生産学科 教授 松岡 寛樹

本コンテストは昨年度から始まり、今年で2年目を迎えました。テーマは「食農」に関連する研究とし、理系人材の育成のため、高校生に発表の場を提供することを目的に始めました。昨年度は17件でしたが、今年度は41件の応募がありました。応募されてきたテーマの研究分野は生物・化学・工学など多岐にわたっています。新鮮な視点と着想から、身近なところにテーマ設定した研究内容が多くありました。その他にも、未 completion ながらも「だわり」を持った実験など将来を期待させるテーマも集まってきました。

各演題については、高校生らしいユニークな視点があるかなどを基準に、厳正な審査を行っています。審査の結果、次の入賞8件のうち、学長賞並びに学部長賞にそれぞれ1演題、そして審査員特別賞1演題を選考しました。入賞者に対しては、大学祭初日に10号館にてハイブリッド表彰式を行いました。令和6年度も開催しますので、奮って応募下さい。

●令和4年度受賞者

<学長賞> 校内に生息するウシガエルと実習庭園に生息する生物の展示
鈴木琉也 (大阪府立園芸高等学校)

<学部長賞> 野菜に含まれるβ-カロテン量を顕微鏡的に高める条件の研究
上甲莉沙、宮本蓮、上笹莉子 (愛媛県立松山南高等学校)

<審査員特別賞> 微生物の力で大豆の成長を促進できるのか？
黒沢愛佳 (群馬県立高崎女子高等学校)

●令和5年度受賞者

<学長賞> 水質とカキの生息域の関連性～カキの生息条件Ⅱ～
安倍舜音、白瀬高虎、芝悠斗、益田光、劉丞禰 (愛媛県立宇和島東高等学校)

<学部長賞> 栃木県における農福連携の現状
高久海音 (栃木県立矢板高等学校)

<審査員特別賞> アオサからマグネシウムの精製
西馬昇栄、有角優太、森岡郁人 (神戸市立科学技術高等学校)

健大通信 2024 年 春号 Vol.41

海外日本食事情演習



▲現地スーパーでの視察の様子



▲シンガポール現地での座学

学科
Topics

08

「海外日本食事情演習」の紹介

生物生産学科 准教授 齋藤 文信

現在、世界各地で日本食ブームが起きている。日本食レストランの数は増加しています。また、日本からの農産物・食品の輸出は増加しており、国内の食や農に関する業界（公務員含む）では海外との接点が増えています。

このような情勢に対応するため、農学部生物生産学科では、全国の農学系大学の中でも珍しい海外の日本食に着目した「海外日本食事情演習」という、海外現地視察を含む授業（2年生以上・選択科目）を実施しています。農学部設置以来、新型コロナウイルスの流行により未開講が続きましたが、3期目ようやく開講することができた授業です。

単なる視察旅行とは異なり、事前学習では農林水産省関東農政局より講師をお招きし、日本産農産物・食品の輸出の現状について講義を受ける、日本からの進出企業を調べるなど、講義を8回行ったほか、帰国後には報告会を開催し、学びを深める内容となっています。

初の開講となった令和5年度は、令和6年2月18日～22日に3泊5日の日程で、10名の学生がシンガポールでの現地視察を行いました。

現地視察では、シンガポールで日本産農産物・食品の輸入やプロモーションを手掛ける企業の代表取締役とともに、日系スーパーや現地ローカルスーパー、飲食店に出向き、日本産品の取り扱い状況を視察しました。また、現地での座学では、在シンガポール日本国大使館の方や、食品アップサイクル企業の代表者、ファンドマ

最終日の自由視察見学では、学生自身が考えた視察を行い、現地ローカルフードや日本食レストランのメニューを味見し、日本との相違点を実際に味わい、体感することができました。店舗視察では日本産を模した中国産かんきつ類や、シャインマスカットの販売状況に衝撃を受けるなど、有意義な現地視察となりました。

健大通信 2023 年 秋号 Vol.42



TOPICS

総合科学としての農学と健大農学部への歩み

高崎健康福祉大学
農学部 学部長

大政 謙次 Omasa Kenji

農学は、食料や生活資材、生命、環境を対象とし、幅広い分野の自然科学、さらには人文・社会科学をもその基礎とする「総合科学」であり、現代的課題に実証科学として問題解決を図っていく学問です。方法も、ラボラトリー科学、フィールド科学、そして、情報科学などの多様な手法を用います。特に、地域、作物、食文化等のように対象が多様で、また、グローバルかつ地域性を考慮し、技術革新にも対応することが求められます。そして、国連が推進するSDGsのほとんど全てに関係し、人類の生存と地球環境の保全のために、無くてはならない重要な学問です。特に、世界の人々の貧困や飢餓を救える学問としての農学への期待は非常に大きいものがあります。また、農地や森林、河川や湖沼、海洋などは、食料供給の場だけでなく、防災や気候緩和、良好な景観、生物多様性、エネルギー供給などの多面的機能を持っており、これらの保全や活用も農学の重要な研究テーマです。さらに、地域の特産物や特産品の多くは、その地域でとれる農産物やそれを原材料にしたものです。このため、特産物の加工やガストロノミー・ツーリズム、或いは、グリーン・ツーリズムなども含めて、現在、政府が推進している地域活性化のためには、農学分野の貢献が不可欠です。また、食の安全安心や機能性食品に関係する分野も農学の主要分野です。

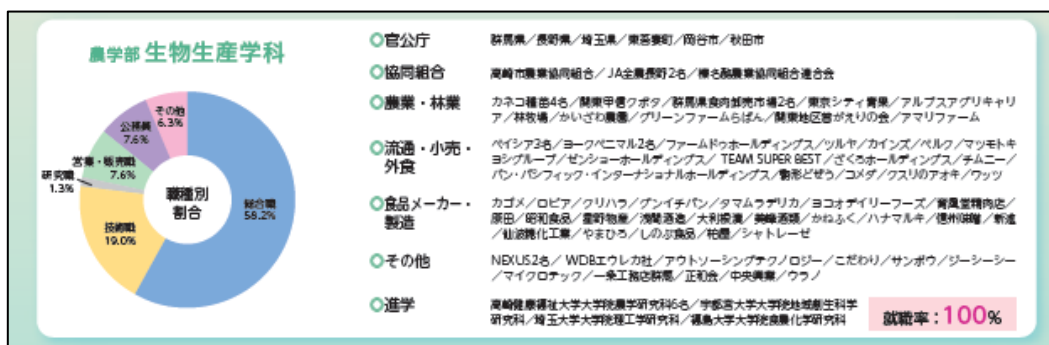
一方、健大の精神である自利利他の精神は、元々、維摩居士の大乗仏教の精神で、自らの修行の結果として得られた功徳を、自らが受け取るだけでなく、他の人々の救済のためにも施すことですが、人類の歴史とともに歩んできた学問である農学に関係する分野では、自利利他の精神の実例が数多くあります。例えば、奈良時代の行基や平安時代の弘法大師などは、仏教の教えの下に、防災や農業用水の確保のためのため池や用水路、灌漑設備などの工事をを行い、人々を救済しま

した。また、江戸時代に活躍した二宮尊徳は、貧しい家に生れながらも、苦勞して学問を重ね、天保の大飢饉を乗り越え、農村の復興に尽力しました。このような例は日本だけでなく、世界にも数多くあります。

このように、農学は古くからある学問ですが、未来に対しても非常に発展性のある学問です。健大農学部は、2019年4月に開設した健大では最も新しい学部で、生物生産学科の1学科ですが、生命科学コース、作物園芸システムコース、フードサイエンスコース、アグリビジネスコースの4つのコースを設置しています。そして、生命科学を基礎として、生産から流通、消費に至る一連のシステムと人々の健康や環境に関わる農学の最先端の知識を総合的に学び、社会で活躍できる人材の育成を目指しています。また、より高度で先端的な研究を実施しつつ、高度専門職業人や研究者を養成することを目的として、大学院農学研究科博士前期課程及び後期課程を設置しています。さらに、人材の育成や、農業・食品産業などの振興、共同研究などを目的として、群馬県をはじめ、JAグループ群馬、群馬県食品工業協会などと、また、大学では、千葉大学園芸学部や宇都宮大学農学部と、連携協定を締結しています。そして、一昨年度、昨年度と卒業生が出ましたが、(株)大学通信の調査では、農学系の国公立大学を含め、2年連続全国でトップの就職実績を上げることができました。また、公務員にも、群馬県をはじめ、近隣の県や市町村に1割弱程度就職する実績を上げています。一方、大学院へも、昨年度は1割程度の学生さんが進学しました。

今後、健大農学部で最先端の総合科学としての農学を学んだ学生が、自利利他やSDGsの精神に基づき、地域に貢献し、国際的に活躍することを願っています。

健大通信 2023 年 秋号 Vol. 42



健大通信 2023 年 秋号 Vol. 42



Takasaki University of Health and Welfare
ベストティーチャー賞
BEST TEACHER AWARD



健康栄養学科
木村 典代
教授

私のPCの記録によれば、高崎健康福祉大学開学以来、社会に送り出した健康栄養学科卒業生は約1,550名、そして現在の在籍数は346名です。5年ほど前に受賞させていただいた時にも同じことを述べておりますが、やはり一番感謝の気持ちを表したいのは、その時々学生の皆さんです。“教育者としてどうあるべきか”という答えは、いつも学生の皆さんが教えてくれました。そして、私たち教員を成長させてくれていると感じています。この素晴らしい賞に結びつけてくれたことに心から感謝しています。ありがとうございました。これからも、実践力を備えた管理栄養士の育成に尽力していきたいと思っています。

薬学科
岡田 裕子
教授

この度は大変名誉ある賞を賜り、教員・職員の皆様と学生の皆さんに、心より感謝申し上げます。私は薬剤師の実務の教育と、「人間性と主体性を育む教育」を目指し、学生に起こる様々な問題を一緒に考え解決していく事をライフワークとしてきました。大学としては、高度な知識・技能を持つことはもちろん、教育に対し一生懸命で労を惜しまない雰囲気であることが望まれ、組織として本学はそれを持っていると思います。学生が建学の精神である「自利利他」をより深く理解し、さらに行動に移してwell-being社会に貢献できるよう、この賞を励みにして研鑽を積み、より一層教育に尽力して参ります。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

理学療法学科
篠原 智行
教授

栄えある賞を頂き、誠にありがとうございました。令和三年度に頂き、二度目はないと思っておりました。当初はドッキリのフリだと思いましたが、気持ちを引き締め、三度目をもって殿堂入りをいつか果たしたいと思っています。
最近チーム医療アプローチ演習にて複数学科の先生方と講義をしております。また、今春からの地域貢献活動・調査研究では健康栄養学科や薬学科の学生とも活動しております。住民の豊かな暮らしに寄与できる学科の学生と一緒に学ぶことで、多職種協働の良さを感じ、卒後に繋がる教育機会を提供できるのが本学の強みです。
賞に恥じない学生との関わりを今後も心掛けていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

生物生産学科
岡田 早苗
教授

栄誉あるベストティーチャー賞をいただき、心より感謝申し上げます。立ち上げから一緒に農学部を引っ張ってこられた先生方に支えられていただけたものと思っております。私の担当科目は農学部で基盤となる微生物学です。多くの学生さんは微生物を身近に感じていても、その重要性を学ぶ機会は初めてと思い、私の授業を通じて「専門としての微生物」の知識を耳の奥に聞き置いていただけるように講義を進めて参りました。各講義、初段階で身近にいる微生物の話をして共通項を引き出し、後半に現在の微生物学でも解明できない不思議な話を交えての内容で講義を進め、「興味を持ってくれたかな」と思いつつ講義を締めくくって参りました。



▲木村典代 教授



▲岡田裕子 教授



▲篠原智行 教授



▲岡田早苗 教授



8. 大学評議員会報告

(1) 令和6年度 入試結果（入学者数）

農学部生物生産学科 88名（定員75名）

内訳：総合型選抜・学校推薦型選抜 49名、スカラシップ選抜1名（一般合格者）、一般選抜 27名、大学入学共通テスト利用選抜 11名

大学院農学研究科生物生産学専攻 7名（定員 博士前期課程4名、博士後期課程2名）

内訳：博士前期課程 7名、博士後期課程 0名

(2) 新学期における教育の現況

前期授業を4月12日に開始した。

- ・前期の授業開始前に、新入生ガイダンス（4月5日午前）および在学生ガイダンス（4月3日，1限：2年生，3限：3年生，2限：4年生）を実施した。各ガイダンスでは、履修上の注意，必要に応じ個別授業の説明をおこなった。また感染症対策，就職活動や大学院進学，国際交流などの説明もおこなった。3年生のガイダンスでは優秀学生を表彰した（以下の写真）。
- ・全学生を対象に学修ポートフォリオシステム（START）および副専攻カリキュラムの事前説明をおこなった。
- ・新入生を対象に，4月5日と10日の両日の午後，ノートパソコンの設定ガイダンス，「健大で学ぶ well-being」や「情報リテラシー科目」に関する受講前ガイダンスを実施した。
- ・新入生は4月8日と9日にフレッシュマンキャンプ（群馬県草津町）へ参加し，大学での学びを始める前に親睦の機会を持ち，3年生から，大学での授業の受け方や生活全般の説明を受けた。

(3) フレッシュマンキャンプの開催

令和6年4月8日～9日に、草津温泉にてフレッシュマンキャンプを開催いたしました。フレッシュマンキャンプには88名の新入生、9名の在校生と教員が参加しました。1日目は、簡単な自己紹介や、農学部3年生による大学生活の紹介を行いました。履修登録の方法や講義の受け方など高校とは異なる学内での生活の他、大学近隣での買い物情報など一人暮らしを始めたばかりの時期には有益な学外での生活についてわかりやすい説明でした。また、親睦を深めるために、小グループに分かれての交流会も行いました。交流会では3年生も交え、ゲームや履修の相談を行いました。2日目は湯畑散策、ハッ場ダムの見学などを行いました。

あいにくの雨天でしたが、これから始まる新生活に向け、よい準備ができました。



(4) 令和6年農学部保護者会を開催しました

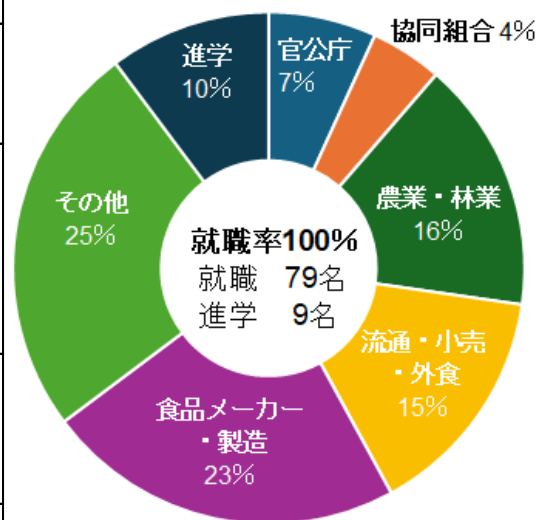
令和6年6月15日に、令和6年農学部保護者会を開催しました。今年より、対面のみでの開催だったこともあり、116名と多くの保護者の方に参加いただきました。また、今年はキャンパス見学にスマート農場も組み込み、保護者の方々に実習の場も見ていただきました。保護者の方からのアンケートでは、「農学部の方向性、カリキュラム etc.が分かったのが良かったです」や「健大で学び様々な事を経験し、卒業後どんな道に進むのか、とても期待が膨らみました。とても面倒見の良い大学だなと日々感じております。」などのコメントが寄せられました。

(5) 就職支援活動報告（令和6年5月）

【令和5年度卒業生の就職先・進路先】

令和6（2024）年3月卒業生（88名）の就職先・進学先は以下のとおりである。就職希望者（79名）の内定率は100%であった。

業 種	就職先・進学先
官公庁	群馬県／長野県／埼玉県／東吾妻町／岡谷市／秋田市
協同組合	高崎市農業協同組合／JA全農長野2名／榛名酪農業協同組合連合会
農業・林業	カネコ種苗4名／関東甲信クボタ／群馬県食肉卸売市場2名／東京シティ青果／アルプスアグリキャリア／林牧場／かいざわ農園／グリーンファームらぱん／関東地区昔がえりの会／アマリファーム
流通・小売・外食	ベイシア3名／ヨークベニマル2名／ファームドゥホールディングス／ツルヤ／カインズ／ベルク／マツモトキヨシグループ／ゼンショーホールディングス／TEAM SUPER BEST／ざくろホールディングス／チムニー／パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス／駒形どぜう／コメダ／クスリのアオキ／ワッツ／地粉そば処みのり
食品メーカー・製造	カゴメ／ロピア／クリハラ／グンイチパン／タマムラデリカ／ヨコオデリーフーズ／育風堂精肉店／原田／昭和食品／星野物産／浅間酒造／大根根漬／美峰酒類／かねふく／ハナマルキ／信州味噌／新進／仙波糖化工業／やまひろ／しのぶ食品／柏屋／シャトレゼ
その他	NEXUS 2名／WDBエウレカ社／アウトソーシングテクノロジ／こだわり／サンポウ／ジーシーシー／マイクロテック／一条工務店群馬／正和会／中央興業／ウラノ
進学	高崎健康福祉大学大学院農学研究科6名／宇都宮大学大学院地域創生科学研究科／埼玉大学大学院理工学研究科／福島大学大学院食農化学研究科



【学内企業説明会】《学部4年生・修士2年生向け》

・WDB株式会社エウレカ社

日時：令和6年4月26日（金）13:00～13:40／13:50～14:30

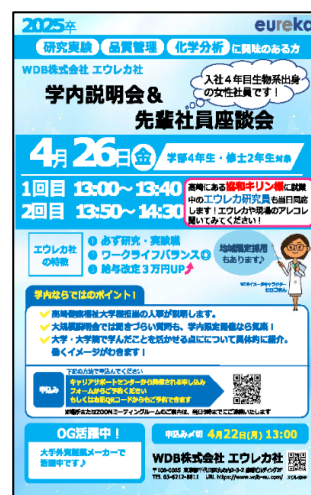
内容：学内説明会&先輩社員座談会

【農学研究科大学院生向け就職講座】《修士1年生向け》

日時：令和6年5月16日（木）15:00～16:00

場所：10号館207講義室

講師：提携している外部講師



（4月26日の告知チラシ）

(6) 就職支援活動報告（令和7年2月）

【令和6年度 農学部2年生 就職アンケート 回答数：80名】

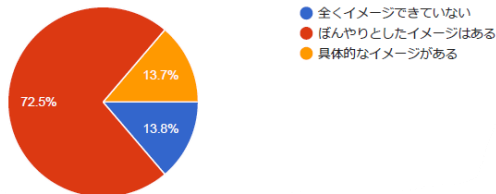
農学部は、他学部のような国家資格取得をベースにした就職活動と異なり、1期生・2期生の就職先の職種を見ても、非常にバリエーションに富んでいるという特徴があることから、CSCと連携して、1年次から就職を意識したサポートをしています。

今回は、2年生を対象に、就職・進学に関する意識調査を行いました。このアンケートの目的は、2年生における就職・進学の意向把握はもちろんですが、最大の目的は、アンケートに答えるという行為によって、自らの就職を具体的なかつ強制的に考えるきっかけを作ることにあります。

結果の一部を抜粋でご報告いたします。

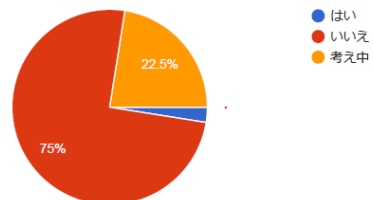
1.設問(1) 今、自分がやりたい仕事（進学も含めて）についてどのくらいイメージできていますか。

80件の回答

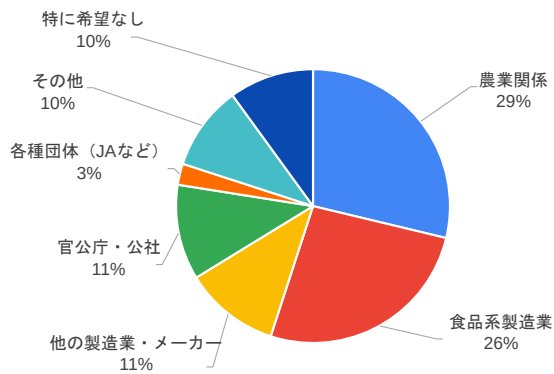


1.設問(2a) 学部卒業後に大学院への進学を考えていますか。

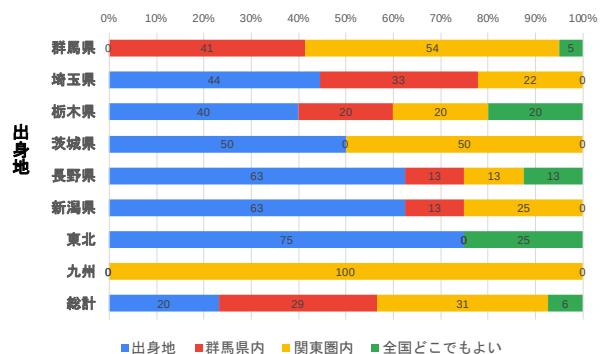
80件の回答



今、働きたいと思う職種



学生の出身地別の希望勤務地



【令和6年度 農学部就活直前講座（3年生向け）】

いよいよ26年春卒の学生の就活が本格化することから、CSC主催により、3年生を対象とした就活直前講座を開催しました。

日 時：令和7年2月6日（木）13:00～14:00

場 所：10号館201講義室

主 催：CSC

内 容：「就活解禁前に知っておきたいこと」

講 師：提携している外部講師

参加者：3年生 31名

3年生
対象

対象
特典あり

就活解禁前に 知っておきたいこと

農学部生限定★就職ガイダンス

2月6日 木

13:00-14:00
(14:30まで教室は開放)

元人事担当者が本場まで知るべきことを短時間でお伝えします。
就活に不安な方、自信を持って挑みたい方は、是非ご参加ください。

会場 10号館201講義室

講師 株式会社マイナビ キャリアサポーター

特典 予約リストを活用の方などに
モバイルバッテリーやこれだけは絶対に
欲しい就活NG書をプレゼント
※対象ワークブック配布のみ

主催：高崎健康福祉大学
協力：マイナビ2026

(7) 農学家実就職率 2年連続全国1位となりました

進路指導ご担当者様

進学資料としてご利用ください
配信を希望されない場合は、お手数ですが、弊社までご連絡ください。

UNIVPRESS NEWS

発行:大学通信 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2-3 tel.03-3515-3591 fax.03-3515-3558
https://www.univpress.co.jp/ e-mail:news@univpress.co.jp

2024年 9月10日号

農学系実就職率 2年連続全国1位
高崎健康福祉大学 農学部

大学通信集計の学部系統別実就職率で、高崎健康福祉大学農学部が第1期卒業生から2年連続第1位、しかも今年度は100%と高い実績を挙げている。これは高崎健康福祉大学が質の高い教育と学生指導を行う結果であるが、特に入学定員28人に1人の専任教員が存在する少人数教育の成果が大きいだろう。

改めてランキングを見ると国立大学が多くを占めるものの、昨年は上位10大学中私立大学が3大学、今年は5大学と増加している。農学の学びが広く普及してきた表れともいえる。

現代の農学は農業などの第1産業、工業などの第2産業、サービス・流通業などの第3産業全ての分野を含む「6次産業」と言われ、食料の生産加工・流通消費から地産地消や自然保護、地域活性化まで関連している。学問分野で言えばマーカー、バイオマーカー、ノックアウト、遺伝子工学、アグリビジネスなど多岐にわたっており、就職先も研究職や公務員から一般企業まで幅広く、将来性のある分野でもある。SDGsや持続可能な社会の実現に貢献できる分野として注目されている。

順位	区分	大学	所在地	学部	実就職率
1	私立	高崎健康福祉大学	群馬県	農学部	100%
2	私立	名城大学	愛知県	農学部	97.9%
3	公立	秋田県立大学	秋田県	生物資源科学部	97.6%
4	私立	中部大学	愛知県	応用生物科学部	97.6%
5	私立	鎌倉大学	東京都	農学部	97.5%
6	国立	山口大学	山口県	農学部	96.6%
7	国立	神戸大学	兵庫県	農学部	95.2%
8	国立	三重大学	三重県	生物資源科学部	94.8%
9	国立	福島大学	福島県	農学部	94.8%
10	私立	東京工科大学	東京都	応用生物科学部	94.7%

取り上げられることもあり、高校生という層から「農学」という言葉を意識している。自分が興味のある分野を学んでみたいという気持ちも、農学部で学ぶ分野がある。これが現代の農学部でもある。

学部系統別実就職率はこちら(大学通信集計)



高崎健康福祉大学

農学部
生物生産学科
農学部
農学科

保健医療学部
看護学科
理学療法学科
人間発達学科
子ども教育学科

健康福祉学部
社会福祉学科
医療福祉学科
健康栄養学科

問い合わせ先)入試広報センター 027-388-1070(直)
〒370-0033 群馬県高崎市中大門町37-1 https://www.takasaki-u.ac.jp/

(8) 農学部資格取得状況

《卒業予定者》

	生命科学 コース	作物園芸システム コース	フードサイエンス コース	アグリビジネス コース	合計
卒業予定数	21	21	15	6	63
食品衛生管理者 および 食品衛生監視員	15	9	15	4	43
食の6次産業化 プロデューサー	8	12	6	6	32
HACCP 管理者	21	21	15	3	60

《在学生》

資格名	2年生	3年生	合計
日本農業技術検定 3級	3		3
日本農業技術検定 2級		5	5

(9) 令和5年度海外日本食事情演習 実施報告

海外における日本食の普及は、日本の農業や食品産業にとって新たな展開が期待される市場であり、こうした海外の実態を体験することは、これから農業、食品産業、行政等で活躍したい者にとって、きわめて有益であると考えられる。本演習の目標は、実際に海外現地を訪問して、訪問先国における日本食の普及状況やフードサービス産業について理解を深めることである。

本演習はコロナ禍で開講の中止を余儀なくされていたが、令和5年度にはじめて農学部2年生10名を対象に開講した。令和5年度の実施内容は以下のとおりである。

【実施概要】

渡 航 先：シンガポール

渡 航 期 間：令和6年2月18日（日）～2月22日（木）

受 講 学 生：農学部2年生10名（引率教員2名）

事前・事後学習：渡航前後に10回の学内学習を実施
現地演習の内容：現地専門家による講話、現地での視察・見学

*講師…日本産品輸入卸売業代表取締役、
食品アップサイクル企業代表取締役、
在シンガポール日本国大使館一等書記官、
投資ファンド代表取締役

*視察・見学先…MEIDI-YA STORE（日系小売店）、
Cold Storage（現地ローカルスーパー）、
日本食レストラン（複数）、
Suntec City（ショッピングモール）、
学生による自主視察見学先（複数）他

【成果報告会の開催】

開 催 日：令和6年4月5日（金）13:00～14:30

会 場：10号館203講義室

参加者数：23名

（学生：13名、教職員：7名、学外：3名）

令和6年4月5日（金）に令和5年度海外日本食事情演習の成果報告会を開催した。報告会には農学部2～4年生13名に加えて、本学国際交流センター職員や群馬県農政部の方も参加され、報告会の後は活発な質疑応答が行われた。



海外の日本食事情報告

高崎健大
農学部学生
現地調査報告

【べんま】高崎健康福祉大学農学部は5日、高崎市の同大構内で、海外の日本食事情を調査する演習に参加した学生10人がシンガポールで調査、現地の小売店や日本食店での日本産食品・農産物の取り扱い状況などを報告した。品質は高いと認識されている一方、高級食材のため売り場面積に限られていた。同大によると、海外の日本食事情に着目し、現地で調査する演習は全国的に珍しい。

現地調査は2月18～22日に行った。学生は渡航する前に日本産農産物の輸出状況などを学んだ上で、調査に臨んだ。

報告会で学生は、シンガポールで日本産食品の品質は高いと認知されていることを紹介。健康志向の高まりもあり、ヘルシーな日本食に注目が集まっていると報告した。

現地で日本産農産物は高級食材として販売されていることもあり、中国産や韓国産と比較して売り場面積は限定されている傾向にあった。中国産のミカンのパッケージに「愛媛」と表示されているなど、日本産と誤認させるような形で販売されている例も散見されたという。

引率した齋藤文信准教授は「農産物の輸出実態を把握することは重要だ」と話した。

令和6年4月6日（土）日本農業新聞
ワイド1北関東 11 ページ

(10) 令和6年度海外日本食事情演習 実施報告

海外における日本食の普及は、日本の農業や食品産業にとって新たな展開が期待される市場であり、こうした海外の実態を体験することは、これから農業、食品産業、行政等で活躍したい者にとって、きわめて有益であると考えられる。本演習の目標は、実際に海外現地を訪問して、訪問先国における日本食の普及状況やフードサービス産業について理解を深めることである。

令和6年度の本演習は、令和5年度に続き2回目の開講であるが、開講時期を2月（春季休業中）から9月（夏季休業中）に変更して実施した。令和6年度の実施概要と成果報告会の内容は、以下のとおりである。

た。講師陣からは、学生たちは積極的なグループワークにより、より安全な食品を製造することができる HACCP プランを構築しているとの講評をいただきました。



日程	8 月 7～9 日 (9:00～17:00)
対象者	履修科目制限による生物生産学科 3 年生および 4 年生の受講希望者
参加人数	3 年生 49 名 (51 名) 4 年生 7 名 (7 名) ※ () は申込者数
研修内容	梅干し入りおにぎりを製造する食品工場を想定し、主として班ごとに設定した製造工場における危害分析および重要管理点の検討を実施した。

(12) 高校生論文コンテスト 2024 実施報告

高校生論文コンテスト 2024 では「SDGs で協調する社会—私たちの提案・実践—」というテーマで論文を募集し、全国から 345 件の応募がありました。審査の結果、下記のとおり学長賞 1 件、優秀賞 2 件、学校賞 2 件が選考され、令和 6 年 11 月 22 日に本学ホームページで公表するとともに、令和 7 年 1 月 29 日に Zoom によるオンライン形式で表彰式を開催しました（敬称略）。

なお、学長賞と優秀賞の 3 件に加えて、最終選考に進んだ 7 件の論文については、惜しくも受賞には至りませんでしたが、お名前と論文タイトル等をホームページに掲載しました。

■学長賞

草場 美海さん（渋谷教育学園幕張高等学校 2 年）
「布ナプキンは生理の貧困の解決に活かせるのか」

■優秀賞（五十音順）

- ・金指 沙絵さん（横浜共立学園高等学校 2 年）
「STOP 児童労働（発展途上国の子供の児童労働と教育問題解決への探求）」
- ・小松 凌大さん・水野 陽向さん・薬師神 杏美さん（愛媛県立宇和島東高等学校 3 年）
「地域のコメの消費量 up を目指して」

■学校賞（五十音順）

狭山ヶ丘高等学校、高崎健康福祉大学高崎高等学校

令和 7（2025）年 2 月 4 日
高崎健康福祉大学農学部
アグリビジネス研究室



石田朋靖 学長（賞状 授与）



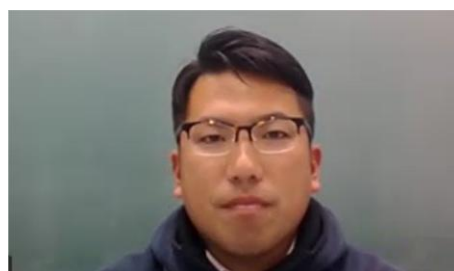
学長賞 草場美海さん
(渋谷教育学園幕張高等学校 2 年)



優秀賞 小松凌大さん・水野陽向さん・薬師神杏美さん
(愛媛県立宇和島東高等学校 3 年)



学校賞 狭山ヶ丘高等学校 (河野展寛 先生)



学校賞 高崎健康福祉大学高崎高等学校 (櫻井浩貴 先生)

(13)「高校生自由研究コンテスト 2024」実施報告

実施日：令和6年10月19日

今年で3年目を迎えた高校生自由研究コンテストは「食と農に関わるテーマ」に、自然探究的な学びの発表の場を提供するとともに、自然科学への関心や知見を深めるため、優秀な自由研究に奨学金を授与して顕彰することを目的としています。

北は北海道、南は山口県から、計51演題の応募がありました。応募作品の審査基準として、高校生らしいユニークな視点があるか？論理的に研究内容をまとめているか？分かりやすくポスターに表現しているか？になります。これらの基準をもとに審査を行いました。

応募のあった研究テーマは環境・化学・生物・生産などにわたり、新鮮な視点と着想から地域のことや身近にあることをテーマにした内容が多かったと感じます。また、難しい研究手法ではなく、同じ高校生が参考にしやすい工夫があったと思います。

審査の結果、研究の発展性や分かりやすさ優秀であると判断した2演題に学長賞並びに学部長賞と、審査員特別賞1演題を選びました。

遠方であることや模試だったこともあり、受賞した生徒たちの事情を優先し、全ての表彰がオンラインで実施しました。

＜学長賞＞ かびを生やさずきのこを作ろう ～コーヒー殻を使ったカビ抑制～

田野口 瑠実、木村 舞桜、沓掛 純伶、宮下 紗楽

(長野県屋代高等学校)

＜学部長賞＞ 四万十川における農業排水による濁水化の改善

薬師寺 晃久、江里 文花、中井 千聖、村田 萌桃

(愛媛県立宇和島東高等学校)

＜審査員特別賞＞ 国産ハチミツの抗菌作用に関する研究



学長賞：田野口 瑠実、木村 舞桜、
沓掛 純伶、宮下 紗楽
(長野県屋代高等学校)



学部長賞：薬師寺 晃久、江里 文花、
中井 千聖、村田 萌桃
(愛媛県立宇和島東高等学校)



審査員特別賞：松原 六花、植村 美羽、岡本 唯菜、
小野 鈴央真、唐川 風伎、高橋 紫音
(北海道静内農業高等学校)

(14) 第2回 生物生産学科ホームカミングデー報告書

実施日時	西暦 2024 年 10 月 19 日
活動内容	第2回生物生産学科ホームカミングデーは1部を高崎健康福祉大学10号館学生実験室（基礎）を使用した研修会とし、2部として同会場を使用した同窓会生と教員、准同窓会生との交流を目的とした懇談会を行った。本会には同窓会員15名、教員19名、在学生35名の総計69名が参加した。 研修会は、生物生産学科の辻聡 講師が担当し、群馬県内で製造される伝統食品を題材とした講演および官能検査を行った。群馬県の特産品であるこんにゃくを使用した料理である「こんにゃく味噌おでん」を題材に、複数の味噌を用いて作成した味噌だれの官能検査と共に、地域による味や性質の違いを学ぶ機会を提供した。 懇談会では参加した同窓生間だけでなく、教員および在学生を含め学年を超えた活発な交流活動が見られた。同窓生たちは久しぶりの母校での語らいの場を得たことに非常に喜んでいて。また、同窓会生は1期生、2期生共に参加しており、卒業後も大学とのつながりを維持しており、今後の同窓会活動にも意欲的であり、同窓会の更なる充実と隆昌を図る大きな効果が期待できる会であった。 本会は令和6年度高崎健康福祉大学同窓会活動助成を受けて開催されたものです。
写真	

(15) 農場水田で子ども教育学科と連携して健大附属幼稚園の田植えを実施しました

作物園芸システムコース 作物学研究室

令和6年7月4日に、農場水田において、生物生産学科（作物学研究室4年生、大学院生6名）、子ども教育学科の学生（2年生、58名）と健大附属幼稚園の年長さん（76名）で「田植え体験」を実施しました。今年も、農学部作物学研究室と附属幼稚園で準備を進めるとともに、子ども教育学科のご協力を得て、大塚恵美子先生の講義の一環（食農保育体験）として保育・教育コース2年生に参加いただき、大学生と園児が2人1組となり田

植えを行い、田植え後はどろ遊びも行いました。かなり気温が高い中での実施でしたが、トラブルなく田植えを終えることができました。

今後は、イネの生長観察や稲刈りについても、連携しながら実施予定です。



田植えの様子1



田植えの様子2



どろ遊びの様子

(16) 農場水田で健大附属幼稚園のイネ観察会、稲刈りを実施しました

作物園芸システムコース 作物学研究室

令和6年9月10日に、農場水田において、健大附属幼稚園年長さんのイネ観察会を開催しました。観察会では、作物学研究室の教員がイネについて説明したほか、園児さんたちからの質問に答えました。また、4年生2名、大学院生1名も参加し、実際にイネの穂に触って硬さなどを確かめました。

令和6年10月16日には、生物生産学科(作物学研究室3・4年生、大学院生:18名)と健大附属幼稚園の年長さん(76名)で「稲刈り」を実施しました。みんなで協力し、上手に刈り取りできました。また、コンバインの見学や、コンバインに乗っての記念撮影も実施しました。収穫したお米の一部は、化学肥料と農薬を慣行栽培の1/2とした特別栽培米として、群馬県の認証シールを添付して藤龍祭(10/19～20)で販売しました。藤龍祭当日は、一緒に田植えや稲刈りをした附属幼稚園の園児さんが、お米を買いに来てくれました。今後、収穫したお米を幼稚園にお届け予定なので、自分たちで収穫したお米の味を確かめてもらえると嬉しいです。



コンバイン収穫の見学



藤龍祭で附属幼稚園の園児さんが
お米を購入してくれました

9. 生物生産学科ホームページ News & Topics

*農学部セミナー、外部との連携協定及び大学評議員会報告と重複のない記事を以下に示す。

令和6年度農学部優秀学生表彰を行いました（2024/4/8） 学生活動

令和6年4月3日（水）に、農学部優秀学生表彰の表彰式が行われました。優秀学生表彰制度は、学習に励み優秀な成績を収めた学生などを表彰する制度で、今年度の農学部からは林さんが選ばれました。優秀学生の林さんには、学部長の大政謙次教授から賞状と副賞が授与されました。林さん、おめでとうございます。



大政謙次農学部長が春の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました（2024/5/1） お知らせ

大政謙次農学部長が、令和6年春の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。平成25年春の紫綬褒章に続くご受章となります。

大政謙次農学部長は、農学、特に生物環境情報工学の分野において、植物の構造や環境応答の画像計測と解析診断に関する研究、植生機能リモートセンシングと空間情報解析に関する研究、また、その研究基盤となる植物環境実験施設などの情報化に関する研究などで、この分野のパイオニアとして、国際的に高く評価される優れた業績を挙げ、当学問分野の発展に大きくご貢献されました。

内閣府、令和6年春の叙勲等

<https://www8.cao.go.jp/shokun/hatsurei/r06haru.html>

農林水産省関東農政局の就職説明会を開催しました（2024/4/17） 学生活動

令和6年6月6日（木）、10号館201講義室にて農林水産省関東農政局の就職説明会を開催しました。説明会では、農林水産省のミッションや農林水産業の課題・政策についてご紹介いただいたあと、関東農政局の職場環境や採用スケジュールについてご説明いただきました。

質疑応答には3名の若手職員にもご登壇いただき、学生に近い視点から就職活動へのアドバイスをいただきました。

当日は71名の学生が参加し、残って個別に質問する熱心な学生の姿もみられ、充実した説明会となりました。



農学部の実就職率が農学部門で2年連続全国1位になりました（2024/8/2） お知らせ

大学通信社が集計する学部別系統就職率の「農学」分野において、本学農学部は昨年に引き続き例年上位を占める国公立大学を抑え、2年連続で全国1位となりました。

就職先も、群馬県職員、長野県職員、市町村職員の他、「食と農」に関わる生産・加工・流通・研究技術開発など、多彩な業種となっています。本学農学部では、今後も「食と農」を中心に置き、サイエンスからビジネスまで多様な分野を学ぶことで、群馬県唯一の農学部として、DX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）社会をリードし、グローバルに活躍できる人材育成していきます。

設置の※印は国立、◎印は私立、無印は公立を表す
 大学通信 2024 年 学部系統別実就職率ランキング
 より引用
 詳しくはこちらをご覧ください。

<https://univ-online.com/article/career/27780/>

順位	設置	大学	学部	所在地	実就職率 (%)	卒業生数	就職者数	大学院 進学率
1	◎	高崎健康福祉大	農	群馬	100.0	88	79	9
2	◎	名城大	農	愛知	97.9	298	236	57
3		秋田県立大	生物資源科	秋田	97.6	160	120	37
4	◎	中部大	応用生物	愛知	97.6	318	280	31
5	◎	麗谷大	農	京都	97.5	440	388	42
6	※	山口大	農	山口	96.6	106	57	47
7	※	神戸大	農	兵庫	95.2	159	40	117
8	※	三重大	生物資源	三重	94.8	259	147	104
9	※	福島大	農学部	福島	94.8	91	55	33
10	◎	東京工科大	応用生物	東京	94.7	253	197	45
11	※	岡山県立大	農	岡山	94.4	123	51	69
12	◎	東京農業大	応用生物科	東京	94.4	566	441	99
13		石川県立大	生物資源環境	石川	93.9	121	93	22
14	※	鳥取大	農	鳥取	93.9	247	154	83
15	◎	摂南大	農	大阪	93.9	294	245	33
16	※	信州大	農	長野	93.8	159	75	79
17		県立広島大	生物資源科	広島	93.6	119	88	25
18	◎	近畿大	農	大阪	93.5	645	471	141
19	※	宇都宮大	農	栃木	93.4	199	113	78
20	※	徳島大	生物資源産業	徳島	92.6	95	50	41

2024 夏のオープンキャンパスを開催しました（2024/8/30）

イベント・入試

7月27日（土）・28日（日）・8月17日（土）・8月18日（日）の4日間にわたって、2024 夏のオープンキャンパスを開催しました。農学部では、学科説明・入試説明、健大トーク、模擬授業、オープンラボ、農場・キャンパスツアー、個別相談など、さまざまな企画を実施し、4日間で約200名の高校生にご来場いただきました。

たくさんのご参加ありがとうございました。

参加者から以下のようなコメントをいただきました。

- ・（模擬授業が）高校の生物の授業より面白かったです。オープンラボで普段は見られないような場所にもいけて、参考になりました。
- ・親身に説明してくれて分かりやすかったです。
- ・オープンキャンパスに参加して、大学を知ることができ、大変良かったです。
- ・模擬授業が面白く楽しく受けられました。オープンラボ楽しかったです。
- ・ビニールハウスで靴が汚れないなんてすばらしい！



農学部棟 入口



学部長挨拶



健大トーク



模擬授業



キャンパスツアー



オープンラボ（地域連携室）

高大連携パートナーシッププログラム「ドローンの操縦を学ぼう」を実施しました（2024/9/9）

地域・研究活動

令和6年6月3日（月）および4日（火）に高大連携パートナーシッププログラムの一環として、農業情報システム学研究室教員により、「ドローンの操縦を学ぼう！」を実施しました。

参加者はドローンに関わる法律やドローン飛行時のルールの説明を受けたのち、ドローンの操縦法の学習とドローンのフライトシミュレータを体験したあと、次の日にドローンの飛行体験に臨みました。高崎健康福祉大学高崎高等学校の2年生2名が参加しました。

参加者からは、ドローンやフライトシミュレータに関して、積極的な質疑がありました。



令和6年度 広げる未来プロジェクトが行われました (2024/9/19) 地域・研究活動

令和6年7月13日(土)に、高大連携事業である「高崎健康福祉大学 広げる未来プロジェクト」が開催されました。これは県内および近県の高校生を対象として実施されたイベントであり、当日は3名の高校生が参加しました。

農学部には生命科学、作物園芸、フードサイエンス、およびアグリビジネスの4つのコースが設置されており、その中でも今回は、フードサイエンスコースにかかわる食の安全および安心に関するプログラムを企画しました。

当日は、農学部でも選択科目として用意されている食品衛生学および食品安全学の中から、食器や器具の不衛生な取り扱いによる食中毒について紹介した後に、「食器がきれいに洗浄できているか確認してみよう」というテーマで食器洗浄に関するプログラムに取り組んでももらいました。参加した生徒に食後の食器に見立てた小皿を実際に洗浄してもらい、どこに汚れが残るのか、また、どのような汚れが残っているのかを様々な試薬などを用いて確認してもらいました。参加した生徒にとっては、汚れた食器の取り扱い方により、洗浄不足が生じる可能性があることが理解できて参考になったようです。

今回のプログラムは、農学全体からするとごく一部の体験実習ではありますが、これらのことを通じて農学という学問に少しでも興味をもってもらえるとうれしく思います。



高大連携パートナーシッププログラム「光る細胞を観察しよう」を実施しました (2024/9/23)

地域・研究活動

高大連携パートナーシッププロジェクトを6月13日(木)に開催しました。今回は、生命現象を分子レベルで理解することを目的とし、「光る細胞を観察しよう」というテーマで、基礎生命科学研究室の岡本健吾准教授の指導により実施しました。

初めに講義室でスライドプロジェクターを用いて、生命科学研究で活用されている細胞培養の技術や遺伝子組換えの実験技術についての解説を聴講してもらいました。その後、研究室へ移動し、実体顕微鏡と蛍光顕微鏡を用いて細胞を観察してもらいました。顕微鏡観察によって、ヒトの培養細胞内でクラゲの遺伝子である緑色蛍光タンパク質 (GFP) が発現していることを観察しました。さらに導入した遺伝子 (GFP 融合タンパク質) によって、細胞内での発光している場所が異なることも観察しました。

参加した生徒からは次のようなコメントをいただきました。

- ・細かい観察ができて興味が湧きました！楽しかったです。
- ・とても楽しくわかりやすい講座でした。培養液の味が気になりました。
- ・先生方や先輩の学生の方々が、講座での疑問点などを質問すると親切にわかりやすく説明してくださったのがとてもありがたかった。講座の内容にも非常に興味を惹かれ、もっと生物生産学科ではどのようなことを学べるのかを知りたいと思った。また、技術によって作り出された新たな発見や進歩があるということを知れ、嬉しく感じた。このような貴重な体験をさせていただき誠にありがとうございました。
- ・講師の先生がとても親しみやすく、いろいろな質問をすることができ、とても充実した1時間でした。また、普段は見ることができないような専門器具を見学することができてとても楽しかったです。光る細胞を実際に見ることができて、すごく感動しました。貴重な授業と体験を受けることができ、本当に嬉しく思います。

今回の講義を通して、参加した高校生たちにとっては生命科学研究への関心を持つきっかけになったと思います。大学教員による専門的な学びを体験することは、大学進学や進路選択を考える上で有意義なことですので、より一層の充実を図っていきたいと考えています。



農場の水田で健大附属幼稚園の田植え・イネ観察を実施しました (2024/9/30) 地域・研究活動

令和6年7月4日に、農場の水田で健大附属幼稚園の田植え体験を行いました。昨年に引き続き、田植えは生物生産学科、子ども教育学科、健大附属幼稚園が、イネ観察は生物生産学科作物学研究室と健大附属幼稚園のコラボ企画で実施しました。

田植えは、農学部からは作物園芸システムコースの9名の学生(4年生、大学院生)が、子ども教育学科からは保育・教育コースの59名の学生さん(2年生)が、健大附属幼稚園からは76名の園児さん(年長さん)が参加しました。

農学部の学生は、これまでの経験を活かし、圃場や苗の準備のほか、田植え作業の仕方を積極的に教えていました子ども教育学科の学生さんたちは、講義の一環として、園児さんとともに食農保育体験を実践しました。田植えの後は、大学生も園児さんたちも力いっぱい泥遊びを楽しみました。

令和6年9月10日には、園児のみなさんが農場水田で田植え後のイネの観察を行いました。水田の様子のほか、作物学研究室内の学生とイネの穂を実際に手に取って観察したりしました。また、質問をたくさん用意してくれました。

11月には、稲刈りを実施する予定です。



一株ずつ丁寧に田植えをしました



稲穂を触って観察しました

タカノフーズ株式会社への研究開発支援を開始しました (2024/10/15) 地域・研究活動

タカノフーズ株式会社への研究開発支援を開始しました。詳細は以下をご確認下さい。

<https://www.fbv.fukuoka.jp/news/タカノフーズ株式会社への研究開発支援を開始し/>

令和6年度・第15回キャリアアップ講座(生物生産学科)を開催しました (2024/10/28) 学生活動

令和6年10月24日(木)に生物生産学科3年生を対象とした令和6年度・第15回キャリアアップ講座として、株式会社ユーグレナ共同創業者兼エグゼクティブフェローの鈴木健吾先生をお招きし、「ユーグレナの研究開発と社会実装」と題した講座を開催しました。講座ではキャリア形成の戦略から研究、社会実装に関する幅広い話題についてお話し頂きました。講座には3年生だけでなく、1・2年生や修士課程の学生などを含め計70名が参加しました。



農場の水田で健大附属幼稚園の稲刈りを実施しました (2024/11/6) 地域・研究活動

健大附属幼稚園の園児さんたちが7月に田植えをし、9月にイネの生長観察を行ってきた農場の水田で、令和6年10月16日に稲刈りを行いました。稲刈りは、生物生産学科園芸システムコース作物学研究室と健大附属幼稚園で実施しました。作物学研究室からは学生18名(3・4年生、大学院生)が、健大附属幼稚園からは年長76名さんが参加しました。みんなで協力し、上手に刈り取りできました。

収穫したお米は、化学肥料と農薬を慣行栽培の1/2とした特別栽培米として群馬県から認証を取っており、認証シールを添付して、作物学研究室内の学生が藤龍祭(10/19~20)で販売しました。藤龍祭当日は、一緒に田植えや稲刈りをした附属幼稚園の園児さんが、お米を買いに来てくれました。今後、収穫したお米を幼稚園にお届け予定なので、自分たちで収穫したお米の味を確かめてもらえると嬉しいです。



高校生論文コンテスト2024 審査結果 (2024/11/22) お知らせ

高校生論文コンテスト2024では「SDGsで協調する社会—私たちの提案・実践—」というテーマで論文を募集しましたが、全国から345件の応募がありました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

この345件の応募論文を本論文コンテスト審査委員会において厳正かつ公平に審査した結果、学長賞1件、優秀賞2件、学校賞2件が選考されました。

受賞論文と受賞校は次のとおりです。審査過程で高評価となったポイントについては、[講評 \(PDF\)](#)をご覧ください。また、学校賞については、ご指導いただいた先生にも厚くお礼申し上げます。

■学長賞

草場 美海さん (渋谷教育学園幕張高等学校2年)

「布ナプキンは生理の貧困の解決に活かせるのか」

■優秀賞 (五十音順)

金指 沙絵さん (横浜共立学園高等学校2年)

「STOP 児童労働 (発展途上国の子供の児童労働と教育問題解決への探求)」

小松 凌大さん・水野 陽向さん・薬師神 杏美さん (愛媛県立宇和島東高等学校3年)

「地域のコメの消費量upを目指して」

■学校賞 (五十音順)

狭山ヶ丘高等学校 高崎健康福祉大学高崎高等学校

なお、惜しくも受賞には至りませんでしたが、次の7論文が最終選考に進みました。お名前と論文タイトル等を掲載することで、健闘を称えたいと思います (五十音順) ※。

■最終選考に進んだ論文 (五十音順)

佐竹 舞音さん (栃木県立矢板東高等学校2年)

「オーバーツーリズムの緩和を促進するアプリケーションの提案」

澤口 龍真さん (東京電機大学高等学校2年)

「災害時のアレルギー患者の現実—SNS を利用し安心と安全な避難生活を—」

内藤 遥さん (狭山ヶ丘高等学校2年)

「「ハウスワークシェアリング」で新しい男女のイメージを」

林 美希さん (UWC ISAK Japan 3年)

「ガラスの地球を優しく扱え！」

林田 彩里さん (鹿島朝日高等学校3年)

「プリキュアとジェンダー」

二井 春香さん (渋谷教育学園渋谷高等学校2年)

「ショートヘアの女性立候補者は当選率が高いのか」

柳澤 心愛さん (高崎健康福祉大学高崎高等学校1年)

「ジェンダー平等」

※他のコンテストで受賞作となった論文は応募資格に抵触するため候補から外しています。他のコンテストにも応募して受賞作となった場合は、速やかにその旨を当コンテスト事務局に報告してください。

JA 群馬中央会からゲストスピーカーをお招きしました (2024/11/25) 学生活動

令和6年11月20日(水)の「現代農業事情」(1年生開講科目)に、JA 群馬中央会からゲストスピーカーをお招きして、JA の役割や事業・活動についてご講演いただきました。なお、今回の講義は JA グループ群馬との相互連携協力の推進に係る協定に基づき、JA 群馬中央会のご協力により実施されました。



関東農政局によるセミナーと意見交換会を実施しました (2024/12/16) 学生活動

令和6年11月28日(木)に、農林水産省関東農政局によるセミナーおよび意見交換会を本学農学部で実施しました。

前半は、「未来の子どもたちに食と環境をつなぐため私たちに何ができるのか」をテーマに、滝沢将史 持続的食料システム戦略推進官にご講演いただき、みどりの食料システム戦略の概要と環境負荷低減の取組状況等についてご説明いただき



ました。参加した学生からは、みどり認定のメリットや地産地消の取組みについて質問がありました。

後半は、関東農政局若手職員の食ミラプロジェクトメンバーがファシリテーターとして加わり、参加学生たちを3グループに分けたグループ討議を行いました。講義内容を踏まえて事前に用意された6テーマの中から興味のあるテーマを学生が選び、みどり戦略に係る周知方法等について活発な討議が交わされました。グループ発表では学生ならではの観点から、有機農産物の周知方法など説得力のある意見が多数出され、大変有意義な時間になりました。

食ミラプロジェクトについては、[こちら](https://www.maff.go.jp/kanto/kikaku/syokumira_project.html)をご覧ください。

https://www.maff.go.jp/kanto/kikaku/syokumira_project.html

「食品表示セミナー」を開催しました（2025/1/6） 学生活動

令和6年12月19日（木）に、本学10号館（農学部棟）201講義室において、消費者庁より講師お二人をお招きし、「食品表示セミナー」を開催しました。本セミナーには学生や教職員を中心に、61名の参加がありました。

セミナーでは、食品表示法および食品表示基準に関する基礎的な解説をはじめ、以下のような内容が取り上げられました。

- 1.食品表示法・食品表示基準
- 2.食物アレルギー表示について
- 3.保健機能食品について

さらに、紅麹関連製品に関する最近の食品表示に関するトピックなど、最新の動向に触れる内容も提供され、参加者の関心を集めました。

講師の実務に基づいた具体的な事例紹介や丁寧な解説により、食品表示に関する知識を深める機会となり、多くの参加者から好評をいただきました。

今後も、本学では食品分野に関する学びを深める機会を提供してまいります。ご協力いただいた消費者庁の方々と、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



高校生論文コンテスト2024 実施報告（2025/2/27） お知らせ

高校生論文コンテスト2024では「SDGsで協調する社会—私たちの提案・実践—」というテーマで論文を募集しましたが、全国から345件の応募がありました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

審査の結果、下記のとおり学長賞1件、優秀賞2件、学校賞2件が選考され、令和6年11月22日に本学ホームページで公表するとともに、令和7年1月29日にZoomによるオンライン形式で表彰式を開催しました（敬称略）。

■学長賞

草場 美海さん（渋谷教育学園幕張高等学校2年）

「布ナプキンは生理の貧困の解決に活かせるのか」

■優秀賞（五十音順）

金指 沙絵さん（横浜共立学園高等学校2年）

「STOP 児童労働（発展途上国の子供の児童労働と教育問題解決への探求）」

小松 凌大さん・水野 陽向さん・薬師神 杏美さん（愛媛県立宇和島東高等学校3年）

「地域のコメの消費量upを目指して」

■学校賞（五十音順）

狭山ヶ丘高等学校 高崎健康福祉大学高崎高等学校

なお、学長賞と優秀賞の3件に加えて、最終選考に進んだ7件の論文については、惜しくも受賞には至りませんでしたが、お名前と論文タイトル等をホームページに掲載して健闘を称えています。応募していただいた高校生みなさん、ならびにご指導いただいた先生方に、あらためて厚くお礼申し上げます。



学長賞 草場美海さん
(渋谷教育学園幕張高等学校2年)



優秀賞 小松凌大さん・水野陽向さん・薬師神杏美さん
(愛媛県立宇和島東高等学校3年)



学校賞 狭山ヶ丘高等学校 (河野展寛 先生)



学校賞 高崎健康福祉大学高崎高等学校 (櫻井浩貴 先生)

令和7（2025）年2月4日
高崎健康福祉大学農学部
アグリビジネス研究室

学生優秀発表表彰を受賞しました（2024/3/11） 地域・研究活動

令和7年3月7・8日に京都大学で開催された第18回クラミドモナス研究会に生物生産学研究科修士1年生の島田 英和さんが参加しました。これまでの研究結果をポスターで発表し、学生優秀発表賞を受賞しました。



2025 春のオープンキャンパスを開催しました（2025/3/14） イベント・入試

3月8日（土）に2025春のオープンキャンパスを開催しました。

農学部では、学科説明・入試説明、健大トーク、模擬授業、オープンラボ、農場・キャンパスツアー、個別相談など、さまざまな企画を実施し、約30名の高校生にご来場いただきました。たくさんのご参加ありがとうございました。



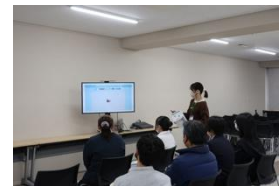
健大トーク



健大生・卒業生への質問コーナー



オープンラボの様子



オープンラボの様子

日本農業技術検定に合格しました（2025/3/25） 学生活動

日本農業技術検定協会主催の令和6年第2回日本農業技術検定学科試験が、昨年12月7日（土）に本学農学部を団体受験会場として実施されました。本学では、農学部の希望者10名が、1級・2級・3級にチャレンジしました。その結果、2級5名、3級3名が合格し、合格証書等が大政農学部長から合格者へ授与されました。

この検定は、大学で学んだ農業に関する実践的知識の修得水準を客観的に測定するもので、就職に向けたキャリアアップにも役立つことから、来年度も本学農学部生のチャレンジを期待しています。



健大こども大学「目指せ未来の研究者」を開催しました（2025/3/25） 地域・研究活動

今年度初めて、小学生のための職業体験プログラムとして「健大こども大学」を3月2日（日）に開催しました。農学部では、生命科学コースが担当して「目指せ未来の研究者」というプログラムを実施しました。

当日は、小学生12名（1～6年生）、保護者12名の参加がありました。参加児童は、白衣に身を包み、こども特別研究員として、化学実験、生物実験、人工いくら作りに挑戦し、見事「こども博士」の学位を取得しました。

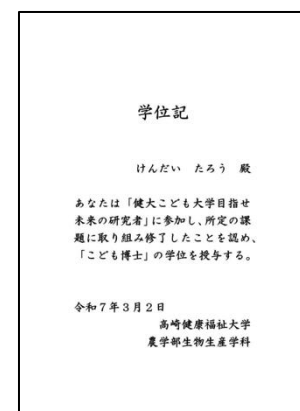
参加者アンケートでは、参加児童・保護者ともに非常に満足度の高い結果となり、この後の日本を担う「未来の研究者」の活躍が期待されます。



実験の風景



実験の風景



授与された「こども博士」学位記

10. 来訪者リスト

日付	来訪者	人数	来訪目的
2024/04/15	群馬県農業会議(全国農業新聞)	2名	地域連携室取材
2024/04/25	群馬県農政部	2名	地域連携に係る打ち合わせ
2024/04/26	群馬県農政部	2名	地域連携に係る打ち合わせ
2024/05/30	群馬県農政部	1名	地域連携に係る打ち合わせ
2024/06/11	高崎市農政部	2名	地域連携に係る打ち合わせ
2024/07/10	群馬県	1名	共同研究に係る打ち合わせ
2024/07/25	群馬県農政部	1名	インターンシップ打ち合わせ
2024/08/06	群馬県農政部	1名	地域連携に係る打ち合わせ
2024/08/22	群馬県	1名	共同研究に係る打ち合わせ
2024/09/3	J Aたかさき	3名	地域連携に係る打ち合わせ
2024/09/17	吾妻中央高校ほか	4名	令和7年度実験実習講習会に関する打ち合わせ
2024/09/26	群馬県農業会議	1名	地域連携に係る打ち合わせ
2024/11/01	群馬県	1名	共同研究に係る打ち合わせ
2024/11/28	J A赤城たちばな	2名	地域連携に係る打ち合わせ
2025/01/16	群馬県農政部・環境森林部	2名	地域連携に係る打ち合わせ
2025/02/21	高崎市役所農政部農政課	6名	生産現場での問題点の対応協議
2025/03/19	日本農業新聞、J A中央会	3名	連携に関する打ち合わせ
2025/03/24	群馬用土地改良区	1名	地域連携に係る打ち合わせ

11. メディア出演まとめ

新聞・雑誌掲載情報

掲載年月日	メディア	見出しなど	出演者等（敬称略）
2024/04/06	日本農業新聞	ワイド1 北関東 11 面 海外の日本食事報告 高崎健大農学部生 現地で調査 売り場に課題	2 年生 10 名、齋藤文信、谷頭子
2024/05/21	日本農機新聞他	令和 6 年度春の叙勲	大政謙次
2024/05/21	日本農業新聞	ワイド2 関東甲信越 10 面 農家の課題 解決へ 群馬県富岡市プロジェクト経営改善事例を発表	佐川友彦（客員准教授）
2024/06/04	日本農業新聞	「企業参入に注力」	齋藤文信
2024/06/21	全国農業新聞	8 面 「農業の魅力、学生に伝えたい」 初代地域連携室長で活躍	倉澤政則
2024/06/29	日本農業新聞	ワイド1 関東甲信越 11 面 学生がジビエ試食 群馬・高崎健大 狩猟サークル	3 年生 4 名
2024/06/29	上毛新聞	//	//
2024/07/31	日本農業新聞	ワイド2 北関東 12 面 県内唯一の農学部 GM 蚕の模擬授業も 群馬高崎健大で見学会（オープンキャンパス）	農学部教職員、石神靖弘
2024/08/07	上毛新聞	高崎健大農学部が実就職率全国 1 位 2 年連続	—
2024/08/20	上毛新聞	日刊 1 面 物価沸騰 変わる経済 ①食料品 「食肉関連 円安が直撃」	草薙仁
2024/09/13	日本農業新聞	県鳥獣被害対策支援センター及びジビエ肉 加工業者での見学会（狩猟サークル主催）	3 年生 1 名、倉澤政則
2024/09/19	日本農業新聞	ワイド2 北関東 8 面 食育は田植えから 群馬・高崎健康福祉大 2 学部連携し体験学習	人間発達学部・農学部学生約 70 名、 岡部麻子、大塚恵美子（人間発達学部教員）
2024/09/21	日本農業新聞	ワイド1 北関東 11 面 実就職率連続で首位 群馬・高崎健康福祉大農学部 農学分野唯一の 100%	—
2024/10/18	日本農業新聞	ワイド1 北関東 19 面 日本産の農作物人気 高崎健大がシンガポールで調査	学生・教員 15 名、齋藤文信
2024/11/12	日本農業新聞	ワイド2 関東甲信越 10 面 大学農学部生 2 人就業体験受け入れ 群馬・JA につつまどり	学生 2 名
2024/11/24	上毛新聞	内容：狩猟サークルの活動	3 年生 1 名、倉澤政則
2024/11/29	日本農業新聞	「みどり戦略」の出前講義 若手職員と討議も	2～4 年生の学生 11 名、齋藤文信
2024/12/13	上毛新聞	19 面 高崎市と高崎健康福祉大 農林業振興で連携協定締結	石田朋靖（学長）、大政謙次
2024/12/17	日本農業新聞	ワイド2 関東甲信越 10 面 農林業振興へ農学部と連携 群馬県高崎市 健康福祉大と協定	石田朋靖（学長）、大政謙次
2025/01/01	だんらん （マイケア）	日本人の腸はわがまま!?	岡田早苗
2025/01/07	日本農業新聞	ワイド1 北関東 11 面 高崎健大で JA 紹介 JA グループ群馬 若手が魅力語る	1 年生約 90 名、卒業生 2 名
2025/01/17	上毛新聞	野生動物の現状語る 高崎健康福祉大学でセミナー	倉澤政則
2025/01/18	日本農業新聞	ワイド2 首都圏 10 面 鳥獣被害の背景知って 群馬でセミナー	倉澤政則
2025/01/31	日本農業新聞	ワイド1 北関東 11 面 農系教育機関と連携強化 JA への要望など意見交換	—
2025/02/10	高崎市医療介護 連携相談センター	南大類コラム 補助犬についてのご理解をお願いします	石岡大成
2025/02/12	上毛新聞	元気+らいふ 2,3 月号 vol.96 もっと知りたい セロリのカリウム 神経や筋肉 正常に保つ	熊倉慧
2025/03/09	日本農業新聞	エリア北関東 11 面 最新ハウスつぶさに 群馬・高崎健康福祉大学 農学部オープンキャンパス	農学部教職員、大政謙次、石岡大成、 石神靖弘、卒業生 1 名、学生 2 名
2025/03/17	上毛新聞電子版	案内人が教えます ニュースのミカタ 「“令和の米騒動” はなぜ起きた？」（前編）	草薙仁
2025/03/18	上毛新聞電子版	案内人が教えます ニュースのミカタ 「“令和の米騒動” はなぜ起きた？」（後編）	草薙仁
2025/03/25	上毛新聞	経済 15 面 コメ高騰、備蓄米放出が後手 下落効果は「限定的」	草薙仁

ラジオ出演情報

放送日	放送局	番組	放送内容	出演者（敬称略）
2025/01/21	FM GUNMA	「POTLUCK」内コーナー「ユニラジ」	狩猟サークルの活動紹介	2年生1名
2025/01/28	FM GUNMA	「POTLUCK」内コーナー「ユニラジ」	農学部生物生産学科の紹介	3年生1名
2025/02/25	FM GUNMA	「news ONE」	農学部の様子や狩猟サークルの活動についての紹介	3年生1名
2025/03/03	FM GUNMA	「JA グリーンナビ」	〃	〃
2025/03/10	FM GUNMA	「JA グリーンナビ」	〃	〃
2025/03/17	FM GUNMA	「JA グリーンナビ」	〃	〃

映像メディア出演情報

放送日時	メディア	番組名	見出しなど	出演者（敬称略）
2024/07/04	NHK	あしたが変わるトリセツショー	「キムチ」のトリセツ	岡田早苗
2024/10/16	YouTube	高崎市内企業との共同商品開発	抗菌・抗カビ・抗ウイルス機能を発揮する分子 量制御キトサンの開発	石岡大成
2024/12/12	群馬テレビ	news eye8	高崎市と高崎健康福祉大―農林業振興や人材育 成で協定締結	大政謙次

高崎健康福祉大学農学部・農学研究科年報
令和6年度（2024年度）
第6号

発行日 2025年6月
編集 農学部年報委員会
加藤 寛
橋田 庸一
辻 聡
谷 顕子
熊倉 慧（広報委員）
大政 謙次（学部長・学科長・研究科長）
